

〔資料〕

無盡藏蓮體『續鑛石集』 翻刻と解題（四・完）

関口 静雄

〔解題Ⅱ〕寶山湛海のこと（其二）

※

貞享元年（一六八四）五月三日、寶山湛海は一山に所蔵する仏像および什物を取りまとめ『都史陀山大聖無動寺佛像并常住物記』（『寶山湛海傳記』（『史料集成』所収））を編じた。同年五月七日、湛海は南都西大寺の衆首尊海宛に大聖無動寺を西大寺の末寺たらんことを請うた證書を差し出しているから、それに添えるために作成したものと思われる。乞請はすぐに認められて、同五月十五日には西大寺衆首沙門尊信から、衆議によって大聖無動寺を西大寺の末寺として「山内列院之格」、すなわち塔頭寺院に準ずる旨の證書を受けた。

湛海が『都史陀山大聖無動寺佛像并常住物記』を編じたのは生駒山の中興事業が一段落し、大聖無動寺が他に比肩しうる梵刹と自任したからに相違なく、だからこそ如法真言律の河内葉樹山延命寺の覺彦淨嚴に依頼して『和州添下郡般若窟之記』（『妙極堂遺稿』^{（七）}、貞享元年条）を書かしたのであり、西大寺と本末を取り結ぼうとしたのである。このころすでに湛海の行実が比類なく顕著であったことや、大聖無動寺の寺勢が盛んであったことは、二年後の貞享三年（一六八六）八月二十六日に湛海が西大寺衆僧の推挙によって西大寺長老位に就いていることから明らかであろう。一山所蔵の仏像・仏画・仏具・聖経が二十六条にわたって記された『佛像并常住物記』には湛海の自負が垣間見られるようである。たとえば、

- 一、巖窟本尊彌勒慈尊銅像一軀長三尺餘坐像
右此形像者令法橋院達作模樣、使冶工某鑄之、自共諸弟子磨瑩莊飾之畢、施王者梶金平一雄也、
- 一、小舍利塔、所納細粒舍利百餘粒、皆白色也、本是高野山蓮花三昧院明遍從大師感得舍利也、小粒舍利三粒、元是大師自大唐請來、安東寺舍利也、予

在洛西桂宮院不慮得之、白色輪光舍利一粒、是亦大師賜佛隆寺堅慧法師舍利也、同細粒舍利二粒、此是婆羅門僧正傳來也、予寓桂宮院時有幸得之、右合六粒、有所存故混百餘粒舍利、而盛一匣矣、

一、秘密諸儀軌 目錄在別 大師御請來印本有之外悉備足焉、其外肝要諸儀軌、宋朝新譯等有之、

右密軌者、沙門契沖以淨嚴阿闍梨之本、數年之間、自書寫、少分使他寫本也、契沖來見勝地幽邃、歡喜而納之、彼淨嚴闍梨之本者、闍梨寓仁和寺別院般若寺時、借梅尾明慧上人法鼓臺藏本、寫取者也、其藏本所缺者處々覓而寫之、兼以大明與高麗藏本校合之、又有別本借之校讐、如此備者世所希也、後人護之、如眼精堅、莫出山外、

等々とあって、般若窟の本尊銅造弥勒菩薩坐像の施主が大和郡山藩本多家の家老梶金平一雄だと明かして、大聖無動寺には有力な外護者が存することを示したのをはじめ、小舍利塔に納められた百余粒の舍利が高野山蓮華三昧院明遍所持の弘法大師感得の舍利・大師請來東寺安置の舍利・大師授与仏隆寺堅慧所持の舍利・婆羅門僧正菩提僊那傳來の舍利であるなどと、その傳來が由緒正しいものであることを詳述し、また密教寺院として充分の秘密儀軌を所蔵していると記している。ことに儀軌は洛北梅尾高山寺明慧上人法鼓台藏本を覺彦淨嚴が書写したものを、大坂高津円珠庵の学僧契沖が転写し、契沖はこれをみずから生駒山に登って寄贈せられたものであると注記している。なお湛海が東寺安置の舍利と婆羅門僧正傳來の舍利を洛西太秦の桂宮院在寓時に得たことを記しているのは、聖德太子が楓野別宮を起こしたところと伝える広隆寺奥院桂宮院が、建長三年（一二五一）に西大寺叡尊の弟子中観上人澄禪の再建したものであり、仏舍利信仰興隆の本拠であったことを十分に承知していたからであろう。

湛海はまた般若窟の本尊銅造弥勒菩薩坐像は法橋院達をして作らしめた

ものだと記している。仏師の祖とされる定朝の孫院助を祖とする七条大宮仏所の正統に属する院達は、洛東建仁寺首座の石梯龍良から依頼されて六道珍皇寺の小野篁像を制作したことで知られるように、院派七条大宮仏所を代表する仏師だった。湛海とは古くから交友があり、二人には共作した仏像も少なくない。湛海は惟實蓮體が『寶山和尚行狀』に「性質敏穎にして志氣宏邁なり。伎術學ばざれども善くす。捏鑄彫刻彩畫甚だ絶妙なり。蓋し夙智の撼かす所なり」と伝えるように、生まれながらにして人に優れた才知と高潔宏邁な志氣を有し、だからなのか、さらに仏像・仏具の鑄造・彫刻や仏画の製作に絶妙の技量を發揮した。『都史陀山大聖無動寺佛像并常住物記』から摘記するだけでも、

- 一、本堂本尊不動明王尊像壹軀坐像長二尺五寸并火焰與座自彫刻之
- 一、雲上閣本尊虚空藏菩薩銅像壹軀、令冶工鑄之、自彫刻之
- 一、鎮守歡喜天鑄像、自彫刻之、磨瑩之
- 一、舍利塔一基、塔樣自圖之
- 一、小塔一基、捏泥作者也
- 一、墨繪不動尊一幅、自圖之
- 一、不動明王一幅有八大童子、同前
- 一、如意并拂子、自作之
- 一、錫杖、同自彫刻之

等々とあって、湛海の捏鑄・彫刻・彩画の伎術が如何なく發揮されていることが知られる。湛海のこうした造像活動は生涯にわたるものであって、その作品は膨大である。『都史陀山大聖無動寺佛像并常住物記』編纂後に制作された主なものを摘記すると、

- ・貞享二年（一六八五・五十七歳） 閑観に入る際の持念本尊として木造不動明王三尊像を作る。中尊は院達との共作。二童子は院達作。現、河内長野市松林寺護摩堂本尊。
- ・元禄六年（一六九三・六十五歳） 絹本着色赤黄色不動明王坐像を描く。宝山寺蔵。
- ・元禄十四年（一七〇一・七十三歳） 厨子入木造五大明王像を自刻彩色する。宝山寺蔵。
- ・宝永六年（一七〇九・八十一歳） 東山天皇の勅命により宮中御持仏堂本尊として木造聖観音菩薩像・木造地藏菩薩像・木造不動明王像を作るが、奉納前

に天皇が崩御したため宝山寺に蔵された。

- ・宝永四年（一七〇七・七十九歳） 絹本着色弘法大師空海像を描く。宝山寺蔵。
- ・宝永七年（一七二〇・八十二歳） 絹本着色如意輪観音坐像を描く。宝山寺蔵。
- ・宝永八年（一七二一・八十三歳） 生家の旦那寺伊勢国一色村正源寺の本尊として木造阿弥陀如来立像を彫刻する。
- ・正徳二年（一七二二・八十四歳） 人魔降伏のため絹本着色大威徳転法輪尊像を描く。湛海は徳川六代將軍家宣の若君たちの安産・成長の祈禱をしたが、いずれも夭折した。人魔ゆえとされ、これの降伏のために描いたという。
- ・正徳五年（一七二五・八十七歳） 生地一色村の山田外記に与えるために木造阿弥陀如来坐像を彫刻する。

のごとくであって、没する直前まで湛海は造像活動を止めなかったのである。右の外にも洞元律師ゆかりの押熊常光寺はじめ諸寺・個人が蔵する湛海作は少なくない。奈良唐招提寺蔵木造不動明王坐像は制作年代は不明ながら重要文化財指定の優品である。なお左に載せる愛染明王像の一枚刷御影は、湛海が描いたものを弟子の湛水が板木に刻して開版したもので、湛水はこれを宝永四年（一七〇七）十月十五日に開眼加持し宝山寺に奉納している。



愛染明王像
寶山湛海画（宝永4年〈1707〉湛水版行
宮島コレクション蔵）

※

正徳三年（一七一三）十二月二十日、妙道湛清・孝仙湛禪・太淵窺海・昌賢湛山・山田外記等五人の弟子は湛海の「遺状」（『寶山湛海傳記』（史料集成）所収）に署名捺印した。次掲のようにきわめて簡潔なものである。

一、當山後住之義和尚相尋候處妙道後住孝仙太淵三比丘諸事申談律義如法相守寺致相續候様可致守護事

一、山内法度別紙ケ條之通可相守事

一、山内本尊書教諸道具等常什物累代散失無之様山内不出之旨是亦急度相守殊極秘密之物むさと披見可有斟酌事

右之趣去年極月被申渡候今年七月七日猶又被申渡之條無相違者也

正徳三巳極月廿日

右の「遺状」から、湛海が後住について意を払っていたことが察せられる。湛海は一年をかけ三度も「遺状」を示し、後住と寺の相続について、それを指名ではなく五人の弟子たちに相談させたのである。宝山寺二世は選任されて妙道湛清が継いだ。なお『宝山寺過去帳』に昌賢湛山は「京粟田口肉弟」、山田外記は「意伯居士、開山舍兄山田氏」とある。湛海の弟と兄である。

正徳六年（一七一六）正月十六日味爽、湛海は坐しながら泊焉として逝った。行年八十八、法臘七十一。生駒山西岳に葬られ、廟塔大慈三昧塔が建てられた。その碑銘に「當山開祖湛海和尚廟塔正徳第六龍集丙申正月既望示禪」とある。

※

没後、湛海は都率の内院に上生したと蓮體『續鑛石集』卷二所載「寶山湛海和尚上生兜率ノ事」は伝えている。

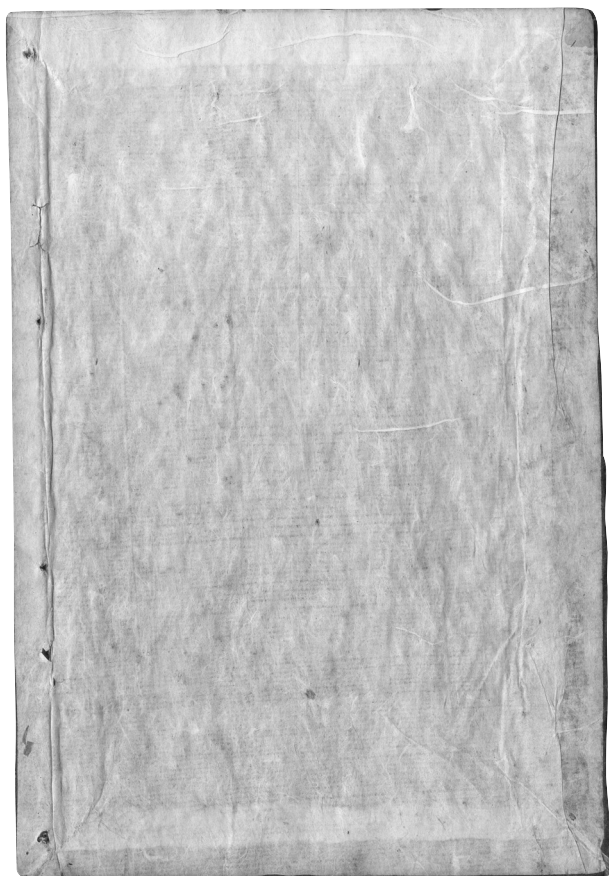
享保三年（一七一八）四月三日、武州豊島郡の女十六歳が死門に入りながら一夜にして蘇生して語ったところによると、女は天宮に到り、無量の僧俗の圍繞する高座で説法する香衣の比丘から、「汝ガ病ハ宿業ノ果ストコロナリ。耆婆扁鵲モ治スルコトアタハジ。若出家セバ業ヲ轉ジテ壽ヲ増スベシト」と告げられた。女は今にも祝髪すると応諾し、師に名を問うと、「我ハ淨嚴ナリ。此處ハ都率ノ内院ナリ。我生平誓フトコロハ。世世ニ閻浮ニ生ジテ。密乗ヲ弘通シ。羣迷ヲ濟度セント。而モ若木薪盡ク。行藏數アルヲ以テ。此ニ居シテ機ノ興ヲ

待ノミ」と云い、種々教誨せられた。女はまた傍の一室で「香衣ノ老僧壇ヲ構ヘテ修法スル」のを見て師に問うと、師は「寶山和尚ナリ。願力ノ故ニ來生セリ。而モ未ダ悉地ヲ成就セズ。予モ亦成佛ハ尚廻ナリ」という。また遙かの宝宮に威光赫如たる高僧が在すを見て師に問うと、師は「此ハ是當來導師弥勒尊。即チ我弘法大師ナリ。汝値遇ノ因縁アサカラズ。必ズ出家シテ進修セヨ。慎ンテ懈怠スルコトナカレ」という。女は喜び骨髓に徹し、蘇生後の四月二十一日には畦衣に改めて近住尼となった。

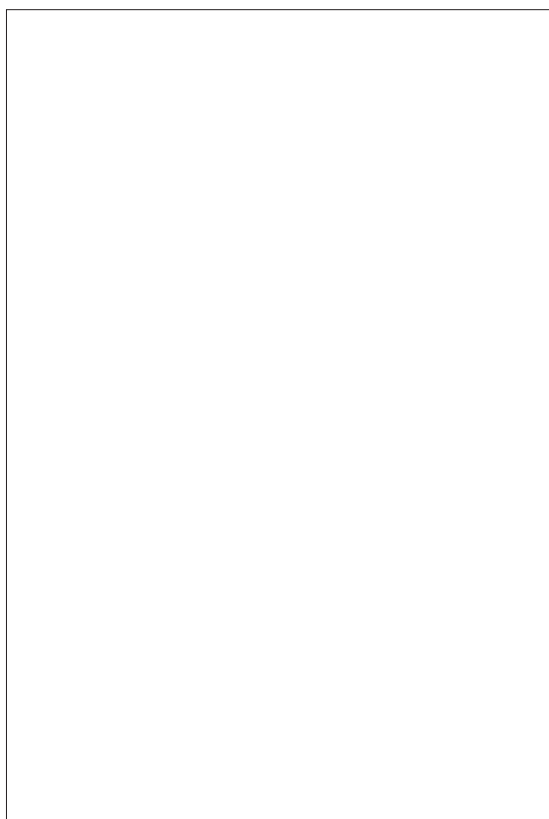
蓮體は右の近住尼の兜率内院遊歴譚を高野山の昶遍阿闍梨が東都に在った折に筆録しおいたものによって知ったのであるが、これを『續鑛石集』に収載した理由を「予先師ニ親炙スルコト三十年。曾テ師ノ意願ヲ知ル。尼カ語ルトコロ眞實ニシテ妄ナラズ。又寶山湛海和尚。生馬ノ峯ニ精勤シ玉フ事四十春。影山ヲ不レ下。享年八十七歳ニシテ。正徳五年臘八ニ。諸徒ニ告テ曰ク。予一生苦行確乎タル勇心。現世ニ悉地ヲ得テ壽ヲ延。肉身ヲ持シテ慈氏ノ下生ヲ得ントス。然ルニ宿福薄少ニシテ。閉眼近ニアリ。今日ヨリ願ヲ都史ノ内宮ニ改ム汝等是ヲ知ト。即本尊ニ對シテ願ヲ立玉フコトモ。亦復カクノ如シ。已シテ正徳六年正月十六日蛻テ上出シ玉ヘリ。尼ガ言符節ヲ合セタルカ如シ。咨奇ナルカナ。先師戢化ノ時ハ。女始テ四歳ナリ。未ダニ師ノ面ヲ不レ見。忽ニ此ノ感通アルコト。誰カ信伏セザランヤ。今茲海公ノ大祥諱。我師ノ十七回諱ニ當テ。此ノ不思議ノ事ヲ聞テ。且ハ喜ビ且ハ悲ム。曼タル長夜何ノ時ニカ且ン。予尼ガ養父ト故アリ。依テ此ヲ録シテ衆人ノ進修ヲ策スモノナリ」と記している。蓮體の、師覺彦淨嚴に対する、また具足戒受戒の師寶山湛海に対する敬慕私淑の情はきわめて篤いものがあつた。



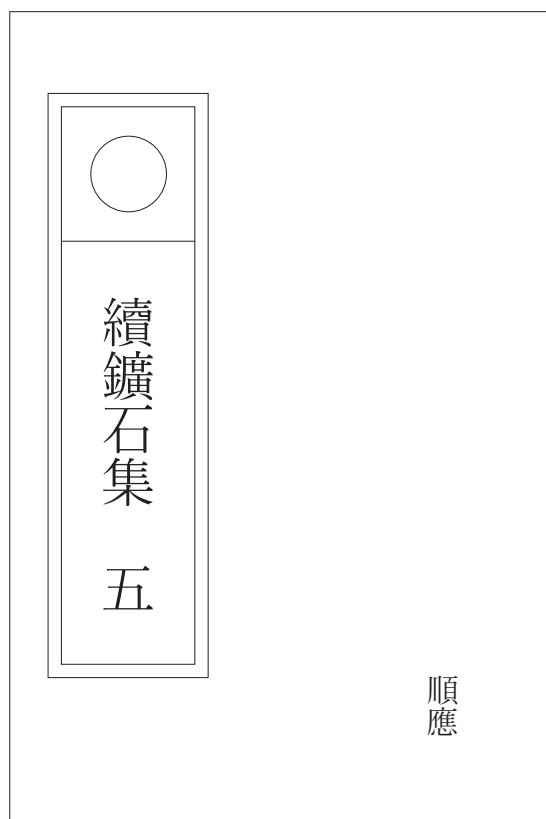
宝山寺不動明王御影札
(宮島コレクション蔵)



(白丁)「⑤下末表紙見返



「⑤下末表紙



順應

續鑛石集下末

十四ニ高祖大師種々御利生ノ事



極樂堂照明院ノ實城閣梨正徳六年九月中旬ニ末寺三州
賀茂郡小原谷大洞村弘法寺エ下向アリシ時大洞村佐左
衛門カ胃子三四郎而立ニモ及バザル壯士何ノ故ニカ九月初
比ヨリ舌癢テ一向ニ言ハズ剩サヘ兩耳モ聞ヘス真ノ癩聾トソ
成リニケル兩親妻子一族トモ此事ノミ苦シミ悲ミテ種々ニ醫
療ヲ加フレドモ少モ効ナカリケレバ如何セント歎キケル時節高
野山ヨリ御僧下向ノ由ヲ聞テ弘法寺エ來リ父母一族何ト
ノ御慈悲ヲ以テ此ノ業病ヲ加持シ平愈セシメ玉ヘト涙ヲ
流シテ歎キケル實城其發病ノ始末ヲ尋ネラルニ各別ニ大

續鑛石下末

病ノ後ニ發ル啞聾ニモアラザレバ熟ト思フニ過去世ノ誹謗正法
ノ業報ナルコトヲ知テ弥大悲心ヲ生ジ此病卒余ニハ平愈スベカ
ラス予ガ教訓ニ順ゼヨトテ一族ノ外村中ノ有信ノ人ヲ召キ
集メ皆沐浴清淨ニシテ新淨ノ衣ヲ著セシメ光明真言ヲ授ケ
テ九月廿六日ノ終夜真言ヲ誦ゼシムルコト數千遍病家ヲ掃
灑シ淨メテ壇ヲ建光明真言ノ秘法ヲ修シ丹誠ヲ凝シテ加
持セラレケレバ明發ニ及シテ三四郎カ枕上ニ弘法寺ノ大師御
影響ヲアツテ念珠ニテ病人ノ頭ヲ撫テ三四郎ニ呼玉ヘバ
唯ト答ヘ奉ルヨリ舌柔ギ辯舌常ノ如ク耳モ聰利ニテ皆々起
リ夜ガ明タゾト呼フ父母妻女此ヲ聞テ有難サ言語ヲ絶シ
宗ニ死セル人ノ甦生セルヨリモ珍ラシク各涙ヲ流シテ悦ビ大師

續鑛石集下末

十四ニハ高祖大師種々御利生ノ事

極樂堂照明院ノ實城閣梨正徳六年九月中旬ニ末寺三州
賀茂郡小原谷大洞村弘法寺エ下向アリシ時大洞村佐左
衛門カ胃子三四郎而立ニモ及バザル壯士何ノ故ニカ九月初
比ヨリ舌癢テ一向ニ言ハズ剩サヘ兩耳モ聞ヘス真ノ癩聾トソ
成リニケル兩親妻子一族トモ此事ノミ苦シミ悲ミテ種々ニ醫
療ヲ加フレドモ少モ効ナカリケレバ如何セント歎キケル時節高
野山ヨリ御僧下向ノ由ヲ聞テ弘法寺エ來リ父母一族何ト
ノ御慈悲ヲ以テ此ノ業病ヲ加持シ平愈セシメ玉ヘト涙ヲ
流シテ歎キケル實城其發病ノ始末ヲ尋ネラルニ各別ニ大

續鑛石下末

病ノ後ニ發ル啞聾ニモアラザレバ熟ト思フニ過去世ノ誹謗正法
ノ業報ナルコトヲ知テ弥大悲心ヲ生ジ此病卒余ニハ平愈スベカ
ラス予ガ教訓ニ順ゼヨトテ一族ノ外村中ノ有信ノ人ヲ召キ
集メ皆沐浴清淨ニシテ新淨ノ衣ヲ著セシメ光明真言ヲ授ケ
テ九月廿六日ノ終夜真言ヲ誦ゼシムルコト數千遍病家ヲ掃
灑シ淨メテ壇ヲ建光明真言ノ秘法ヲ修シ丹誠ヲ凝シテ加
持セラレケレバ明發ニ及シテ三四郎カ枕上ニ弘法寺ノ大師御
影響ヲアツテ念珠ニテ病人ノ頭ヲ撫テ三四郎ニ呼玉ヘバ
唯ト答ヘ奉ルヨリ舌柔ギ辯舌常ノ如ク耳モ聰利ニテ皆々起
リ夜ガ明タゾト呼フ父母妻女此ヲ聞テ有難サ言語ヲ絶シ
宗ニ死セル人ノ甦生セルヨリモ珍ラシク各涙ヲ流シテ悦ビ大師

ノ寶号ヲ唱ヘ實城ニモ厚ク禮謝シケル此事遠近ニ隱レナケ
レ弘法寺エ貴賤老少群集シテ拜シ奉リ香華燈明ノ供養
絶ザリキ是大師ノ加持力ナリトイヘドモ偏ニ實城ノ善巧方便
光明真言ノ功刀故ニ重業障ヲ頓ニ消滅セル故ナリ○又五
室金剛院ノ檀家豫州野間郡朝波村ニ元祿八年十月上旬
ヨリ疫病流行テ村中ノ老若男女枕ヲ並ベテ卧惱ム養生モ
藥力モ届ベキニアラズ死人街ニ滿テ遠近此ヲ恐レスト云事ナシ
金剛院ノ使僧毎年ノ宿喜左衛門ト云者家内悉ク病臥ス
中ニモ喜左ガ病氣甚重ク存命不定ニ見ケル故一族知友皆
寄集リ汗ヲ流シテ看病スルニ喜左夢トモ現トモナク明日ハ遠
方ヨリ御僧ノ来駕ゾ家内ヲ淨メ請シ奉レト云バ一家驚キ
○續鑛石下末

ノ寶号ヲ唱ヘ實城ニモ厚ク禮謝シケル此事遠近ニ隱レナケ
レ弘法寺エ貴賤老少群集シテ拜シ奉リ香華燈明ノ供養
絶ザリキ是大師ノ加持力ナリトイヘドモ偏ニ實城ノ善巧方便
光明真言ノ功刀故ニ重業障ヲ頓ニ消滅セル故ナリ○又五
室金剛院ノ檀家豫州野間郡朝波村ニ元祿八年十月上旬
ヨリ疫病流行テ村中ノ老若男女枕ヲ並ベテ卧惱ム養生モ
藥力モ届ベキニアラズ死人街ニ滿テ遠近此ヲ恐レスト云事ナシ
金剛院ノ使僧毎年ノ宿喜左衛門ト云者家内悉ク病臥ス
中ニモ喜左ガ病氣甚重ク存命不定ニ見ケル故一族知友皆
寄集リ汗ヲ流シテ看病スルニ喜左夢トモ現トモナク明日ハ遠
方ヨリ御僧ノ来駕ゾ家内ヲ淨メ請シ奉レト云バ一家驚キ
○續鑛石下末

大病サヘ心元ナキニ現ニモセヨ謔語ニモセヨ快ヨカラズ氣ガリナリ
トテ大樣ニ答ヘケル其夜中病人別シテ替ルコトナシ翌日金剛院ノ
使僧憲雅家ニ至リ来ル喜左喜シテ曰ク昨夕ヨリ御出ノ事ハ存
ジタリ我等カ病氣御加持奉レ賴平愈スベキノ由弘法大師ノ御
告ヲ蒙リ侍ルナリ早く加持シ玉ヘト乞憲雅心得タリトテ印明
ヲ結誦シテ加持スルニ唯喜左一人ノミナラズ家内ノ病人悉ク本
復シ疫鬼遠ク去ルト見テ一村程ナク快氣ヲ得タリ其ヨリ喜
左弥高野山信仰ノ心増長シテ九尺四方ノ小堂ヲ作り大
師ノ御影ヲ安置シ供養ジテ其家次第繁昌セリト觀雅カ説
ナリ○又攝津國丹生山田中村ト云處茅堂壽量院ノ檀家
多シ皆大師ニ歸依シ奉リ大師講ヲ結ビ毎月廿一日ニハ村中

ノ老若男女集會シテ大師ノ寶号ヲ唱ヘ其日ノ散錢ヲ集メ
儲ヘテ本トシ五七年ニ成リヌレバ講參トテ登山シケル正徳四年
ノ春彼等參詣シテ各々ニ父母兄弟伯叔妻子ノ日牌月牌ヲ
建供養ノ法筵ニ陪シテ各卒都婆ヲ立悦ビテ今日遠涉ノ疲
ヲ休メテ各眠卧セル中ニ新右衛門ト云者五更ニ憂鳴コト甚
シ同行ノ者肝ヲ潰シコハ何ナル事ゾト汗カキテ騷ギケルニ新右
衛門寤テ御出家衆ニ逢タキ由ヲ云依テ一僧出合何事ゾト問
新右カ曰クサレバトヨ可畏キ目ニ逢ヌ私繼母ナリレハ者來リテ
我ヲ責テ曰ク汝ガ有縁ノ人者ニ殘ラズ月牌ヲ建追善ヲ作シ
我一人ヲバ何トテ訪ザルゾ恨ノ中ノ恨ナリ何レノ日カ晴コトヲ得
ト攫付テ責ラレケレバ憂惱候ナリ必ス位牌ヲ立追善スヘシ

●續鑛石下末

ト約シヌレバハ者ハ去リニキト申シケレバ同行一家ノ者共皆尤
モナルカナ哀レナルカナト涙ヲ流シ早朝ニ位牌ヲ立過去帳ニ記
シ法事修行シテ丁寧ニ回向セラレケルト圓鏡ノ物語リナリ○
花遊谷ノ西明院ノ檀所但州七味郡山田村ニ新左衛門ト云
信心ノ者多年大師ヲ信仰シ奉ルニ寛永年中ニ其村大雨月
ヲ越テ終ニ谷川岸ヲ崩シ山田モ海ニ等ク民家水ニ溺レ多クハ
蛟魚ノ食トナレゾ哀レナル老若男女命ヲ惜ムモノハ財寶ヲ捨
テ身スガ高キ處ニ遁登リテ命バカリヲ助リケル彼新左カ家ハ山
ノ半腹ニアレバ先ハ洪水陵ニ襲トモ氣遣アルニト皆此處ニ群リ
集ルニ又背ノ山土石崩レテ落水湧出ケレバ此家トテモ助ルベキ
處ニアラズ何ニカ逃シテ天ニ翔ントスルニ羽ナク船ニ乗ント思フニ山中

ノ老若男女集會シテ大師ノ寶号ヲ唱ヘ其日ノ散錢ヲ集メ
儲ヘテ本トシ五七年ニ成リヌレバ講參トテ登山シケル正徳四年
ノ春彼等參詣シテ各々ニ父母兄弟伯叔妻子ノ日牌月牌ヲ
建供養ノ法筵ニ陪シテ各卒都婆ヲ立悦ビテ今日遠涉ノ疲
ヲ休メテ各眠卧セル中ニ新右衛門ト云者五更ニ憂鳴コト甚
シ同行ノ者肝ヲ潰シコハ何ナル事ゾト汗カキテ騷ギケルニ新右
衛門寤テ御出家衆ニ逢タキ由ヲ云依テ一僧出合何事ゾト問
新右カ曰クサレバトヨ可畏キ目ニ逢ヌ私繼母ナリシハ者來リテ
我ヲ責テ曰ク汝ガ有縁ノ人者ニ殘ラズ月牌ヲ建追善ヲ作シ
我一人ヲバ何トテ訪ザルゾ恨ノ中ノ恨ナリ何レノ日カ晴コトヲ得
ト攫付テ責ラレケレバ憂惱候ナリ必ス位牌ヲ立追善スヘシ

●續鑛石下末

ト約シヌレバハ者ハ去リニキト申シケレバ同行一家ノ者共皆尤
モナルカナ哀レナルカナト涙ヲ流シ早朝ニ位牌ヲ立過去帳ニ記
シ法事修行シテ丁寧ニ回向セラレケルト圓鏡ノ物語リナリ○
花遊谷ノ西明院ノ檀所但州七味郡山田村ニ新左衛門ト云
信心ノ者多年大師ヲ信仰シ奉ルニ寛永年中ニ其村大雨月
ヲ越テ終ニ谷川岸ヲ崩シ山田モ海ニ等ク民家水ニ溺レ多クハ
蛟魚ノ食トナレゾ哀レナル老若男女命ヲ惜ムモノハ財寶ヲ捨
テ身スガ高キ處ニ遁登リテ命バカリヲ助リケル彼新左カ家ハ山
ノ半腹ニアレバ先ハ洪水陵ニ襲トモ氣遣アルマジト皆此處ニ群リ
集ルニ又背ノ山土石崩レテ落水湧出ケレバ此家トテモ助ルベキ
處ニアラズ何ニカ逃シテ天ニ翔ントスルニ羽ナク船ニ乗ント思フニ山中

ニ船ナケレバ左右定業必死ト定メテ大ニ號ヨリ外ハナカリケリ
新左思フヤウ我年來高野山ヲ信ジ奉リ毎年使僧ノ御宿モ
勤メヌレハ此時効驗ノ利益ナクンバ大師ノ擁護モ無ニ似タリ若
同業所感ノ罪人一所ニ生レテ同ク土中ニ埋リ死スルナラバ南無
大師遍照金剛天淨土ニ引導シ玉ヘト諸人ヲ勸メ一同ニ高聲
ニ南無大師遍照金剛ト唱ヘルニ万人同聲ニ唱フル聲山谷ニ
響ケルカ不思議ナルカナ背ノ山ニツニ破テ新左ガ家ノ兩方ニ崩
レ落テ中ニ羣リ居タル者ハ一人モ恙ナク安穩ニ命ヲ全セリ是偏
ニ大師擁護加持ノ然ラサルナリト諸人大師ヲ信仰シ奉リケリ
○又其比新左山名殿ノ領分谷川ノ邊ニテ新田ヲ願ヒ得テ
開作スルニ見ル人はハ川水溢レ年々水損アルベシ惡キ地ヲモ願

●續鑛石下末

四

ヒ得ラレシ事カナト羨ム者ハナカリケリ然ルニ新左ハ万事一篇
ニ大師ニ担任セ奉ル心ニテ餘念ナク他ノ障リニナラザルヤウニ河
瀬ヲモ違ヘテタビ玉ヘト大師ニ祈誓シ奉リケレバ果シテ洪水ノ
節思ノ任ニ河ノ瀬著替リテ他人ノ礙トモナラズ新左カ新田ハ
上田トゾナリニケル諸人驚歎シテ左右此男ハ大師ノ擁護加
持シ玉ヘバ必死ノ水難ヲ免ルノミナラズ膏腴ノ上田ヲ得タリト
羨ミ貴ミケリ○又山名殿ノ城下ニ鍛冶師利左衛門ト云者
アリ其弟ハ故アリテ播磨完栗郡落山村ニ居住セルカ享保五
年ノ秋高野エ登リ西明院ニ宿シテ父ノ追善ヲ修シ日牌
ヲ建ツ遠路ノ疲ヲ休ムトテ假寐シケル夢ニ父顔色怡悅シ
テ言ク我其方カ登山ヲ知テ先達テ上リ門内ニテ待得タリ

ニ船ナケレバ左右定業必死ト定メテ大ニ號ヨリ外ハナカリケリ
新左思フヤウ我年來高野山ヲ信ジ奉リ毎年使僧ノ御宿モ
勤メヌレハ此時効驗ノ利益ナクンバ大師ノ擁護モ無ニ似タリ若
同業所感ノ罪人一所ニ生レテ同ク土中ニ埋リ死スルナラバ南無
大師遍照金剛天淨土ニ引導シ玉ヘト諸人ヲ勸メ一同ニ高聲
ニ南無大師遍照金剛ト唱ヘルニ万人同聲ニ唱フル聲山谷ニ
響ケルカ不思議ナルカナ背ノ山ニツニ破テ新左ガ家ノ兩方ニ崩
レ落テ中ニ羣リ居タル者ハ一人モ恙ナク安穩ニ命ヲ全セリ是偏
ニ大師擁護加持ノ然ラサルナリト諸人大師ヲ信仰シ奉リケリ
○又其比新左山名殿ノ領分谷川ノ邊ニテ新田ヲ願ヒ得テ
開作スルニ見ル人はハ川水溢レ年々水損アルベシ惡キ地ヲモ願

●續鑛石下末

四

ヒ得ラレシ事カナト羨ム者ハナカリケリ然ルニ新左ハ万事一篇
ニ大師ニ担任セ奉ル心ニテ餘念ナク他ノ障リニナラザルヤウニ河
瀬ヲモ違ヘテタビ玉ヘト大師ニ祈誓シ奉リケレバ果シテ洪水ノ
節思ノ任ニ河ノ瀬著替リテ他人ノ礙トモナラズ新左カ新田ハ
上田トゾナリニケル諸人驚歎シテ左右此男ハ大師ノ擁護加
持シ玉ヘバ必死ノ水難ヲ免ルノミナラズ膏腴ノ上田ヲ得タリト
羨ミ貴ミケリ○又山名殿ノ城下ニ鍛冶師利左衛門ト云者
アリ其弟ハ故アリテ播磨完栗郡落山村ニ居住セルカ享保五
年ノ秋高野エ登リ西明院ニ宿シテ父ノ追善ヲ修シ日牌
ヲ建ツ遠路ノ疲ヲ休ムトテ假寐シケル夢ニ父顔色怡悅シ
テ言ク我其方カ登山ヲ知テ先達テ上リ門内ニテ待得タリ

汝生國ヲ離レテ他邦ニ住ナガラ能ク我ヲ訪ヘルコトノ嬉サ言ニ
述ガタシ頓テ法事モ始ルソ興テ堂ヘ參レト云カト思ヘバ夢寤ヌ
時ニ小僧來テ曰ク今法事モ始リヌ起テ盥嗽シ燒香セラレヨ
ト此男大ニ悦ビ涙ヲ流シテ燒香シテ僧衆ニ語テ曰ク死去ノ後
一度夢ニモ見ザル父此山ニテ此度夢ニ見機嫌モ能顔ニテ
有難シトテ又享保八年ノ七月ニ登山シテ自ラ話リケル

十五ニハヒ冤顯レテ追善ヲ乞得脱セル事

中性院三代ノ住持真雄一タ修法シテ三平等ノ觀ヲ凝シ四
無量ノ定ニ入リ念誦時ヲ移サレケレバ嬋娟タル少婦忽然トシ
テ現シ啼泣シテ曰ク妾ハ三河州東山中農民ノ女ナリ父母
許シナキニ一男ニ密通シテ比翼ノ契リ淺カラザレバ頓テ姪メ

●續鑛石下末

五

リ是ヲ隱サントスニ方便ナク父母ノ瞋リ親族ノ嘲リ奈何ト
モスベカラサレバ二人手ヲ執縛テ海底ニ身ヲ投ゲ肉血ハ群魚ノ
腹ニ葬リ骸骨ハ怒潮ノ盈虧ニ漂サレ冤鬼ハ遠ク泥犁ニ沈ミ銅
柱鐵床ノ誅ヲ受ルコトニ六時剩ヘ鬻骸ハ波ニ打上ラレテ往還
ノ途中ニ埋メ人馬ノ往來ニ蹴踏セラル悲イカナ其苦痛冥路
ノ心冤ニ雖揉スルガ如クニ苦痛彌増ナリ誰カ無縁ノ大悲ヲ
起シテ心靈ニ同向セル人ノ適公ノ師蓮上人ノ惠施セル弥陀經
一卷ヲ懷中ニテ歩クニ弥陀ノ名号ヲ唱念シ妾カ埋骨ノ道
ヲ經過セル人アリ料ラザリキ此ノ良緣ニ依テ蹂躪ノ苦ミヲ免レ
餘福冥途ニ達シテ十二時ノ誅半減ヲ得タリ今ヤ師ハ彼上
人ノ嗣法ニテ拔苦與樂平等利益ノ志ヲ勵シ玉フ彼ノ佛

汝生國ヲ離レテ他邦ニ住ナガラ能ク我ヲ訪ヘルコトノ嬉サ言ニ
述ガタシ頓テ法事モ始ルソ興テ堂ヘ參レト云カト思ヘバ夢寤ヌ
時ニ小僧來テ曰ク今法事モ始リヌ起テ盥嗽シ燒香セラレヨ
ト此男大ニ悦ビ涙ヲ流シテ燒香シテ僧衆ニ語テ曰ク死去ノ後
一度夢ニモ見ザル父此山ニテ此度夢ニ見機嫌モ能顔ニテ
有難シトテ又享保八年ノ七月ニ登山シテ自ラ話リケル

十五ニハヒ冤顯レテ追善ヲ乞得脱セル事

中性院三代ノ住持真雄一タ修法シテ三平等ノ觀ヲ凝シ四
無量ノ定ニ入リ念誦時ヲ移サレケレバ嬋娟タル少婦忽然トシ
テ現シ啼泣シテ曰ク妾ハ三河州東山中農民ノ女ナリ父母
許シナキニ一男ニ密通シテ比翼ノ契リ淺カラザレバ頓テ姪メ

●續鑛石下末

五

リ是ヲ隱サントスルニ方便ナク父母ノ瞋リ親族ノ嘲リ奈何ト
モスベカラサレバ二人手ヲ執縛テ海底ニ身ヲ投ゲ肉血ハ群魚ノ
腹ニ葬リ骸骨ハ怒潮ノ盈虧ニ漂サレ冤鬼ハ遠ク泥犁ニ沈ミ銅
柱鐵床ノ誅ヲ受ルコトニ六時剩ヘ鬻骸ハ波ニ打上ラレテ往還
ノ途中ニ埋メ人馬ノ往來ニ蹴踏セラル悲イカナ其苦痛冥路
ノ心冤ニ雖揉スルガ如クニ苦痛彌増ナリ誰カ無縁ノ大悲ヲ
起シテ心靈ニ同向セル人ノ適公ノ師蓮上人ノ惠施セル弥陀經
一卷ヲ懷中ニテ歩クニ弥陀ノ名号ヲ唱念シ妾カ埋骨ノ道
ヲ經過セル人アリ料ラザリキ此ノ良緣ニ依テ蹂躪ノ苦ミヲ免レ
餘福冥途ニ達シテ十二時ノ誅半減ヲ得タリ今ヤ師ハ彼上
人ノ嗣法ニテ拔苦與樂平等利益ノ志ヲ勵シ玉フ彼ノ佛

名真典ノ結縁ニ因テ師ガ同向ノ力ヲ仰グ願クハ劇苦ヲ拔濟シ玉ヘト真雄愕然トシテ回顧シテ曰ク我日夜ニ修スルトコロノ三密ノ妙行ハ皆法界衆生平等利益ノ爲ナリ汝獨リ何ゾ此ヲ受ザルヤ靈ガ曰ク法雨沛然タレドモ我隔歴妄執ノ岩穴ニ隱レテ甘露ノ潤澤ヲ蒙ラズ今ヤ妙經受持ノ人偶歩ミ来ノ勝縁ニ逢テ佛種此ヨリ萌シテ瑜祇ノ法場ニ入り來レリ世間無量ノ人無縁ニシテ此淨土ヲ知ザル者幾百千ゾヤ早ク我ヲ救濟シ玉ヘト雄領テ光明真言ヲ念誦シ祕印ヲ授レハ亡龜歡喜シテ煙ノ如クニ消ヌ倍信ヲ凝シテ同向セラレケレバ後日ニ又現レ来テ脱苦得樂ノ由ヲ語リ厚ク禮謝シテ去リヌ真雄熟思惟スルニ無縁ノ者ハ得脱ノ由ナシ縁起相由ノ圓融加持土沙ノ利

●續鑛石下米

六

益皆是佛祖ノ洪範ナリト即チ出寺シテ六十餘州ヲ巡リ結縁教導ヲ本トシテ或ハ他郷ニ月ヲ重テ滯留シ其間ノ有縁無縁ノ齒骨等ヲ加持引導シテ上生都史ノ同向ヲ勵サレケレバ多ノ幽靈成佛シ得脱セル者屢現レ来テ禮謝ヲ述ルコト毎度ナリト數代記録ノ中ニ見タリ事繁レハ一二ヲ記ス餘ハ例シテ知スヘシ○播州加西郡中野村ハ智善院ノ檀處ニテ元祿十五年秋例ノ如ク使僧下向スルニ某村庄左衛門ト云者使僧ノ方來テ曰ク今茲別シテ御下向ヲ待カネ候私娘阿長ト申ス者傷寒ニテ當正月十九日死候悲歎限リナシトイヘドモ是非ナク僧ヲ請ジ葬送シテ還リ候路ヨリ私以テノ外ニ風ノ心地ニテ甚頭痛シ娘ガ疾我ニ移ケリナド特ニ心アシク念佛唱ルニモ

名真典ノ結縁ニ因テ師ガ同向ノ力ヲ仰グ願クハ劇苦ヲ拔濟シ玉ヘト真雄愕然トシテ回顧シテ曰ク我日夜ニ修スルトコロノ三密ノ妙行ハ皆法界衆生平等利益ノ爲ナリ汝獨リ何ゾ此ヲ受ザルヤ靈ガ曰ク法雨沛然タレドモ我隔歴妄執ノ岩穴ニ隱レテ甘露ノ潤澤ヲ蒙ラズ今ヤ妙經受持ノ人偶歩ミ来ノ勝縁ニ逢テ佛種此ヨリ萌シテ瑜祇ノ法場ニ入り來レリ世間無量ノ人無縁ニシテ此淨土ヲ知ザル者幾百千ゾヤ早ク我ヲ救濟シ玉ヘト雄領テ光明真言ヲ念誦シ祕印ヲ授レハ亡龜歡喜シテ煙ノ如クニ消ヌ倍信ヲ凝シテ同向セラレケレバ後日ニ又現レ来テ脱苦得樂ノ由ヲ語リ厚ク禮謝シテ去リヌ真雄熟思惟スルニ無縁ノ者ハ得脱ノ由ナシ縁起相由ノ圓融加持土沙ノ利

●續鑛石下米

六

益皆是佛祖ノ洪範ナリト即チ出寺シテ六十餘州ヲ巡リ結縁教導ヲ本トシテ或ハ他郷ニ月ヲ重テ滯留シ其間ノ有縁無縁ノ齒骨等ヲ加持引導シテ上生都史ノ同向ヲ勵サレケレバ多ノ幽靈成佛シ得脱セル者屢現レ来テ禮謝ヲ述ルコト毎度ナリト數代記録ノ中ニ見タリ事繁レハ一二ヲ記ス餘ハ例シテ知スヘシ○播州加西郡中野村ハ智善院ノ檀處ニテ元祿十五年秋例ノ如ク使僧下向スルニ某村庄左衛門ト云者使僧ノ方來テ曰ク今茲別シテ御下向ヲ待カネ候私娘阿長ト申ス者傷寒ニテ當正月十九日死候悲歎限リナシトイヘドモ是非ナク僧ヲ請ジ葬送シテ還リ候路ヨリ私以テノ外ニ風ノ心地ニテ甚頭痛シ娘ガ疾我ニ移ケリナド特ニ心アシク念佛唱ルニモ

⑤下末 06 ウ

⑤下末 06 オ

及ハス打卧候キ然ルニ彼死セル娘ヤレ恐シヤト門口ヨリ走り
来ル後ヨリ齡六十有餘ノ巡禮ト見テ夫婦ト覺テ追來リ
ケル故ニ佗ノ子ヲ何事ニ左ハ致サレ候ゾト腹立紛ニ慇懃ニ尤
ケハ彼二人ノ白クイヤトヨ此子ニハ西國巡禮サセバナラヌ故連
行ト言時父ガ曰ク西國モ四國モ其方ヲ頼ミソ此子ハ高
野へ上セ位牌ヲ立ルナリ其方勿構ヒ申サレゾト巡禮頭ヲ
低テ位牌ヲダニ建テ上セ巡禮ニハ及バステ去リス父ガ曰ク
阿長憂慮スナ汝ガ爲ニハ高野へ戒名ヲ登スハト云ケレバ女
事ノ外ニ悦フ氣色ニテ夢トモナク現トモナク私モ正氣ニ成
娘取レシト心ニ策ミケル故遍身大汗シテ宵ノ頭痛大熱モス
キト醒ケレバ急イデ起テ御明ヲ挑念佛申シナガラツクト

●續鑛石下末

七

思フニ巡禮ノ追込シ時ノ心娘死セルトハ露バカリモ思ヨラサシ其
方カ爲ニハ高野エ戒名ヲ上セ位牌ヲ建ルト言出セルコト我意
ナガラ最不思議ニテ偏ニ此度ノ御下向ヲ待テ位牌ヲ頼ミ
奉ラント待兼侍ルナリ私世ニ在ル風情ニモ候ハバ早速登山仕
意内申上度候ニ海陸遙ニ隔リ候ヘバ空シク日數ヲ重ネ只今
カク願ヒ奉ルナリ此事妻ニモ今日マデハ語り侍ズト涙ヲ拭
フテ述ルホドニ其戒名ハ如何ト問ニ覺夢童女ト云ニゾ夢ニ相
應セル戒名哉ト感シ即チ光明真言ヲ念誦シテ回向シ歸山
ノ後位牌ヲ建丁寧ニ追善ヲ修セリト使僧ニ巡ル真海ノ物
語ナリ○西光谷淨真院ノ檀那江戸永富町青物問屋桑
名屋長右衛門妻ノ伯父某ノ人寶永元年ノ夏高野參詣

及ハス打卧候キ然ルニ彼死セル娘ヤレ恐シヤト門口ヨリ走り
来ル後ヨリ齡六十有餘ノ巡禮ト見テ夫婦ト覺テ追來リ
ケル故ニ佗ノ子ヲ何事ニ左ハ致サレ候ゾト腹立紛ニ慇懃ニ尤
ケレバ彼二人ノ白クイヤトヨ此子ニハ西國巡禮サセバナラヌ故連
行ト言時父ガ曰ク西國モ四國モ其方ヲ頼ミソ此子ハ高
野へ上セ位牌ヲ立ルナリ其方勿構ヒ申サレゾト巡禮頭ヲ
低テ位牌ヲダニ建テ上セ巡禮ニハ及バステ去リス父ガ曰ク
阿長憂慮スナ汝ガ爲ニハ高野へ戒名ヲ登スハト云ケレバ女
事ノ外ニ悦フ氣色ニテ夢トモナク現トモナク私モ正氣ニ成
娘取レシト心ニ策ミケル故遍身大汗シテ宵ノ頭痛大熱モス
キト醒ケレバ急イデ起テ御明ヲ挑念佛申シナガラツクト

●續鑛石下末

七

思フニ巡禮ノ追込シ時ノ心娘死セルトハ露バカリモ思ヨラサルニ其
方カ爲ニハ高野エ戒名ヲ上セ位牌ヲ建ルト言出セルコト我意
ナガラ最不思議ニテ偏ニ此度ノ御下向ヲ待テ位牌ヲ頼ミ
奉ラント待兼侍ルナリ私世ニ在ル風情ニモ候ハバ早速登山仕
意内申上度候ニ海陸遙ニ隔リ候ヘバ空シク日數ヲ重ネ只今
カク願ヒ奉ルナリ此事妻ニモ今日マデハ語り侍ズト涙ヲ拭
フテ述ルホドニ其戒名ハ如何ト問ニ覺夢童女ト云ニゾ夢ニ相
應セル戒名哉ト感シ即チ光明真言ヲ念誦シテ回向シ歸山
ノ後位牌ヲ建丁寧ニ追善ヲ修セリト使僧ニ巡ル真海ノ物
語ナリ○西光谷淨真院ノ檀那江戸永富町青物問屋桑
名屋長右衛門妻ノ伯父某ノ人寶永元年ノ夏高野參詣

シテ志ノ込者ノ位牌ヲ立追福同向ヲ修シテ下向セル途不
動坂四寸岩ノ下ニテ此男ノ從弟ナリケル女只一人登山スルニ
逢リ大ニ怪ミ思ヒ差寄テ汝ハ何トシテ女ノ身トシテ獨リ上
リケルゾト問ニ女ノ曰ク此御山ノ事一度ハ參リタク少年ヨ
リノ願ナリシガ五障ニ從ノ淺間シキ身ナレバ誰ニカタラフヘキ
便モナク心ノ内ヲ語リ慰ムベキコトサヘ叶ハサレバ悲サ限リナカリシニ
其方ノ登山アリシヲ聞テ跡ヲ慕ヒ上リ侍ル兼テ登山ノ事ヲ
露バカリモ聞ナバ是非ニ同道シテ此憂目ヲハ見ミキヲト恨メシ
ゲニ語レバ此男モ涙ヲ流シ汝カ此願アリト夢ニモ知ズ我江戸
發足ノ節ハ其方病氣ト聞シ故沙汰ナシニ上リニキ去來御
山モ程近シ入口ノ堂ヨリ院内ハ女人禁制ノ山ナレバ寺ハ我

●續鑛石下末

八

等通達スベシト打連テ女人堂ニ著汝ハ暫ク是ニテ待レヨ
寺ニ此旨ヲ白サバ出家衆御出合アルベシト云間ニ彼女忽然ト
シテ消失ス又此男肝ヲ潰シ前後左右ヲ回顧シテ尋ルニ聞
余トシテ人ナシ若ヤ狐狸ノ妖セルニヤト又引返シ下向シケルガ
長途只此事ノミ憂慮シテ歸宅スルト其マ、先彼ノ女ノ病
氣如何ト問ニ先日死去ニテ明後日ハ二七日ナリト云ニサテ
く不動坂ニ逢シハ正シク死去ノ日ナリトテ感涙ヲ流シテ始
終ヲ語リケレバ一族此ヲ聞テ皆袂ヲシボリケル其年ノ秋
淨真院ノ使僧慈淵桑名屋ニテ内室ノ語ラレシヲ聞シトナリ
平生高野信仰ノ女ナル故ニ亡竈モ即日參詣セルナリ大師ノ
御引導憑シク羨シカラズヤ○又壽量院長雄寶永七年五

シテ志ノ込者ノ位牌ヲ立追福同向ヲ修シテ下向セル途不
動坂四寸岩ノ下ニテ此男ノ從弟ナリケル女只一人登山スルニ
逢リ大ニ怪ミ思ヒ差寄テ汝ハ何トシテ女ノ身トシテ獨リ上
リケルゾト問ニ女ノ曰ク此御山ノ事一度ハ參リタク少年ヨ
リノ願ナリシガ五障ニ從ノ淺間シキ身ナレバ誰ニカタラフヘキ
便モナク心ノ内ヲ語リ慰ムベキコトサヘ叶ハサレバ悲サ限リナカリシニ
其方ノ登山アリシヲ聞テ跡ヲ慕ヒ上リ侍ル兼テ登山ノ事ヲ
露バカリモ聞ナバ是非ニ同道シテ此憂目ヲハ見ミキヲト恨メシ
ゲニ語レバ此男モ涙ヲ流シ汝カ此願アリト夢ニモ知ズ我江戸
發足ノ節ハ其方病氣ト聞シ故沙汰ナシニ上リニキ去來御
山モ程近シ入口ノ堂ヨリ院内ハ女人禁制ノ山ナレバ寺ハ我

●續鑛石下末

八

等通達スベシト打連テ女人堂ニ著汝ハ暫ク是ニテ待レヨ
寺ニ此旨ヲ白サバ出家衆御出合アルベシト云間ニ彼女忽然ト
シテ消失ス又此男肝ヲ潰シ前後左右ヲ回顧シテ尋ルニ聞
余トシテ人ナシ若ヤ狐狸ノ妖セルニヤト又引返シ下向シケルガ
長途只此事ノミ憂慮シテ歸宅スルト其マ、先彼ノ女ノ病
氣如何ト問ニ先日死去ニテ明後日ハ二七日ナリト云ニサテ
く不動坂ニ逢シハ正シク死去ノ日ナリトテ感涙ヲ流シテ始
終ヲ語リケレバ一族此ヲ聞テ皆袂ヲシボリケル其年ノ秋
淨真院ノ使僧慈淵桑名屋ニテ内室ノ語ラレシヲ聞シトナリ
平生高野信仰ノ女ナル故ニ亡竈モ即日參詣セルナリ大師ノ
御引導憑シク羨シカラズヤ○又壽量院長雄寶永七年五

〔⑤下末 08 才

〔⑤下末 08 ウ

月八日ノ曉鐘未ダ告ザルニ長雄ノ枕上ニ婦女忽然トシ現レ我ヲ弔ヒ玉ヘト云雄ノ曰ク汝ハ何國ヨリ來リ何人ソ名ハ何ト云ゾト問ニ遠國ノ者名ハ理貞ト申ス平生觀音様ヲ信仰致セシ者ナリト云畢テ消ヌ長雄夢寤テ不審ナガラモ弟子圓鏡ニカクト告即チ塔婆ヲ建理貞信女ト書セ奠供ヲナシ理趣經ヲ讀誦シ光明真言ヲ念誦シテ丁寧ニ回向シテ若ヤ去年ノ日牌月牌ノ内ノ名使僧取落シタルヤト諸院ノ過去帳委細ニ校合吟味スルニ少モ贖モ不足モナシ然ニ其日ノ未ノ刻ニ江戸因幡町石山加左衛門一家板倉新三郎登山シテ曰ク私妻ハ加左衛門娘ニテ候シガ去ジ十二月八日ニ病死イタシ彼ガ追善ノ爲ニ遙々參詣ノ由ヲ仲ルニ長雄今曉ノ夢想思合

續鑛石下末

九

セサテハ理貞信女ト申スニヤト云バ新三郎驚キテ成程永壽院正譽理貞ト云書付ヲ出シ如何シテ戒名ヲ御存知ナサレ候ヤト問長雄今朝ノ夢想平生觀音信仰ノ事理貞ノ塔婆ヲ書回向セシト共委細ニ語ラレケレバ新三郎大ニ驚キ涙ヲ流シテサテハハ冤我ヨリ先立テ上リ御回向ニ預リシヨナ此ヲハ妻カ平生信仰ノ觀音ヨ此阿弥陀佛ハ惠心僧都ノ作トテ厨子ニ入存生ノ衣裳ニテ調シ幡一雙彼是祠堂銀等マデ淨施シ日牌ヲ建追福回向ノ法事鄭重ニ修セシメテ怡悦シテ下向シト圓鏡ノ口説ナリ○又寶永五年二月廿二日ノ夜圓鏡獨リ燈ノ下ニ卷ヲ繙テ見世ノ人ヲ伴トセルニ五更ニ至テ暫ク眠ラントスルニ誰ヤラン障子ヲ啓テ入ル

月八日ノ曉鐘未ダ告ザルニ長雄ノ枕上ニ婦女忽然トシ現レ我ヲ弔ヒ玉ヘト云雄ノ曰ク汝ハ何國ヨリ來リ何人ソ名ハ何ト云ゾト問ニ遠國ノ者名ハ理貞ト申ス平生觀音様ヲ信仰致セシ者ナリト云畢テ消ヌ長雄夢寤テ不審ナガラモ弟子圓鏡ニカクト告即チ塔婆ヲ建理貞信女ト書セ奠供ヲナシ理趣經ヲ讀誦シ光明真言ヲ念誦シテ丁寧ニ回向シテ若ヤ去年ノ日牌月牌ノ内ノ名使僧取落シタルヤト諸院ノ過去帳委細ニ校合吟味スルニ少モ贖モ不足モナシ然ニ其日ノ未ノ刻ニ江戸因幡町石山加左衛門一家板倉新三郎登山シテ曰ク私妻ハ加左衛門娘ニテ候シガ去ジ十二月八日ニ病死イタシ彼ガ追善ノ爲ニ遙々參詣ノ由ヲ仲ルニ長雄今曉ノ夢想思合

續鑛石下末

九

セサテハ理貞信女ト申スニヤト云バ新三郎驚キテ成程永壽院正譽理貞ト云書付ヲ出シ如何シテ戒名ヲ御存知ナサレ候ヤト問長雄今朝ノ夢想平生觀音信仰ノ事理貞ノ塔婆ヲ書回向セシト共委細ニ語ラレケレバ新三郎大ニ驚キ涙ヲ流シテサテハハ冤我ヨリ先立テ上リ御回向ニ預リシヨナ此コソハ妻カ平生信仰ノ觀音ヨ此阿弥陀佛ハ惠心僧都ノ作トテ厨子ニ入存生ノ衣裳ニテ調シ幡一雙彼是祠堂銀等マデ淨施シ日牌ヲ建追福回向ノ法事鄭重ニ修セシメテ怡悦シテ下向シト圓鏡ノ口説ナリ○又寶永五年二月廿二日ノ夜圓鏡獨リ燈ノ下ニ卷ヲ繙テ見世ノ人ヲ伴トセルニ五更ニ至テ暫ク眠ラントスルニ誰ヤラン障子ヲ啓テ入ル

⑤下末 09ウ

⑤下末 09オ

首ヲ同共赤色ノ卓圍ヲ蒙レル者又一方ノ障子ヲ開テ直ニ
厨庫ニ往テ水船ノ水飲ル粧牛馬ノ水飼ニ似テ冷シケレバ不審ク
恐シケレバ立出見ントセシニ彼者立還リ寮ニ入ヲ見レバ初ノ如ク緋
キ卓圍蒙レル故汝ハ何者ニテ何地ヨリ来レルヤト問ニ蒙物ヲ脱
ヲ見バ半元服ノ若者僕ハ攝津國兵庫ノ長田村弥三兵衛
弟次郎吉ナリ今ハ玄覺ト改ム當二月六日ニ死去故ニ當山ノ
御追善ニ預リタク存シ参リタリト云ヲ聞テ憶ヒ出セバ舊冬使
僧ニ下リ節ハ其郷其方ガ宅ヘモ往堅固達者ノ人ニテ給仕懃
懃ナリシニ哀ナルカナ冥路ニ赴レケルヤ心得タリイカニモ訪ヒ與エ
ナント云ハ弥御回向頼ミ奉ルト云テ搔消ヤウニ失ニケリ夢ニモ
アラズ幻ニモアラズ不思議ナルコトカナト獨語スルヲ老僧長雄

●續鑛石下末

十

聞付テ即チ興来テハ龜ト應對セル始終ヲ再ヒ問決シテ不
思議ナリ次郎吉定テ命過シヌラン回向シテ得サセヨトテ院内
ノ僧徒ヲ悉ク呼起シ夜未タ明ザルニ續經誦咒シテ至心ニ回
向セラレケレバ片脇ヨリ申スヤウ正シク舊冬相逢シ時ヲ思ヘハ
息災堅固ニシテ彼方此方ト馳走セシナレバ合点ノユカヌ事カ
ナト云ヘバ未ダ物馴サル小僧共夜中ニ起サレタルヲ恨ニヤ思ヒ
ケンはハ圓鏡房ノ謔言ナルヲ老師ノ例ノ夜ノ寝ラレヌ故ニ聞
咎メテウソ眠タキニ諸人ヲ起シ騷ギ玉フ何ノ益ナキコトヨツ
ツバヤキケルモ尤ナリ此事隣寺ニモ傳ヘ聞ヘテ不思議ト云
人モアリ謔語ノ上ヨヨ老僧モ阿房律儀ナリト晒ルモアルニ三
月十三日彼次郎吉カ兄弥三兵衛登山シテ玄覺ガ爲ニ日

首ヲ回セバ赤色ノ卓圍ヲ蒙レル者又一方ノ障子ヲ開テ直ニ
厨庫ニ往テ水船ノ水飲ル粧牛馬ノ水飼ニ似テ冷シケレバ不審ク
恐シケレバ立出見ントセシニ彼者立還リ寮ニ入ヲ見レバ初ノ如ク緋
キ卓圍蒙レル故汝ハ何者ニテ何地ヨリ来レルヤト問ニ蒙物ヲ脱
ヲ見バ半元服ノ若者僕ハ攝津國兵庫ノ長田村弥三兵衛
弟次郎吉ナリ今ハ玄覺ト改ム當二月六日ニ死去故ニ當山ノ
御追善ニ預リタク存シ参リタリト云ヲ聞テ憶ヒ出セバ舊冬使
僧ニ下リ節ハ其郷其方ガ宅ヘモ往堅固達者ノ人ニテ給仕懃
懃ナリシニ哀ナルカナ冥路ニ赴レケルヤ心得タリイカニモ訪ヒ與エ
ナント云ハ弥御回向頼ミ奉ルト云テ搔消ヤウニ失ニケリ夢ニモ
アラズ幻ニモアラズ不思議ナルコトカナト獨語スルヲ老僧長雄

●續鑛石下末

十

聞付テ即チ興来テハ龜ト應對セル始終ヲ再ヒ問決シテ不
思議ナリ次郎吉定テ命過シヌラン回向シテ得サセヨトテ院内
ノ僧徒ヲ悉ク呼起シ夜未タ明ザルニ續經誦咒シテ至心ニ回
向セラレケレバ片脇ヨリ申スヤウ正シク舊冬相逢シ時ヲ思ヘハ
息災堅固ニシテ彼方此方ト馳走セシナレバ合点ノユカヌ事カ
ナト云ヘバ未ダ物馴サル小僧共夜中ニ起サレタルヲ恨ニヤ思ヒ
ケンはハ圓鏡房ノ謔言ナルヲ老師ノ例ノ夜ノ寝ラレヌ故ニ聞
咎メテウソ眠タキニ諸人ヲ起シ騷ギ玉フ何ノ益ナキコトヨツ
ツバヤキケルモ尤ナリ此事隣寺ニモ傳ヘ聞ヘテ不思議ト云
人モアリ謔語ノ上ヨヨ老僧モ阿房律儀ナリト晒ルモアルニ三
月十三日彼次郎吉カ兄弥三兵衛登山シテ玄覺ガ爲ニ日

⑤下末10オ

⑤下末10ウ

牌ヲ建追福ヲ修シテ始終ヲ語ルニゾ。長雄ノ慈悲深ク圓鏡
カ靈感ヲ皆々歎伏シヌ。亡者早ク登山シテ追善ヲ乞。戒名マ
デヲ名乗リシハ。地藏經ノ說ノ如ク。七七日ノ間ニ無量ノ受苦ア
ル故ニ。念々ニ親族ノ追福ヲ望ムト說玉ヘルコト。金口ノ誠說誰カ
信ゼザランヤ。是モ中有鬼道ニアル故ニ。大ニ水ヲ飲ナラン。亡者ニ
水ヲ手向ルコトヲ。疎慢ニスルコトナカレ。○元祿六年四月紀州伊
都郡伏原村市太夫ガ婢。種子ト云者ヲ近處エ使ニ遣シ戻リ
スル道。我宿所デ半町程ニナリテ。背ヨリゾツト寒クナリ。戰慄シ
テ家ニワメキ歸リ。ヤレサムヤ喉ノ渴クト狂亂ス。市太夫家内皆
愕キ藥ノ水ノト噪ギヌルニ。中ニ市太夫カ妻。何トナク心付テ
汝ハ何國ヨリ來リ。何ノ所望アルヤト問ケレバ。下女答テ曰ク

續鑛石下末

十一

我ハ新助ガ妻ナリ。相果テ後。子孫ナケレバ誰カ我ガ爲ニ茶湯
一盃手向ザレバ。飢渴コト限リナシ。先湯ヲ飲シメ玉ヘト云アイダ。俄
ニ湯ヲ沸シ飲シムレバ。二升ホドモ飲今ハ足ヌト心好ゲニ復入リ。
翌日ハ平生ノ如クニナリヌレバ。昨日ノ事ヲ問ニ。只背ヨリ攪立
ルヤウニ寒カリシヲ覺ヌルバカリニテ。其ノ餘ハ知ズト答フ。彼新
助ハ市太夫宅ヨリ。一町程東ノ方ノ。小家ニ栖ヌルカ。病死ノ後
妻子散々ニ成テ。何國ノ野邊ノ露ト消シ事。知人ナシ。サレバ
存生ノ時。市太夫カ家ヲ知リヌレバ。亡鬼其家ノ下女ニ託シ
テ。湯ヲ飲渴ヲ止メケルナリ。亡者ノ爲ニ施餓鬼ヲ勤メ。水茶
湯ヲ手向ルコト。古今ノ常例ナルニ。無益ノヤウニ思ヒ奠ラザルハ
邪見無慈悲ノ至リナリ。必ズ位牌ヲ建テ。骨ヲ高野山ニ登

牌ヲ建追福ヲ修シテ始終ヲ語ルニゾ。長雄ノ慈悲深ク圓鏡
カ靈感ヲ皆々歎伏シヌ。亡者早ク登山シテ追善ヲ乞。戒名マ
デヲ名乗リシハ。地藏經ノ說ノ如ク。七七日ノ間ニ無量ノ受苦ア
ル故ニ。念々ニ親族ノ追福ヲ望ムト說玉ヘルコト。金口ノ誠說誰カ
信ゼザランヤ。是モ中有鬼道ニアル故ニ。大ニ水ヲ飲ナラン。亡者ニ
水ヲ手向ルコトヲ。疎慢ニスルコトナカレ。○元祿六年四月紀州伊
都郡伏原村市太夫ガ婢。種子ト云者ヲ近處エ使ニ遣シ戻リ
スル道。我宿所マデ半町程ニナリテ。背ヨリゾツト寒クナリ。戰慄シ
テ家ニワメキ歸リ。ヤレサムヤ喉ノ渴クト狂亂ス。市太夫家内皆
愕キ藥ノ水ノト噪ギヌルニ。中ニ市太夫カ妻。何トナク心付テ
汝ハ何國ヨリ來リ。何ノ所望アルヤト問ケレバ。下女答テ曰ク

續鑛石下末

十一

我ハ新助ガ妻ナリ。相果テ後。子孫ナケレバ誰カ我ガ爲ニ茶湯
一盃手向ザレバ。飢渴コト限リナシ。先湯ヲ飲シメ玉ヘト云アイダ。俄
ニ湯ヲ沸シ飲シムレバ。二升ホドモ飲今ハ足ヌト心好ゲニ復入リ。
翌日ハ平生ノ如クニナリヌレバ。昨日ノ事ヲ問ニ。只背ヨリ攪立
ルヤウニ寒カリシヲ覺ヌルバカリニテ。其ノ餘ハ知ズト答フ。彼新
助ハ市太夫宅ヨリ。一町程東ノ方ノ。小家ニ栖ヌルカ。病死ノ後
妻子散々ニ成テ。何國ノ野邊ノ露ト消シ事。知人ナシ。サレバ
存生ノ時。市太夫カ家ヲ知リヌレバ。亡鬼其家ノ下女ニ託シ
テ。湯ヲ飲渴ヲ止メケルナリ。亡者ノ爲ニ施餓鬼ヲ勤メ。水茶
湯ヲ手向ルコト。古今ノ常例ナルニ。無益ノヤウニ思ヒ奠ラザルハ
邪見無慈悲ノ至リナリ。必ズ位牌ヲ建テ。骨ヲ高野山ニ登

⑤下末11ウ

セテ結縁セシメ。追善同向ヲ蒙ルベキモノナリ

十六ニハ刑罰ニ逢シム者同向ヲ蒙リ來テ禮ヲ云事

極樂堂照明院宣道闍梨。元祿十二年。九月十二日ノ夜夢ミラク。大勢ノ聲ニテ門ヲ敲ク故ニ。誰人ゾ何事ゾト尋ヌレバ。大坂ヨリ來リシ者共ナリト答フ。手ヲ門ヲ開キケルニ。門外ニ凡ソ數百人ト見テ。或ハ總髮或ハ長髮蓬ノ如ク或ハ出家或ハ女人皆異樣ニテ冷マジク覺ユレバ。夢寤テ存外ノ夢ヲモ見ツル事カナト。翌朝徒弟ニ語りケル時。大坂町奉行松平忠周公ヨリ書翰到來數年ノ刑罪帳相添來レリ。夜前ノ夢ハ是ナシメリト感シテ。塔婆ヲ書開眼供養シ。彼帳面ノ如ク同向シ。塔婆ヲ奥院ノ墓所ニ立。丁寧ニ追福ケル。其夜ノ夢ニ僧俗兩三輩來テ告

●續鑛石下末

十二

テ曰ク。御同向ノ功德ニ依テ重苦ヲ脱ルトイヘトモ。刑罪ニ逢ルモノ。古今幾ク千万人ゾ。無緣ノ同向届キガタシ。願クハ戒名ヲ授ケ玉ヘト。時ニ問和僧ハ何國ノ人ゾト。一人ノ曰ク平野ノ了專。次ハ快傳次ハ達導ナリト答フト思ヘバ寤ヌ。不審ナガラ翌朝戒名ヲ題シテ同向セリ。彼松平忠周公ハ。慈悲深クマシクテ死刑ハ天下ノ大法ナリトイヘドモ。大ニ悲ミ哀ミテ。亡鬼ノ爲ニ每歲ニ季ノ彼岸ト孟蘭盆會トニ。追福同向セヨトテ。祠堂金若干ヲ淨施シ玉ヘリト。宜導ノ直説ナリ。病死ハ人ノアルベキヤウナリ。刑罪ニ逢ハ九横ノ一ナレバ。倍悲愁ヲ生ジテ同向スベキナリ。○又享保元年ノ秋。武士一人赤松院へ駈込テ曰ク。拙者ハ出家ノ願アリ。御慈悲ヲ以テ剌染セシメ玉ヘト。僧一兩

セテ結縁セシメ。追善同向ヲ蒙ルベキモノナリ

十六ニハ刑罰ニ逢シム者同向ヲ蒙リ來テ禮ヲ云事

極樂堂照明院宣道闍梨。元祿十二年。九月十二日ノ夜夢ミラク。大勢ノ聲ニテ門ヲ敲ク故ニ。誰人ゾ何事ゾト尋ヌレバ。大坂ヨリ來リシ者共ナリト答フ。手ヲ門ヲ開キケルニ。門外ニ凡ソ數百人ト見テ。或ハ總髮或ハ長髮蓬ノ如ク或ハ出家或ハ女人皆異樣ニテ冷マジク覺ユレバ。夢寤テ存外ノ夢ヲモ見ツル事カナト。翌朝徒弟ニ語りケル時。大坂町奉行松平忠周公ヨリ書翰到來數年ノ刑罪帳相添來レリ。夜前ノ夢ハ是ナシメリト感シテ。塔婆ヲ書開眼供養シ。彼帳面ノ如ク同向シ。塔婆ヲ奥院ノ墓所ニ立。丁寧ニ追福ケル。其夜ノ夢ニ僧俗兩三輩來テ告

●續鑛石下末

十二

テ曰ク。御同向ノ功德ニ依テ重苦ヲ脱ルトイヘトモ。刑罪ニ逢ルモノ。古今幾ク千万人ゾ。無緣ノ同向届キガタシ。願クハ戒名ヲ授ケ玉ヘト。時ニ問和僧ハ何國ノ人ゾト。一人ノ曰ク平野ノ了專。次ハ快傳次ハ達導ナリト答フト思ヘバ寤ヌ。不審ナガラ翌朝戒名ヲ題シテ同向セリ。彼松平忠周公ハ。慈悲深クマシクテ死刑ハ天下ノ大法ナリトイヘドモ。大ニ悲ミ哀ミテ。亡鬼ノ爲ニ每歲ニ季ノ彼岸ト孟蘭盆會トニ。追福同向セヨトテ。祠堂金若干ヲ淨施シ玉ヘリト。宜導ノ直説ナリ。病死ハ人ノアルベキヤウナリ。刑罪ニ逢ハ九横ノ一ナレバ。倍悲愁ヲ生ジテ同向スベキナリ。○又享保元年ノ秋。武士一人赤松院へ駈込テ曰ク。拙者ハ出家ノ願アリ。御慈悲ヲ以テ剌染セシメ玉ヘト。僧一兩

⑤下末12ウ

⑤下末12ウ

人相對シテ其土ノ生國氏族主人等ヲ尋問ニ分明ナラズ。唯
一篇ニ剃髮ヲ望ミケレバ。衆僧辯シテ曰ク。元來當院ノ檀家ニ
モアラズ。生國ノ一家主人朋輩ヨリ添狀アルニアラザレバ。一山ノ
制法ニ背クヲ以テ。剃髮ハ叶フベカラズト。理ヲ盡シテ曉シケレ
バ。彼士是非ナクテ歸リケルガ。出家セザレバ。一分ノ立サル子細
ヤアリケン。夜更テ又門内ニ忍ビ入り。腹撞切テ死ケル。翌日見
著テ愕キ集議ニ訴ヘ。檢使ヲ受。事漸ク相濟デ。讀經誦咒
シテ回向シ葬リケルニ。其夜ヨリ毎夜院主ノ夢ニ彼亡魂來テ出
家ノ願叶ハズ。無念ナリト恨ミケル故。法眷中ヲ召キ集メ。出家
授戒ノ軌則ヲ調テ授ケ。法事ヲ修シテ弔レケレバ。其夜ハ亡者
出家ノ形ニ威儀ヲ刷ヒ。出家授戒ノ功德ニ因テ。苦趣ヲ

續鑛石下末

十三

免レタリト禮儀ヲ述テ去リテ。再ビ來ラザリキト。照明院實
城ノ記録ニ載ラレタリ。○天正中ニ信州伊奈郡遠山ノ城主
遠山遠江守ト云。同弟ヲ遠山新助トテ弓ノ上手ニテ。百發
百中ノ妙。落鳥哭猿ノ術。鎮西八郎。八幡太郎ニモ劣ラザル勇
士ニテ。其威遠近ニ震ヒシカバ。隣郡ノ豪酋モ威恐レテ竊ニ計リ
ケルハ。互ニ勝負ヲ決センコトハ。我等ガ及ブベキニアラズ。何トゾ訴リ
親シテ。饗宴ニ事ヨセ。油斷セシメテ討ントゾ支度シケル。既ニ計策
定リテ。贈物ヲ厚フシ言ヲ遜リ交ヲ結ビ忠ヲ盡スニ似タレバ。如
何ナル猛將モ賄賂ニ心迷ヒ。弭憍ル心起リケルコソウタテケレ。或
時敵方ヨリ遠山兄弟ヲ召キ酒ヲ進ント請ジケレバ。何意モ
ナク肯ヒテ打連テ來リケル。兼テ待設タル事ナレバ。種々ノ

人相對シテ其土ノ生國氏族主人等ヲ尋問ニ分明ナラズ。唯
一篇ニ剃髮ヲ望ミケレバ。衆僧辯シテ曰ク。元來當院ノ檀家ニ
モアラズ。生國ノ一家主人朋輩ヨリ添狀アルニアラザレバ。一山ノ
制法ニ背クヲ以テ。剃髮ハ叶フベカラズト。理ヲ盡シテ曉シケレ
バ。彼士是非ナクテ歸リケルガ。出家セザレバ。一分ノ立サル子細
ヤアリケン。夜更テ又門内ニ忍ビ入り。腹撞切テ死ケル。翌日見
著テ愕キ集議ニ訴ヘ。檢使ヲ受。事漸ク相濟デ。讀經誦咒
シテ回向シ葬リケルニ。其夜ヨリ毎夜院主ノ夢ニ彼亡魂來テ出
家ノ願叶ハズ。無念ナリト恨ミケル故。法眷中ヲ召キ集メ。出家
授戒ノ軌則ヲ調テ授ケ。法事ヲ修シテ弔レケレバ。其夜ハ亡者
出家ノ形ニ威儀ヲ刷ヒ。出家授戒ノ功德ニ因テ。苦趣ヲ

續鑛石下末

十三

免レタリト禮儀ヲ述テ去リテ。再ビ來ラザリキト。照明院實
城ノ記録ニ載ラレタリ。○天正中ニ信州伊奈郡遠山ノ城主
遠山遠江守ト云。同弟ヲ遠山新助トテ弓ノ上手ニテ。百發
百中ノ妙。落鳥哭猿ノ術。鎮西八郎。八幡太郎ニモ劣ラザル勇
士ニテ。其威遠近ニ震ヒシカバ。隣郡ノ豪酋モ威恐レテ竊ニ計リ
ケルハ。互ニ勝負ヲ決センコトハ。我等ガ及ブベキニアラズ。何トゾ訴リ
親シテ。饗宴ニ事ヨセ。油斷セシメテ討ントゾ支度シケル。既ニ計策
定リテ。贈物ヲ厚フシ言ヲ遜リ交ヲ結ビ忠ヲ盡スニ似タレバ。如
何ナル猛將モ賄賂ニ心迷ヒ。弭憍ル心起リケルコソウタテケレ。或
時敵方ヨリ遠山兄弟ヲ召キ酒ヲ進ント請ジケレバ。何意モ
ナク肯ヒテ打連テ來リケル。兼テ待設タル事ナレバ。種々ノ

⑤下末 13ウ

美酒嘉肴ヲ列テ終日酒盛シテ。興酣ナリケル時。一人耳語
キケルヤウ。此遠山ハ聞ヘシ強弓ノ手垂ナリ。其ノ射藝ヲ試ス
シテ殺サンハ。無念ノ事ナリトテ。荒鉄八枚ヲ沙ニ埋ミ。前ニ的ヲ
立テ白シケルハ。遠山殿ノ弓勢兼テ承リ及ブ處ナリ。一箭所望
ナリト云。新助少モ辭退セズ。即チ座ヲ立テ弓ヲ押張り弦咬
シメテ。鏑矢取テツガヒ。能引テ兵ト放ツニ。謬ダズノ真中ヲ
ヲ射徹シ。砂ノ中ニ羽ブクラ責テ立タリケル。皆一同ニ感歎シ
テ。砂ヲ崩シ見ルニ。鉄八枚ヲ射徹シケレバ。聞シニ増ル強弓ナリ
トテ。舌ヲ卷キ恐レケレバ。誰討ント云者モナク。ヲメ／＼ト歸シケ
ルガ。傍ニテ私ニ評議スラク。久シク計リテ討漏シヌルコト。残念
限リナシ。此企後日聞ヘスモノナラバ。我等虜トナランコト疑ナ

●續鑛石下末

十四

シ如何ハセント頼ヲ合セ眉ヲ攢メテ悲ミケル時。一リノ老人ノ曰ク
勇者ハ必ズシモ仁ナラズ。境内隣郷叛ルモノ無ニシモアラザルベシ。
幸遠山ノ四五里ノ手前ナル大河原ノ者共。常ニ鐵鎧ヲ稽古
シテ。猪鹿ヲ殺ニ妙ヲ得タリ。性貪リ義少シ。彼等ニ黃金ヲ與
ヘテ。不意ヲ討シメバ。心易カルベシト評議是ニ一決シテ。才智アル
士ヲ問道ヨリ回シテ。百姓共ヲ頼ミケレバ。案ノ如ク早速ニ領
掌シテ。山間ノ難處ニ鳥銃ヲ構ヘ待居ケルヲ。斯トハ知ズ遠山
ハ酒ニ酔ヒ。能機嫌ニテ歸リケルヲ。小笹ノ中ヨリ揀ヒ矯スマシ
テ。一度ニ頓ト放チケレバ。象棋倒ノ如クニ皆討レヌ。中ニ新助
一人立アガリ。大刀ヲ閃カシ大音聲ヲ揚テ。何者ノ仕業ナ
レバ斯計ルゾ。憎キ奴原カナ。出テ名乗レ勝負ヲ決セント。呼

美酒嘉肴ヲ列テ終日酒盛シテ。興酣ナリケル時。一人耳語
キケルヤウ。此遠山ハ聞ヘシ強弓ノ手垂ナリ。其ノ射藝ヲ試ス
シテ殺サンハ。無念ノ事ナリトテ。荒鉄八枚ヲ沙ニ埋ミ。前ニ的ヲ
立テ白シケルハ。遠山殿ノ弓勢兼テ承リ及ブ處ナリ。一箭所望
ナリト云。新助少モ辭退セズ。即チ座ヲ立テ弓ヲ押張り弦咬
シメテ。鏑矢取テツガヒ。能引テ兵ト放ツニ。謬ダズノ真中ヲ
ヲ射徹シ。砂ノ中ニ羽ブクラ責テ立タリケル。皆一同ニ感歎シ
テ。砂ヲ崩シ見ルニ。鉄八枚ヲ射徹シケレバ。聞シニ増ル強弓ナリ
トテ。舌ヲ卷キ恐レケレバ。誰討ント云者モナク。ヲメ／＼ト歸シケ
ルガ。傍ニテ私ニ評議スラク。久シク計リテ討漏シヌルコト。残念
限リナシ。此企後日聞ヘスモノナラバ。我等虜トナランコト疑ナ

●續鑛石下末

十四

シ如何ハセント頼ヲ合セ眉ヲ攢メテ悲ミケル時。一リノ老人ノ曰ク
勇者ハ必ズシモ仁ナラズ。境内隣郷叛ルモノ無ニシモアラザルベシ。
幸遠山ノ四五里ノ手前ナル大河原ノ者共。常ニ鐵鎧ヲ稽古
シテ。猪鹿ヲ殺ニ妙ヲ得タリ。性貪リ義少シ。彼等ニ黃金ヲ與
ヘテ。不意ヲ討シメバ。心易カルベシト評議是ニ一決シテ。才智アル
士ヲ問道ヨリ回シテ。百姓共ヲ頼ミケレバ。案ノ如ク早速ニ領
掌シテ。山間ノ難處ニ鳥銃ヲ構ヘ待居ケルヲ。斯トハ知ズ遠山
ハ酒ニ酔ヒ。能機嫌ニテ歸リケルヲ。小笹ノ中ヨリ揀ヒ矯スマシ
テ。一度ニ頓ト放チケレバ。象棋倒ノ如クニ皆討レヌ。中ニ新助
一人立アガリ。大刀ヲ閃カシ大音聲ヲ揚テ。何者ノ仕業ナ
レバ斯計ルゾ。憎キ奴原カナ。出テ名乗レ勝負ヲ決セント。呼

ハリケレド返答ミ及バズ。唯打殺ト數十挺ノ鐵鉋霰ノ如ク打ケレバ。新助力身鐵石ニアラザレバ。立強ニナリテ死ニケル。夫ヨリ大河原村ニ八種ノ災難起リ。人多ク病死シテ村モ絶果スベクアリケレバ。遠山ガ怨靈ヲ宥ガ爲ニ。遠山八幡宮ト祝ケル。サテコソ崇リモ少ハ静リケルガ。又寛永ノ比疫癘流行シテ。人多ク死失ケル故。俄ニ八幡宮エ御湯ヲ上。神樂ヲ奏シテ慰メ有メケレバ。庄屋ノ妻俄ニ口走り。我ハ遠山八幡ナリ。村民ヲ悉ク蹴殺サント念ヘドモ。神ニ祝ヒ貴ム故ニ。不便ヲ加ヘ助ケ置ニ。我が前ニ酒肉ヲ引散ジ。自己ヲガ遊興ヲ專ニシテ。實ニ我ヲ貴ノ心少キ故。苦患免レガタシ。早ク高野山ニ於テ追福ヲ修スルナラバ。此般ノ疫癘モ止テ。村中モ繁榮スベシト。氏子老若男女此ヲ聞テ大ニ愕キ。村

●續鑛石下末

十五

ノ長三人ヲ差テ俄ニ高野ニ登セ。松之坊實性阿闍梨ニ對面シテ。八幡宮建立ノ次第。今回疫癘流行託宣ノ事共ヲ委細ニ述テ。追善ヲ請ケレバ。遠山院新入道助大居士ト改名シ。光明理趣三昧ヲ修シテ。丁寧ニ回向シ。日牌ノ靈供茶湯急ラザレバ。其ヨリ大河原ノ災難一切ト止デ。村民日ヲ追テ繁昌セリト。松之坊寂性ノ説ナリ。伏シテ惟ルニ神ニ祝ハ唯敬ノミニシテ出離生死。成三菩提ノ爲トハ成ザレバ。神賢クモ追福回向ヲ請レケルモノカナ。靈龜高野ニ登テ後。必ズ大師ノ御引導ニ預リ。悉ク密嚴淨土ノ聖衆トナル故ニ。却テ一族ヲ擁護シ。有緣ヲ冥加シテ脱苦得樂シ。現世安穩後生善處ナラシム。何ノ怨念カ殘ラヤ。故ニ往古ノ猛將多田満中ヨリ初メテ。六十餘州ノ公侯伯

ハリケレド返答ニモ及バズ。唯打殺ト數十挺ノ鐵鉋霰ノ如ク打ケレバ。新助力身鐵石ニアラザレバ。立強ニナリテ死ニケル。夫ヨリ大河原村ニ八種ノ災難起リ。人多ク病死シテ村モ絶果スベクアリケレバ。遠山ガ怨靈ヲ宥ガ爲ニ。遠山八幡宮ト祝ケル。サテコソ崇リモ少ハ静リケルガ。又寛永ノ比疫癘流行シテ。人多ク死失ケル故。俄ニ八幡宮エ御湯ヲ上。神樂ヲ奏シテ慰メ有メケレバ。庄屋ノ妻俄ニ口走り。我ハ遠山八幡ナリ。村民ヲ悉ク蹴殺サント念ヘドモ。神ニ祝ヒ貴ム故ニ。不便ヲ加ヘ助ケ置ニ。我が前ニ酒肉ヲ引散ジ。自己ヲガ遊興ヲ專ニシテ。實ニ我ヲ貴ノ心少キ故。苦患免レガタシ。早ク高野山ニ於テ追福ヲ修スルナラバ。此般ノ疫癘モ止テ。村中モ繁榮スベシト。氏子老若男女此ヲ聞テ大ニ愕キ。村

●續鑛石下末

十五

ノ長三人ヲ差テ俄ニ高野ニ登セ。松之坊實性阿闍梨ニ對面シテ。八幡宮建立ノ次第。今回疫癘流行託宣ノ事共ヲ委細ニ述テ。追善ヲ請ケレバ。遠山院新入道助大居士ト改名シ。光明理趣三昧ヲ修シテ。丁寧ニ回向シ。日牌ノ靈供茶湯急ラザレバ。其ヨリ大河原ノ災難一切ト止デ。村民日ヲ追テ繁昌セリト。松之坊寂性ノ説ナリ。伏シテ惟ルニ神ニ祝ハ唯敬ノミニシテ出離生死。成三菩提ノ爲トハ成ザレバ。神賢クモ追福回向ヲ請レケルモノカナ。靈龜高野ニ登テ後。必ズ大師ノ御引導ニ預リ。悉ク密嚴淨土ノ聖衆トナル故ニ。却テ一族ヲ擁護シ。有緣ヲ冥加シテ脱苦得樂シ。現世安穩後生善處ナラシム。何ノ怨念カ殘ラヤ。故ニ往古ノ猛將多田満中ヨリ初メテ。六十餘州ノ公侯伯

子男。士農工商万民ノ骨ヲ納メ。霧牌ヲ建塔婆ヲ安置スルコト。職トシテ此ノ由ナリ。何ノ人カ遵奉セザランヤ○又豊後州臼杵海添ト云處。微祿ヲ食安藤兵助ト云侍アリ。元来無病ナリシガ。不圖煩ヒ付針灸藥飼手段ヲ盡セドモ病日ニ重リテ。神子巫覡ヲ頼ミ立ヌ願モナク。山伏陰陽師ヲ請ジテ。勤又祈禱モナカリケル。近處ニ藥師寺善兵衛トテ。村ノ組頭ナル者アリ。天性質直無偽慈悲信心ノ男ニテ。乞食非人回國ノ僧ナドノ病ニ侵レ行斃ナドセルヲ見テハ。駈回リテ藥リヲ與看病スルコト親子ノ如ク。若死セル時ハ人ヲ頼ミ僧ヲ請ジテ。野邊ノ送りヲ營ミ墓誌ヲ建。追福回向マデヲ修スルコト數度ナリケレバ。諸人慙敬ヒケル。今兵助ガ病ノ難治ナルヲ見テ。只ナラヌ事ニ思ヒ試ニ問。汝ガ

續鑛石下末

十六

病普通ノ事ニアラズ。鬼魅怨靈ノ所爲ト察スルゾ。恨ノ事アラバ子細ヲ語レ。若取殺ス者ナラバ。其ノ屍骸ヲ其マ置テ。藥師坊ヲ頼ミ。祕法ヲ修セシメテ。其ノ空蟬ノ蛻ニ。汝ガ亡魂ヲ封シ籠段ニ切テ。兵助カ怨ヲ報ンゾト。一タビハ怒リ。一タビハ宥メテ。サマク責問ケルニ。兵助ムクト起アガリ。吾全ク左ヤウノ畜類鬼神ニアラズ。語ルトモ人信ゼジト。善兵衛聞テイヤトヨ。子細ヲ聞テ理ニ叶ハバ。爭デカ信ゼザラン。疾ク語ト云ニ。兵助カ云ク。我ハ元阿波國司貞家公ニ仕ヘシ者。故アリテ浪人シ。世渡ル業ヲ知ザレバ。劫盜追剝シテ夫婦ノ活命トセシニ。攝州京橋ニテ此兵助ガ先祖安藤佐源太ニ出逢ヒ。互ニ切結ビ暫ク戦フニ愛ナク討レヌルハ熊權太郎ト云者ノ夫婦ノ靈ナリ。因テ兵助カ命ヲ取テ

子男。士農工商万民ノ骨ヲ納メ。霧牌ヲ建塔婆ヲ安置スルコト。職トシテ此ノ由ナリ。何ノ人カ遵奉セザランヤ○又豊後州臼杵海添ト云處ニ。微祿ヲ食安藤兵助ト云侍アリ。元来無病ナリシガ。不圖煩ヒ付針灸藥飼手段ヲ盡セドモ病日ニ重リテ。神子巫覡ヲ頼ミ立ヌ願モナク。山伏陰陽師ヲ請ジテ。勤又祈禱モナカリケル。近處ニ藥師寺善兵衛トテ。村ノ組頭ナル者アリ。天性質直無偽慈悲信心ノ男ニテ。乞食非人回國ノ僧ナドノ病ニ侵レ行斃ナドセルヲ見テハ。駈回リテ藥リヲ與看病スルコト親子ノ如ク。若死セル時ハ人ヲ頼ミ僧ヲ請ジテ。野邊ノ送りヲ營ミ墓誌ヲ建。追福回向マデヲ修スルコト數度ナリケレバ。諸人慙敬ヒケル。今兵助ガ病ノ難治ナルヲ見テ。只ナラヌ事ニ思ヒ試ニ問。汝ガ

續鑛石下末

十六

病普通ノ事ニアラズ。鬼魅怨靈ノ所爲ト察スルゾ。恨ノ事アラバ子細ヲ語レ。若取殺ス者ナラバ。其ノ屍骸ヲ其マ置テ。藥師坊ヲ頼ミ。祕法ヲ修セシメテ。其ノ空蟬ノ蛻ニ。汝ガ亡魂ヲ封シ籠段ニ切テ。兵助カ怨ヲ報ンゾト。一タビハ怒リ。一タビハ宥メテ。サマク責問ケルニ。兵助ムクト起アガリ。吾全ク左ヤウノ畜類鬼神ニアラズ。語ルトモ人信ゼジト。善兵衛聞テイヤトヨ。子細ヲ聞テ理ニ叶ハバ。爭デカ信ゼザラン。疾ク語ト云ニ。兵助カ云ク。我ハ元阿波國司貞家公ニ仕ヘシ者。故アリテ浪人シ。世渡ル業ヲ知ザレバ。劫盜追剝シテ夫婦ノ活命トセシニ。攝州京橋ニテ此兵助ガ先祖安藤佐源太ニ出逢ヒ。互ニ切結ビ暫ク戦フニ愛ナク討レヌルハ熊權太郎ト云者ノ夫婦ノ靈ナリ。因テ兵助カ命ヲ取テ

遺恨ヲ散ズルナリト。善兵衛聞テ不審スラク。兵助ガ先祖ニ佐源太ト云人聞及バズ。特ニ尤アリト云事。夢ニモ知ズ。何ノ時代ノ事ゾト。亡寇ノ日ク應徳二年四月十八日。其時吾ハ廿八歳。妻ハ十八歳。今寶永六年マデハ。六百二十五年ニナルナリト。聞人皆驚異セズト云事ナシ。善兵衛ガ曰ク。多ノ甲子ヲ積ヌレバ。我々が知ザルモ理リナリ。サテ不審頗ル多シ。其久怨ヲ今兵助ニ報ズルハ何事ゾ。サレバ最後ノ一念。子々孫々ニ至ルマデ。此恨ヲバ必ズ忘レズ。酬ント思ヒ結ビタル念力凝テ。六百有餘ノ星霜ヲ經テ終ニ散ズルコトナク。普ク國々ヲ巡リ尋ルニ。此正月七日疫神ノ風ニ御テヒラス火ノ筑紫ニテ出合ヌ。兵助ハ庶子ナレドモ嫡家ヲ繼シ故ニ恨ミヲ報ズルナリト。善兵問ク。兵助ヲ取殺シ尤久

●續鑛石下末 十七

シキ怨ヲ報ヒナバ。後ニ善處ニ生スルヤ。サレバ其ノ義ハ知ズト。善兵衛聞テサモアラメ。然バ汝能聞ベシ。討レシモ盜賊ノ故ナリ。兵助ハ子孫ナリトイヘドモ。昔ノ事ハ夢ニモ知ヌ。久シキ先祖ノ怨ヲ二十代モ過タル末孫ヲ惱ス。其業力爭デカ善處ニ生ゼンヤ。弥惡趣ニ墮シテ。無量劫ノ苦患ヲ受ベシ。只我が教訓ニ任セテ。兵助ガ命ヲ助ヨ。汝カ爲ニハ藥師坊ヲ頼ミ。寺前ニ石塔ヲ建真言不思議ノ加持力ニテ。忽ニ善處ニ往生セシメント云ニ。病人少クサレ俯キテ言ナカリシガ。ヤガテ顔ヲ擡テ。誠ニ貴殿ノ言ノ如ク。元來渾テ無理僻事ナリ。最後ノ一念ノ迷ゾカシ。追善ヲダニ作玉ハハ惱スベカラズト云ニ。善兵ガ曰ク。明日ハ必ズ弔ハン必ズ惱スベカラズト約スルニ。病人思ノ外ニ快氣ス。善兵約束ノ如ク弔

遺恨ヲ散ズルナリト。善兵衛聞テ不審スラク。兵助ガ先祖ニ佐源太ト云人聞及バズ。特ニ尤アリト云事。夢ニモ知ズ。何ノ時代ノ事ゾト。亡寇ノ日ク應徳二年四月十八日。其時吾ハ廿八歳。妻ハ十八歳。今寶永六年マデハ。六百二十五年ニナルナリト。聞人皆驚異セズト云事ナシ。善兵衛ガ曰ク。多ノ甲子ヲ積ヌレバ。我々が知ザルモ理リナリ。サテ不審頗ル多シ。其久怨ヲ今兵助ニ報ズルハ何事ゾ。サレバ最後ノ一念。子々孫々ニ至ルマデ。此恨ヲバ必ズ忘レズ。酬ント思ヒ結ビタル念力凝テ。六百有餘ノ星霜ヲ經テ終ニ散ズルコトナク。普ク國々ヲ巡リ尋ルニ。此正月七日疫神ノ風ニ御テヒラス火ノ筑紫ニテ出合ヌ。兵助ハ庶子ナレドモ嫡家ヲ繼シ故ニ恨ミヲ報ズルナリト。善兵問ク。兵助ヲ取殺シ尤久

●續鑛石下末 十七

シキ怨ヲ報ヒナバ。後ニハ善處ニ生ズルヤ。サレバ其ノ義ハ知ズト。善兵衛聞テサモアラメ。然バ汝能聞ベシ。討レシモ盜賊ノ故ナリ。兵助ハ子孫ナリトイヘドモ。昔ノ事ハ夢ニモ知ヌ。久シキ先祖ノ怨ヲ二十代モ過タル末孫ヲ惱ス。其業力爭デカ善處ニ生ゼンヤ。弥惡趣ニ墮シテ。無量劫ノ苦患ヲ受ベシ。只我が教訓ニ任セテ。兵助ガ命ヲ助ヨ。汝カ爲ニハ藥師坊ヲ頼ミ。寺前ニ石塔ヲ建真言不思議ノ加持力ニテ。忽ニ善處ニ往生セシメント云ニ。病人少クサシ俯キテ言ナカリシガ。ヤガテ顔ヲ擡テ。誠ニ貴殿ノ言ノ如ク。元來渾テ無理僻事ナリ。最後ノ一念ノ迷ゾカシ。追善ヲダニ作玉ハハ惱スベカラズト云ニ。善兵ガ曰ク。明日ハ必ズ弔ハン必ズ惱スベカラズト約スルニ。病人思ノ外ニ快氣ス。善兵約束ノ如ク弔

⑤下末17ウ

ントスルニ俄カニ公用ニ取紛レテ。一兩日延引シケレバ。兵助病氣散、
ミテ。善兵方エ云遣スヤウ。今ヤクト弔ヲ待ニ。言ニ相違シテ弔
ハレザルコトヲ恨ミナレト云。善兵來テ。是ハ公用故ニ是非ナク
延引セルゾ。怠リニアラズト言。病人得心シテ氣色モ快シ。善兵
藥師坊エ語リケレバ。尤ナリ但シ其石塔ノ事ハ元藥師ノ地ニ
立ベシ。當寺ハ除地ナレバ。如何ト云バ處ハ何地ナリトモ子細ハア
ラジ葬禮ノ支度スベシト云ニ。又兵助ガ弟毒々シキ聲シテ瞋テ
狂ヒ旬ケルハ。我ハ權太郎ガ妻ナリ。我等ガ石塔ヲ藥師寺ノ
前ニ建ベシトノ約束ナリ。元藥師トハ誰カ約ゾヤト。女ノ聲ニテ
呼ハリケル處ヘ。藥師寺善兵來テ。ハ驚ノ心ニ忤ヘルコトヲ知テ。
成程聞届ヌ約束ノ如ク夫婦一所ニ弔ハント云バ。悦ベル氣色ニ

●續鑛石下末

十八

テ止ヌ。藥師坊壇ヲ構ヘ。六種ノ供養ヲ供ヘ。三密ノ觀行ヲ
凝シテ。慇懃ニ引導ノ作法シ回向セラレケレバ。兵助眼ヲ放タ
ズ守リ居ル。何ヲ見ツメタルゾト問バ。壇ノ面ニ白裝束セル男女
並坐セリト。餘人ハ是ヲ見ルコトナカリキ。次ニ葬送ノ儀式
常ノ如クシテ。藥師坊ノ前ニ墓ヲ築キ。石塔ヲ建。戒名俗名
年号月日マデ彫付タレバ。兵助カ病氣忘レタルガ如ク平愈セリト。
彼善兵衛。兵助。藥師坊。共ニ現在シテ。千手院谷西生院ノ弟子
秀圓三三人列坐シテ物語リセシトナリ。二人ノハ竟ノ戒名ヲバ
忘シテ記セズ。律ニ曰ク假令經百劫所作業不亡。因緣會遇時
果報還自受。文兵助カ先祖六百年餘ノ怨モ。因緣相會時ニ
報ヲ受ク。善兵衛ハ善知識ナレバ。能コソ曉諭シテ怨ヲ止シメ。

●續鑛石下末

十八

⑤下末 18ウ

⑤下末 18オ

追善ヲ修セリサナクニ互ニ輪回息ムコトナカラシ。人トシテ假令ニ
モ怨害ノ心ヲ生スミキ事ナリ欽メヤ

十七ニハ光明真言ノ法靈驗ノ事

花遊谷ノ西明院有源法印。寛永年中ニ意願アツテ。光明真
言ノ法一千座修行。結願ノ日結衆中ヲ請ジテ。光明三昧ヲ修
セシメテ齋ヲ供養セラル。其夜ノ夢ニ甲冑束帶セル武士夥ク
來リ。甲冑ヲ帶シナガラ合掌シ。或ハ長跪シテ曰ク。朝夕勤行
ノ利益サヘ廣大ナルニ。殊ニ深祕ノ行法金磬振鈴ノ音ゴトニ
我門モ有縁ノ一分ナレバ。俱ニ大利ヲ蒙リ。重苦ヲ脱レ安穩ヲ
得タリ。先御禮ヲ申シ上。トテモノ事ニ各別ニ御回向ヲ蒙リナ
バ。往生淨土頓證菩提疑ヒアルベカラスト口ヲソロヘ。頭ヲ低テ歎

●續鑛石下末

十九

ク有源怪ミ問。各ハ何國ノ人ゾ。有縁ノ一分トハ曾テ覺ヘナシト
アレバ。衆人ノ曰ク。某甲共ハ行安大刀ニテ命ヲ失ヒシ輩ナリ。年
此刀御寺ニ納リ法物トナリケレバ。昔ハ恨アリシガ。今ハ引替テ
有難キ法縁ヲ結ビ。且暮ニ御回向ニ預リ侍ル。猶復功德甚
深ナル行法。廣大ノ慈愍ヲ蒙リ。安漕ガ浦ニ引鯛ノ。度々ノ
御回向ヲ願ヒ奉ルナド云ト思ヘバ。夢寤ヌ。此ノ不思議ノ夢想
ニ驚テ。夜中ニ起テ沐浴更衣シテ。即チ光明真言ノ法ヲ修シ
同向セラル。熟ト夢中ノ事ヲ案ズルニ。元此利器ハ勢州津ノ城主
藤堂高重公ヨリ。奉納ノ隨一ナリ。思ニ高虎ノ代ヨリ。此太刀ニテ
幾千万ノ敵ヲ討滅サレシ。其ハ兎ノ来レルナラント。即彼千
座ノ行法ヲ前行ニ充テ。土沙加持ヲ修シテ。普ク回向セラレケレバ。

追善ヲ修セリサナクニ互ニ輪回息ムコトナカラシ。人トシテ假令ニ
モ怨害ノ心ヲ生スミキ事ナリ欽メヤ

十七ニハ光明真言ノ法靈驗ノ事

花遊谷ノ西明院有源法印。寛永年中ニ意願アツテ。光明真
言ノ法一千座修行。結願ノ日結衆中ヲ請ジテ。光明三昧ヲ修
セシメテ齋ヲ供養セラル。其夜ノ夢ニ甲冑束帶セル武士夥ク
來リ。甲冑ヲ帶シナガラ合掌シ。或ハ長跪シテ曰ク。朝夕勤行
ノ利益サヘ廣大ナルニ。殊ニ深祕ノ行法金磬振鈴ノ音ゴトニ
我門モ有縁ノ一分ナレバ。俱ニ大利ヲ蒙リ。重苦ヲ脱レ安穩ヲ
得タリ。先御禮ヲ申シ上。トテモノ事ニ各別ニ御回向ヲ蒙リナ
バ。往生淨土頓證菩提疑ヒアルベカラスト口ヲソロヘ。頭ヲ低テ歎

●續鑛石下末

十九

ク有源怪ミ問。各ハ何國ノ人ゾ。有縁ノ一分トハ曾テ覺ヘナシト
アレバ。衆人ノ曰ク。某甲共ハ行安大刀ニテ命ヲ失ヒシ輩ナリ。一年
此刀御寺ニ納リ法物トナリケレバ。昔ハ恨アリシガ。今ハ引替テ
有難キ法縁ヲ結ビ。且暮ニ御回向ニ預リ侍ル。猶復功德甚
深ナル行法。廣大ノ慈愍ヲ蒙リ。安漕ガ浦ニ引鯛ノ。度々ノ
御回向ヲ願ヒ奉ルナド云ト思ヘバ。夢寤ヌ。此ノ不思議ノ夢想
ニ驚テ。夜中ニ起テ沐浴更衣シテ。即チ光明真言ノ法ヲ修シ
同向セラル。熟ト夢中ノ事ヲ案ズルニ。元此利器ハ勢州津ノ城主
藤堂高重公ヨリ。奉納ノ隨一ナリ。思ニ高虎ノ代ヨリ。此太刀ニテ
幾千万ノ敵ヲ討滅サレシ。其ハ兎ノ来レルナラント。即彼千
座ノ行法ヲ前行ニ充テ。土沙加持ヲ修シテ。普ク回向セラレケレバ。

其夜ヨリ三夜同ジク亡鬼共現シテ禮謝セシ由シ。不思議ノ靈驗巨多ナリト記録ニ載レタリト。琳光房ノ物語ナリ。○又同ク伊勢藤堂大學頭殿ノ家中。西川氏平生高野山信仰ニテ殊ニ親昵ノ檀越ナリ。曾テ其ノ一家有縁ノ位牌ヲ建置自身モ逆修ノ日牌ヲ立置ル。或時唯一人登山ニテ。西明院ニ相見今般ハ急ニ存ジ立登山セリ。直ニ奥院エ參詣スベシ。前方建立セル位牌ドモ倍御回向頼ムノ由ヲ言テ。語少ニテ立出ラル。院主留テ先道中ノ疲ヲ御休メ緩メト參詣シ玉ヘト云ト。聞モ入ズ詣ラル。ホドニ。案内ノ僧ヲ進ズベシト。一リノ僧ヲ走ラシムルニ。見失ヒテ是非ナク空ク歸ル。下向ニハ立寄ルヘキゾト。食物支度シテ待ドモ暮ニ及ブマテ終ニ見ザリケレバ。何事カ心ニ忤ヒテ直ニ下

續鑛石下末

二十

向アリシゾト。皆不審晴ザルニ。七日過テ伊勢ヨリ書束到來シテ。某日死去ノ由ヲ計來ル。死去ノ日亡靈ノ登山アリシ事。不思議ナル事カナ。幽靈ナリト知ラバ。氣ヲ付テ見ベキヲト言バ。小僧共イヤク知ヌカ佛ナリ。實ニ幽靈ナリト知ラバ。恐シカルベシト。取々ニ沙汰シテ。追善ノ法事ヲ修セリト。出座セル良縁ノ物語リナリ。サレバ逆修ノ位牌ヲ立置ハ。點キ策ナリ。誰人モ羨ミ建ベキナリ

十八ハ燈明ヲ供スル功德利益ノ事

茅堂千藏院ノ惠觀享保二年ノ春水戸相公ノ家中ノ高士。山野邊氏ノ本ヘ下向アリシ。山野邊氏ノ内室光耀院殿追福ノ爲ニ靈牌ヲ建立。且ツ常燈明ヲ挑ベキノ由。委細惠觀ニ囑ラル。觀此事ヲ諾ヒテ。歸山ノ後。急ギ飾屋ニ言付テ金燈籠

其夜ヨリ三夜同ジク亡鬼共現シテ禮謝セシ由シ。不思議ノ靈驗巨多ナリト記録ニ載ラレタリト。琳光房ノ物語ナリ。○又同ク伊勢藤堂大學頭殿ノ家中。西川氏平生高野山信仰ニテ殊ニ親昵ノ檀越ナリ。曾テ其ノ一家有縁ノ位牌ヲ建置自身モ逆修ノ日牌ヲ立置ル。或時唯一人登山ニテ。西明院ニ相見今般ハ急ニ存ジ立登山セリ。直ニ奥院エ參詣スベシ。前方建立セル位牌ドモ倍御回向頼ムノ由ヲ言テ。語少ニテ立出ラル。院主留テ先道中ノ疲ヲ御休メ緩メト參詣シ玉ヘト云ト。聞モ入ズ詣ラル。ホドニ。案内ノ僧ヲ進ズベシト。一リノ僧ヲ走ラシムルニ。見失ヒテ是非ナク空ク歸ル。下向ニハ立寄ルヘキゾト。食物支度シテ待ドモ暮ニ及ブマテ終ニ見ザリケレバ。何事カ心ニ忤ヒテ直ニ下

續鑛石下末

二十

向アリシゾト。皆不審晴ザルニ。七日過テ伊勢ヨリ書束到來シテ。某日死去ノ由ヲ計來ル。死去ノ日亡靈ノ登山アリシ事。不思議ナル事カナ。幽靈ナリト知ラバ。氣ヲ付テ見ベキヲト言バ。小僧共イヤク知ヌカ佛ナリ。實ニ幽靈ナリト知ラバ。恐シカルベシト。取々ニ沙汰シテ。追善ノ法事ヲ修セリト。出座セル良縁ノ物語リナリ。サレバ逆修ノ位牌ヲ立置ハ。點キ策ナリ。誰人モ羨ミ建ベキナリ

十八ハ燈明ヲ供スル功德利益ノ事

茅堂千藏院ノ惠觀享保二年ノ春水戸相公ノ家中ノ高士。山野邊氏ノ本ヘ下向アリシ。山野邊氏ノ内室光耀院殿追福ノ爲ニ靈牌ヲ建立。且ツ常燈明ヲ挑ベキノ由。委細惠觀ニ囑ラル。觀此事ヲ諾ヒテ。歸山ノ後。急ギ飾屋ニ言付テ金燈籠

⑤下末 20ウ

⑤下末 20オ

ヲ造リ。六月三日ヨリ始テ燈明ヲ燃シ。供養ノ法事ヲ修行シテ。靈寃得脱ノ由ヲ回向シ。猶生々世々。清淨光明ノ身ヲ得。衆人ニ愛敬セラレ。速ニ般若ノ智光ヲ得玉フベキノ理リヲ記シテ。施主家ヘ文通セラル。其八月二日ノ夜夢ニモアラズ。現ニモアラズ。光耀院殿剃髮染衣ノ相ニテ。孝息山野邊氏ヘ見テ。我ハ高野山ニテ殊勝ノ法縁ニ逢シ故。冥路朗然トシテ光明照耀シ。早ク淨土ニ往生セルゾト。分明ニ告玉ヒケレバ。不思議ノ夢想ヲ感ジ近習ノ五七輩ニ語り悦ビ玉ヘルニ。同三日ニ高野山ヨリ書東相達シ。彼常燈六月三日ニ供養ノ法筵ヲ展テ。永ク三會ノ曉ヲ期ストアリ。此書到著ノ前ニ豫メ靈寃得脱ノ相ヲ現ジ玉ヘルコト。符節ヲ合セタルガ如シト。件ノ夢想ノ事共具ニ

續鑛石下末

二十一

書調ヘテ返束アリケレバ。光耀院ノ戒名常燈ノ利益。名即實體ナリト。諸人奇特ノ想ヲ作り。○又千手院谷圓光院ノ本尊ハ明遍僧都ノ作三尺五寸ノ阿弥陀佛ナリ。傳説スラク當院ハ蓮華谷ニテ大悲金剛院ト号シ。即チ當院ト蓮華三昧院トハ三部ヲ表シ玉フ。其佛部ノ一院ナリト。寛永年中ニ摂州福井ノ住人新庄五兵衛ト云者。當本尊ノ靈驗ヲ感ジテ。佛前ニ常燈明ヲ供養スベシト願ヲ發シ登山セシ折節院主同宿皆他行ニテ漸ク堂守ノ道心一人ノミナレバ。新庄對面ストイドモ應對モ不都合ナレバ。願ノ事モ胸中ニ秘シテ。翌日下向シ。又次年登山スルニ又院主留守ナレバ。是非ナク下向ス。第三度ニ登山スルモ亦留主ナリケレバ。吾再三及ビ登山スルニ。每度鳳字ヲ題シ歸リ願望

ヲ造リ。六月三日ヨリ始テ。燈明ヲ燃シ。供養ノ法事ヲ修行シテ。靈寃得脱ノ由ヲ回向シ。猶生々世々。清淨光明ノ身ヲ得。衆人ニ愛敬セラレ。速ニ般若ノ智光ヲ得玉フベキノ理リヲ記シテ。施主家ヘ文通セラル。其八月二日ノ夜夢ニモアラズ。現ニモアラズ。光耀院殿剃髮染衣ノ相ニテ。孝息山野邊氏ヘ見テ。我ハ高野山ニテ殊勝ノ法縁ニ逢シ故。冥路朗然トシテ光明照耀シ。早ク淨土ニ往生セルゾト。分明ニ告玉ヒケレバ。不思議ノ夢想ヲ感ジ近習ノ五七輩ニ語り悦ビ玉ヘルニ。同三日ニ高野山ヨリ書東相達シ。彼常燈六月三日ニ供養ノ法筵ヲ展テ。永ク三會ノ曉ヲ期ストアリ。此書到著ノ前ニ豫メ靈寃得脱ノ相ヲ現ジ玉ヘルコト。符節ヲ合セタルガ如シト。件ノ夢想ノ事共具ニ

續鑛石下末

二十一

書調ヘテ返束アリケレバ。光耀院ノ戒名。常燈ノ利益。名即實體ナリト。諸人奇特ノ想ヲ作り。○又千手院谷圓光院ノ本尊ハ明遍僧都ノ作三尺五寸ノ阿弥陀佛ナリ。傳説スラク當院ハ蓮華谷ニテ大悲金剛院ト号シ。即チ當院ト蓮華三昧院トハ三部ヲ表シ玉フ。其佛部ノ一院ナリト。寛永年中ニ摂州福井ノ住人新庄五兵衛ト云者。當本尊ノ靈驗ヲ感ジテ。佛前ニ常燈明ヲ供養スベシト願ヲ發シ登山セシ折節院主同宿皆他行ニテ漸ク堂守ノ道心一人ノミナレバ。新庄對面ストイヘドモ應對モ不都合ナレバ。願ノ事モ胸中ニ秘シテ。翌日下向シ。又次年登山スルニ又院主留守ナレバ。是非ナク下向ス。第三度ニ登山スルモ亦留主ナリケレバ。吾再三及ビ登山スルニ。每度鳳字ヲ題シ歸リ願望

⑤下末21ウ

⑤下末21オ

空カラキコト。此寺ニ縁ナキカ。然レバトテ燈明料ノ金子少クニアラザレバ。此ノ留守居ニ手渡シセンモ心好カラズ。國ニ歸リ何ノ寺ニテナリトモ。佛事ヲ營イソマバヤト思ヒ定メテ臥スニ。五兵夢トモ現トモナク小僧一人來リ。枕上ニ立テ。汝佛前ニ常燈ヲ供ゼント願ネガフ起シテ登山スルコト再三。時熟セザレバ。空ク下向ス。此度モ亦空ク下山ノ心アリ。汝ガ志ヲ受シテ最初ノ一念ノ萌モヨリス。是ノ金子ヲ外ノ事ニ用ルコト勿レ。汝ガ心ニ疑ヒ多ク信心ノ勇猛ナラザル故ナリ。今夜宜ク工夫セヨトテ。疊タビヲ舉テ押込ミ玉フ。一間ノ疊フスマニ。衾ノ如ク閉合シテ出ントスルニ叶ハズ。聲ヲ揚テ僕ヲ呼トモ唯モナク。甚苦痛セル音。堂司ノ耳ニ入。驚テ手燭モテ行見レハ。疊ノ下ニムグメキウロモテ鼯鼠ノ如シ。漸ク疊ヲ舉ケレバ匍匐出テ暫クハ

●續鑛石下末

二十二

無言ナリシガ。後ニ氣付テ涙ヲ流シ申シケルハ。カホドマデ靈驗新ナルコトヲ疑ヒシ。凡夫ノ情ヲ淺マシクモ。又耻カシクモ侍ルトテ。燈明供養ノ爲ニ三たび登山セシコトヲ語り。委細ニ懺悔シテ。金子取出シ相渡シ。其後信心倍增シテ。奥院エモ常燈三基マデ建立供養ジケル。積善餘慶ニテ。子孫相續テ富貴ナリ。未來ニハ須弥燈王如來ト記別ヲ授ランコト。何ノ疑カ是アラント。院主卓暢ノ説ナリ。寔ニ燈明ハ般若波羅蜜ナレバ。無明ノ暗夜ヲ破スルコト。最第一ノ供養ナリ。心アラシ人ハ勤メテ燈明ヲ供養ズベキナリ

十九ニハ光明真言加持土沙ノ利益ノ事

江州瀧田船屋六右衛門ト云男。親ノ譲リ與ヘシ家財調度

空ムナシキコト。此寺ニ縁ナキカ。然レバトテ燈明料ノ金子少クニアラザレバ。此ノ留守居ニ手渡シセンモ心好カラズ。國ニ歸リ何ノ寺ニテナリトモ。佛事ヲ營イソマバヤト思ヒ定メテ臥スニ。五兵夢トモ現トモナク小僧一人來リ。枕上ニ立テ。汝佛前ニ常燈ヲ供ゼント願ネガフ起シテ登山スルコト再三。時熟セザレバ。空ク下向ス。此度モ亦空ク下山ノ心アリ。汝ガ志ヲ受シコト最初ノ一念ノ萌モヨリス。是ノ金子ヲ外ノ事ニ用ルコト勿レ。汝ガ心ニ疑ヒ多ク信心ノ勇猛ナラザル故ナリ。今夜宜ク工夫セヨトテ。疊タビヲ舉テ押込ミ玉フ。一間ノ疊フスマニ。衾ノ如ク閉合シテ出ントスルニ叶ハズ。聲ヲ揚テ僕ヲ呼トモ唯モナク。甚苦痛セル音。堂司ノ耳ニ入。驚テ手燭モテ行見レハ。疊ノ下ニムグメキウロモテ鼯鼠ノ如シ。漸ク疊ヲ舉ケレバ匍匐出テ暫クハ

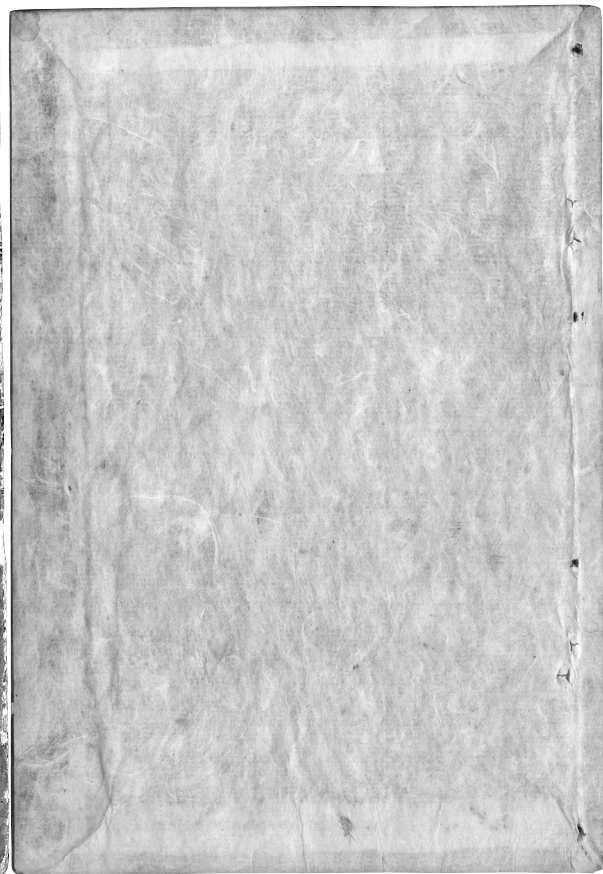
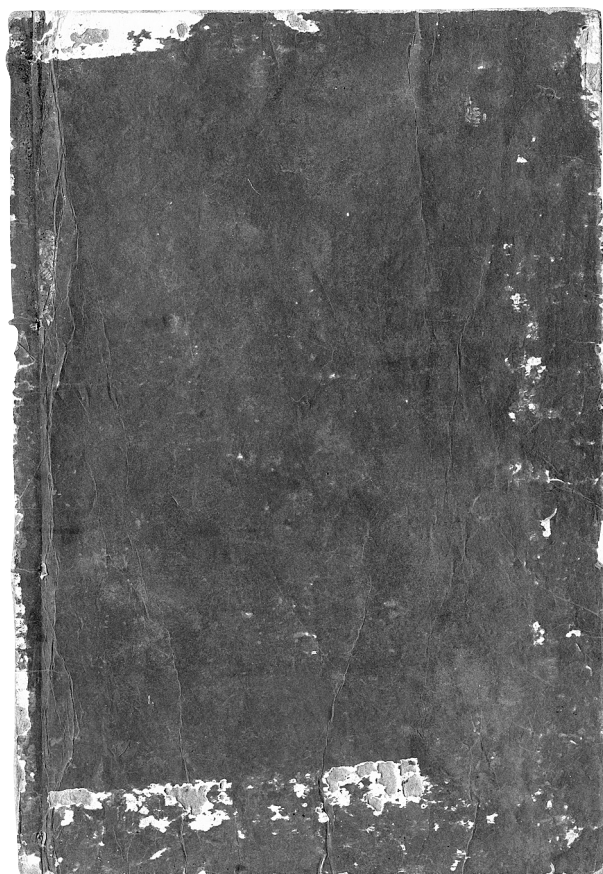
●續鑛石下末

二十二

無言ナリシガ。後ニ氣付テ涙ヲ流シ申シケルハ。カホドマデ靈驗新ナルコトヲ疑ヒシ。凡夫ノ情ヲ淺マシクモ。又耻カシクモ侍ルトテ。燈明供養ノ爲ニ三たび登山セシコトヲ語り。委細ニ懺悔シテ。金子取出シ相渡シ。其後信心倍增シテ。奥院エモ常燈三基マデ建立供養ジケル。積善餘慶ニテ。子孫相續テ富貴ナリ。未來ニハ須弥燈王如來ト記別ヲ授ランコト。何ノ疑カ是アラント。院主卓暢ノ説ナリ。寔ニ燈明ハ般若波羅蜜ナレバ。無明ノ暗夜ヲ破スルコト。最第一ノ供養ナリ。心アラシ人ハ勤メテ燈明ヲ供養ズベキナリ

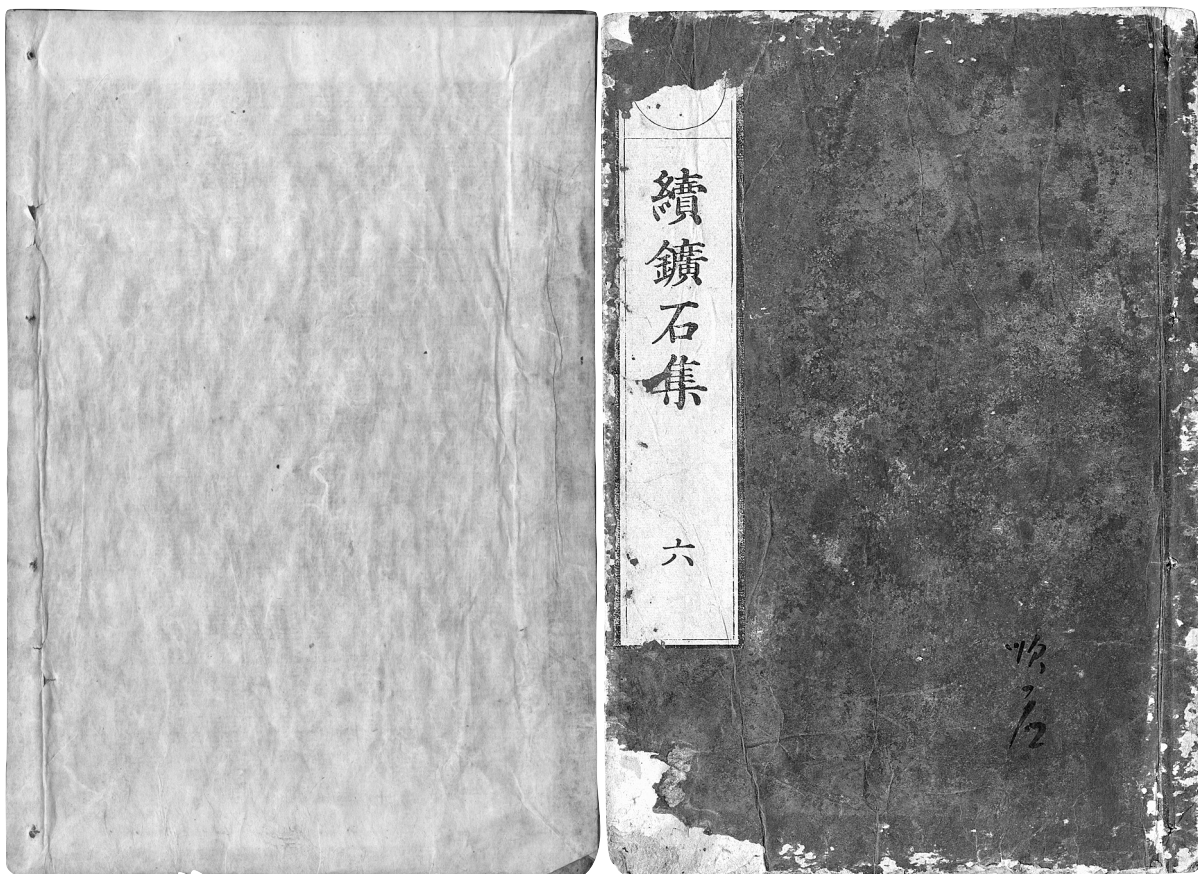
十九ニハ光明真言加持土沙ノ利益ノ事

江州瀧田船屋六右衛門ト云男。親ノ譲リ與ヘシ家財調度

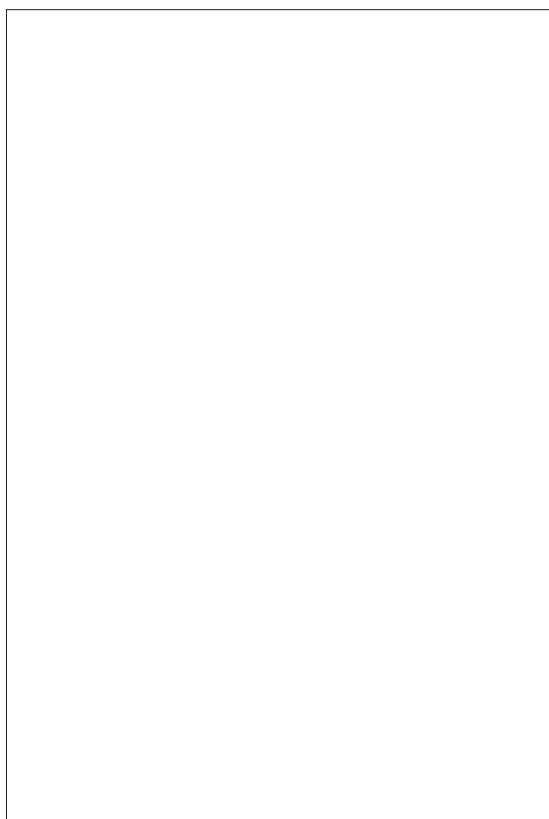


「⑤下裏表紙

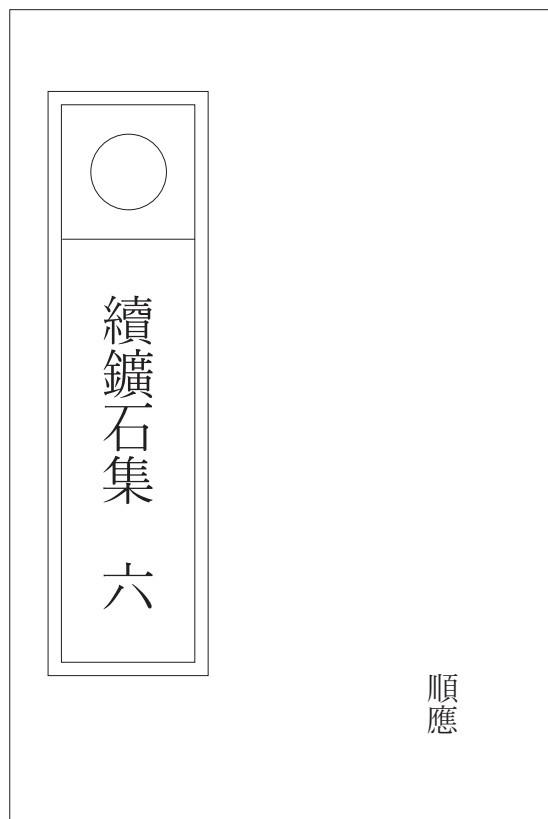
(白丁)「⑤下裏表紙見返



(白丁)「⑥下末表紙見返



「⑥下末表紙



何ニ付テモ乏シカラズ。朝夕ノ炊煙モ賑々シク。他人羨ムバカリニ
テ榮華ヲ極メ。夫婦兩好同ク壯年ニテ。比翼連理ノ契リ淺カラ
ズ互ニ誓言ニ及ビ。生々世々マデアダシ心ヲ持ジ。人間ノ習ナレバ
若一人先立コトアラバ。再ビ妻子ヲ持ツベカラズト堅ク誓約ス。
然ニ生者必滅會者定離ノ理リハ。梵釋輪王スラ免レ玉ハネバ。
妻纔ノ病氣俄ニ重クナリ。終ニ死ス。歸リ來ン事モ堅田ニ引綱
ノ目ニマリタル我涙カナト。六右浮世ノ歎ハ是ノミ無常ノ愁
苦ハ。只我一人ノミナリト。明トモナク晦トモナク。憂ノ海ニ沈ミ。
モ昔ノ妻ノ顔ヲ見バヤト眠レドモ。其ノ甲斐ナク。鏡山イザ立ヨ
リテ見テ往ン空シキ人ノ影ヤノコルト隙行駒ノ足早ク。月日ヲ
重ネヌレバ朋輩一家ノ者共寄集テ。後妻ヲ迎ヘテ然ルベシト諫

續鑛石下末

二十三

レドモ毛頭契約ヲ忘レバ。聊モ肯フ心ナシ。彼是ト云間ニ三年忌
ニモ成ケレバ。此春大津坂本ノ西教寺ニ。常念佛ノ回向アツテ。
貴賤羣集スルヲ聞テ。亡妻ガ三年忌ヲモ弔ヒ且ハ自分ノ氣
鬱ヲモ散ゼバヤト。回向ノ場ニ詣ヌレド。見ニ付聞ニ付テ亡妻ノ
事ノミヲ思ヒ焦レ。無興氣ニテ獨リ戻リケル路次ニテ。何地ヨ
リカ來ニケラシ。二ハバカリノ少女下女二人ヲ召連テ。先ニ進ミ
歩ミケル後姿鬘髮ノ結曲マデ。吾亡妻ニ微塵バカリモ違ヒナケ
レバ。心迷醉シテトモノ事ニ面ヲ見バヤト進ミ回顧スレバ。全ク我
ガ亡妻ノ甦生セルニヤト思ヒ。トテモノ事ニ音便ヲ聞バヤト言
フ挂レバ音韻彷彿タレバ。六右モ心緩ミ何ノ人ノ娘ゾト見ツ
隠ツ追行歸リ入宅ヲ見届テ。夜モ寐レバ後妻ヲ迎ヨト諫

何ニ付テモ乏シカラズ。朝夕ノ炊煙モ賑々シク。他人羨ムバカリニ
テ榮華ヲ極メ。夫婦兩好同ク壯年ニテ。比翼連理ノ契リ淺カラ
ズ互ニ誓言ニ及ビ。生々世々マデアダシ心ヲ持ジ。人間ノ習ナレバ
若一人先立コトアラバ。再ビ妻子ヲ持ツベカラズト堅ク誓約ス。
然ニ生者必滅會者定離ノ理リハ。梵釋輪王スラ免レ玉ハネバ。
妻纔ノ病氣俄ニ重クナリ。終ニ死ス。歸リ來ン事モ堅田ニ引綱
ノ目ニマリタル我涙カナト。六右浮世ノ歎ハ是ノミ無常ノ愁
苦ハ。只我一人ノミナリト。明トモナク晦トモナク。憂ノ海ニ沈ミ。
モ昔ノ妻ノ顔ヲ見バヤト眠レドモ。其ノ甲斐ナク。鏡山イザ立ヨ
リテ見テ往ン空シキ人ノ影ヤノコルト隙行駒ノ足早ク。月日ヲ
重ネヌレバ朋輩一家ノ者共寄集テ。後妻ヲ迎ヘテ然ルベシト諫

續鑛石下末

二十三

レドモ毛頭契約ヲ忘レネバ。聊モ肯フ心ナシ。彼是ト云間ニ三年忌
ニモ成ケレバ。此春大津坂本ノ西教寺ニ。常念佛ノ回向アツテ。
貴賤羣集スルヲ聞テ。亡妻ガ三年忌ヲモ弔ヒ且ハ自分ノ氣
鬱ヲモ散ゼバヤト。回向ノ場ニ詣ヌレド。見ニ付聞ニ付テ亡妻ノ
事ノミヲ思ヒ焦レ。無興氣ニテ獨リ戻リケル路次ニテ。何地ヨ
リカ來ニケラシ。二ハバカリノ少女下女二人ヲ召連テ。先ニ進ミ
歩ミケル後姿鬘髮ノ結曲マデ。吾亡妻ニ微塵バカリモ違ヒナケ
レバ。心迷醉シテトモノ事ニ面ヲ見バヤト進ミ回顧スレバ。全ク我
ガ亡妻ノ甦生セルニヤト思ヒ。トテモノ事ニ音便ヲ聞バヤト言
フ挂レバ音韻彷彿タレバ。六右モ心緩ミ何ノ人ノ娘ゾト見ツ
隠ツ追行歸リ入宅ヲ見届テ。夜モ寐レバ後妻ヲ迎ヨト諫

シ朋輩ヲ召キカル不思議ノ者モ世ニアリケルゾ。彼ナラバ何程ノ
費アリトモ迎ヘナント云ケレバ夫ヲ伊香立ノ久右衛門カ娘ヨ
容貌靡嬾ナレド玉ニ玼トテ。癩癩ノ病アル故ニ。一處エ嫁セシカド不
縁ニテ去レタリト云。六右聞テサモアラバアレ。病氣ヲ知ナガラ迎
ント云ニ何ゾ子細アランヤ。彼娘ナラバ早ク媒セヨト云。幸トテ首
尾調ヒ。吉日ヲ擇ビ迎ヘケルホドニ。何ノ間ニカ前妻ノ事ハ忘却
シテ又末ノ松山ト昵言ノミニ日ヲ暮シ夜ヲ明シケル。ヤガテ一リ
ノ男子ヲ生ジケレバ一家會合シテ悦コト限リナシ。掌上ニ一顆ノ
珠ノ如クニ守リ成長寵愛ス。然ルニ是マデハ何ノ所爲モナカリ
ツル。此子誕生ノ三七夜メヨリ。前妻ノ亡鬼形ヲ現ジテ夫婦
ノ間ニ入。屹ト白眼テ立居バ可畏コト限リナシ。一門共聞傳ヘ

●續鑛石下末

二十四

テ眉ヲ攢メ祈禱ヨ立願ヨト。神子山伏陰陽師ヲ請ジ祓ヤラ
道切ヤラ成ヌ祈リモナケレドモ。効驗少シモアラバコソ。窓ヨリ入牖
ヨリ出一夜モ止サレバ。夫婦モ是ニ懲果テ。後妻夫ニ向テ歎キ
ケルヤウ。厭モ嫌レモセヌ中ナレド。此ノ恐シサニハ命モ逼マリヌバ
暇ヲ賜ヘ暫ク故郷ニ歸リナバ亡靈ノ恨モ晴ヌベシト。泣ク故
郷ニ戻リヌレド。亡鬼来ルコト兩處共ニ同ジケレバ。怯懼コト限ナ
シ。時ニ伊香立道閑。後妻ガ曰ク。互ニアカデ素居スルハ亡靈ヲ
宥ガ爲ナリ。然ニ不止。兩處ニ来ルコトナレバ。トモ恨ハ盡ルマジ
然ラバ始ノ如ク一處ニ住シ恨ヲ受ハ一處ニ受死ハ一處ニ死婦
ハ夫ノ心ヲ背ザルカ本法ナリトテ。又送り戻ス。其ノ後モ亡靈ノ
来ルコトハ同ジケレバ。若住處ヲ替ハ来ラザラミヤト。先祖ヨリ

シ朋輩ヲ召キカル不思議ノ者モ世ニアリケルゾ。彼ナラバ何程ノ
費アリトモ迎ヘナント云ケレバ夫ヲ伊香立ノ久右衛門カ娘ヨ
容貌靡嬾ナレド玉ニ玼トテ。癩癩ノ病アル故ニ。一處エ嫁セシカド不
縁ニテ去レタリト云。六右聞テサモアラバアレ。病氣ヲ知ナガラ迎
ント云ニ何ゾ子細アランヤ。彼娘ナラバ早ク媒セヨト云。幸トテ首
尾調ヒ。吉日ヲ擇ビ迎ヘケルホドニ。何ノ間ニカ前妻ノ事ハ忘却
シテ又末ノ松山ト昵言ノミニ日ヲ暮シ夜ヲ明シケル。ヤガテ一リ
ノ男子ヲ生ジケレバ一家會合シテ悦コト限リナシ。掌上ニ一顆ノ
珠ノ如クニ守リ成長寵愛ス。然ルニ是マデハ何ノ所爲モナカリ
ツル。此子誕生ノ三七夜メヨリ。前妻ノ亡鬼形ヲ現ジテ夫婦
ノ間ニ入。屹ト白眼テ立居バ可畏コト限リナシ。一門共聞傳ヘ

●續鑛石下末

二十四

テ眉ヲ攢メ祈禱ヨ立願ヨト。神子山伏陰陽師ヲ請ジ祓ヤラ
道切ヤラ成ヌ祈リモナケレドモ。効驗少シモアラバコソ。窓ヨリ入牖
ヨリ出一夜モ止サレバ。夫婦モ是ニ懲果テ。後妻夫ニ向テ歎キ
ケルヤウ。厭モ嫌レモセヌ中ナレド。此ノ恐シサニハ命モ逼マリヌバ
暇ヲ賜ヘ暫ク故郷ニ歸リナバ亡靈ノ恨モ晴ヌベシト。泣ク故
郷ニ戻リヌレド。亡鬼来ルコト兩處共ニ同ジケレバ。怯懼コト限ナ
シ。時ニ伊香立道閑。後妻ガ曰ク。互ニアカデ素居スルハ亡靈ヲ
宥ガ爲ナリ。然ニ不止。兩處ニ来ルコトナレバ。トモ恨ハ盡ルマジ
然ラバ始ノ如ク一處ニ住シ恨ヲ受ハ一處ニ受死ハ一處ニ死婦
ハ夫ノ心ヲ背ザルカ本法ナリトテ。又送り戻ス。其ノ後モ亡靈ノ
来ルコトハ同ジケレバ。若住處ヲ替ハ来ラザラマシヤト。先祖ヨリ

⑥下末 24ウ

⑥下末 24オ

居住セル瀉田ヲ立退キ。大津ノ風呂屋ガ關ニ宅ヲ住スレドモ。靈ノ来ルコト夜々ナレバ。道閑アリ不便ニ思ヒ悲ミテ。高野ニ登リ追福バヤト心著テ。家ヲ出登山シテ千手院谷ノ清泰院ニ到著シテ。件ノ始終ヲ演説シ。能ク御回向ヲ頼住持有篇肯諾シテ怨靈得脱ノ法ヲ修シ。光明真言加持ノ土沙ヲ一裹ヲ與ヘテ。此加持物ヲ墓處ニ散ジ。水ヲ手向テ奠ラレヨ。頓成佛果疑ヒナレトテ。能ク曉諭セラレケレバ。道閑欽テ頂戴シ歸國シテ直ニ墓處ニ至リ。土沙ヲ散ジテ丁寧ニ回向シケレバ。不思議ナルカナ道閑高野上著ノ日ヨリ。忽ニ怨靈去テ再ビ来ラズ。夫婦數年ノ苦痛一時ニ止。一族諸人ノ嘲哂同日ニ除コリ。見ル人聞ク人高野信仰ノ心ヲ生ジ。真言不思議ノ利益ヲ貴ミケル。尔後一年ニ

●續鑛石下末

二十五

一兩度ハ亡靈見告アリトイヘドモ。喜ビテ来ルモノカ可畏キコトモナシ。猶モ追善ヲ乞フニテモヤアリナシ。彼六右衛門夫婦共ニ現在シテ。清泰院ノ親切ノ檀家ナリト。院主音深ノ説ナリ。左右恐ルベキハ女人ノ愛執ノ妄念ナリ

二十ニハ女人回向ヲ得テ成佛スル事

京都宮川町ノ住人何某享保元年ノ春。一人高野參詣ストテ麓ノ三軒茶屋ニ宿シ。亭主ニ語リケルハ。我ハ高野山ノ事不案内ナレド。聞及ビシ事ナレバ。少く志ノ事アリテ。亡者ノ爲ニ追善ヲ作。水佛トヤラシ書手向タク侍レドモ。何ノ寺何ナル僧ニ頼ムベキ知己モナシト云ニ。亭主弥兵衛ガ曰ク。我ハ日日高野ニ上下スル故念比ノ寺アリ。書狀添テ進ズベシトテ。西光谷普

居住セル瀉田ヲ立退キ。大津ノ風呂屋ガ關ニ宅ヲ住スレドモ。靈ノ来ルコト夜々ナレバ。道閑アマリ不便ニ思ヒ悲ミテ。高野ニ登リ追福バヤト心著テ。家ヲ出登山シテ千手院谷ノ清泰院ニ到著シテ。件ノ始終ヲ演説シ。能ク御回向ヲ頼住持有篇肯諾シテ怨靈得脱ノ法ヲ修シ。光明真言加持ノ土沙ヲ一裹ヲ與ヘテ。此加持物ヲ墓處ニ散ジ。水ヲ手向テ奠ラレヨ。頓成佛果疑ヒナシトテ。能ク曉諭セラレケレバ。道閑欽テ頂戴シ歸國シテ。直ニ墓處ニ至リ。土沙ヲ散ジテ丁寧ニ回向シケレバ。不思議ナルカナ道閑高野上著ノ日ヨリ。忽ニ怨靈去テ再ビ来ラズ。夫婦數年ノ苦痛一時ニ止。一族諸人ノ嘲哂同日ニ除コリ。見ル人聞ク人高野信仰ノ心ヲ生ジ。真言不思議ノ利益ヲ貴ミケル。尔後一年ニ

●續鑛石下末

二十五

一兩度ハ亡靈見告アリトイヘドモ。喜ビテ来ルモノカ可畏キコトモナシ。猶モ追善ヲ乞フニテモヤアリナシ。彼六右衛門夫婦共ニ現在シテ。清泰院ノ親切ノ檀家ナリト。院主音深ノ説ナリ。左右恐ルベキハ女人ノ愛執ノ妄念ナリ

二十ニハ女人回向ヲ得テ成佛スル事

京都宮川町ノ住人何某享保元年ノ春。一人高野參詣ストテ麓ノ三軒茶屋ニ宿シ。亭主ニ語リケルハ。我ハ高野山ノ事不案内ナレド。聞及ビシ事ナレバ。少く志ノ事アリテ。亡者ノ爲ニ追善ヲ作。水佛トヤラシ書手向タク侍レドモ。何ノ寺何ナル僧ニ頼ムベキ知己モナシト云ニ。亭主弥兵衛ガ曰ク。我ハ日日高野ニ上下スル故念比ノ寺アリ。書狀添テ進ズベシトテ。西光谷普

賢院ト尋玉ヘト手束ヲ渡セバ、恣ナシトテ持參シ。寺僧ニ逢テ、帝包一ツヲ取出シ。是ハ我們遁レザル者ノ死セル剃髮ナリ。法名モ書付アリ。御慈悲ニ御回向ナサレ下サレ。水佛トカヤ御書下サレナバ。奥院ニ納メ度候ト云。僧聞、屈テ塔婆書佛前ニ安ジテ開眼シ。彼男ニ相渡シ。案内者ノ童子ニ言付、髮ハ骨堂ニ納メ塔婆ハ水手向場トソレト教ヘテ參詣セシム。奥ノ院ニ參リテ骨堂ニ剃髮ヲ投入テ。暫ク念佛シ再ビ内ヲ見テ。頻リニ落涙シ。後ニ大聲上テ號哭シケル故ニ。前後ニ會ヘル人皆興ヲ醒シ。サテモ深キ憂ノアル人ニコソト。何事トハ知ネド共ニ涙ヲ流シケル。童子案内シテ是ハ大師ノ御廂ナリ。拜ミ玉ヘト云ドモ更ニ聞入ズ。良久シテ立起リ御廂ヲ泣キ拜ミ。護摩堂求聞持處。木食ノ庵ナドハ。視モヤラ

●續鑛石下末

二十一

ス。小兒ノ哭ヨリモ甚シク。前後モ辨ズ。高聲ニ號泣ホドニ。往來ノ人モ不審サウニ立住リテ回顧ル。案内ノ童子モ見目耻シケレバ。彼男ヲ捨置テ寺ニ歸リヌ。彼男涙ノ乾クコトナケレバ直ニ下山シテ。昨夜宿セシ弥兵衛力宅ニ下リ著。漸ク涙ヲ揮ヒ。御狀添玉フ故ニ。寺ニモ御念比ニ回向ヲナシ下サレ。志ス所ノ人者モ成佛仕リ恣ナシトテ。又良久ク泣テ言ヤウ。彼遺髮ヲ骨堂ニ納メ内ヲ拜ムニ。亡者存生ノ貌ニテ立向ヒ顔セ和悦シテ曰ク。有難キ御回向ニ預リ。殊勝ノ靈場ニ來リ。三途ノ苦患ヲ免レテ成佛シヌ。偏ニ御芳情ノ故ナリト。威儀嚴然ニシテ禮ヲ申シケルヲ見ヨリ。ゾツトシテ嬉シイヤラ。悲イヤラ。有難イヤラ。殘念ナヤラ。戀イヤラ。恐イヤラ。前後ヲ覺ヘズ。泣出シ。人ノ見目モ耻シケレバ。

賢院ト尋玉ヘト手束ヲ渡セバ、恣ナシトテ持參シ。寺僧ニ逢テ、帝包一ツヲ取出シ。是ハ我們遁レザル者ノ死セル剃髮ナリ。法名モ書付アリ。御慈悲ニ御回向ナサレ下サレ。水佛トカヤ御書下サレナバ。奥院ニ納メ度候ト云。僧聞、屈テ塔婆書佛前ニ安ジテ開眼シ。彼男ニ相渡シ。案内者ノ童子ニ言付、髮ハ骨堂ニ納メ塔婆ハ水手向場トソレト教ヘテ參詣セシム。奥ノ院ニ參リテ骨堂ニ剃髮ヲ投入テ。暫ク念佛シ再ビ内ヲ見テ。頻リニ落涙シ。後ニ大聲上テ號哭シケル故ニ。前後ニ會ヘル人皆興ヲ醒シ。サテモ深キ憂ノアル人ニコソト。何事トハ知ネド共ニ涙ヲ流シケル。童子案内シテ是ハ大師ノ御廂ナリ。拜ミ玉ヘト云ドモ更ニ聞入ズ。良久シテ立起リ御廂ヲ泣キ拜ミ。護摩堂求聞持處。木食ノ庵ナドハ。視モヤラ

●續鑛石下末

二十六

ズ。小兒ノ哭ヨリモ甚シク。前後モ辨ズ。高聲ニ號泣ホドニ。往來ノ人モ不審サウニ立住リテ回顧ル。案内ノ童子モ見目耻シケレバ。彼男ヲ捨置テ寺ニ歸リヌ。彼男涙ノ乾クコトナケレバ直ニ下山シテ。昨夜宿セシ弥兵衛力宅ニ下リ著。漸ク涙ヲ揮ヒ。御狀添玉フ故ニ。寺ニモ御念比ニ回向ヲナシ下サレ。志ス所ノ人者モ成佛仕リ恣ナシトテ。又良久ク泣テ言ヤウ。彼遺髮ヲ骨堂ニ納メ内ヲ拜ムニ。亡者存生ノ貌ニテ立向ヒ顔セ和悦シテ曰ク。有難キ御回向ニ預リ。殊勝ノ靈場ニ來リ。三途ノ苦患ヲ免レテ成佛シヌ。偏ニ御芳情ノ故ナリト。威儀嚴然ニシテ禮ヲ申シケルヲ見ヨリ。ゾツトシテ嬉シイヤラ。悲イヤラ。有難イヤラ。殘念ナヤラ。戀イヤラ。恐イヤラ。前後ヲ覺ヘズ。泣出シ。人ノ見目モ耻シケレバ。

⑥下末 26ウ

⑥下末 26オ

止ントスレドモセキ来ル涙止ラズ。聲モ惜ズ號ビケル故。寺ヨリ著玉
へ案内者ノ童子モ六借クヤアリケン。先ニ寺ニ歸ラレケレバ。寺へモ
参リ御禮モ申上タク侍レド。此淺間シキ泣顔ニテ。諸人ニ對面ス
ルモ耻カシクテ。直ニ下向仕リヌ。此後登山ナサレシ節。宜ク御禮ノ
儀頼ミ奉ルナリ。此込者ト云ハ。我等召使ヒシ婢ナリシ忍ビテ
通ヒ。只ナラヌ身トナリケレバ。本妻大ニ嫉妬テ。我前ニテハ謹ニ似
レドモ荒氣ナク當リ責使ヒ。神ニ祈リ佛ヲ頼ミ駈回り咒咀ケルヲ
見テ。不便サ恐シサ。言ニ盡シガタク。暫ク暇ヲ出スト。或町ノ裏借
屋ヲ借り。身ニツニ成マデト痛ハリ養ヒシニ。彼怨念ノ故ニヤ平産
ストイヘドモ苦痛ニ逼ラレ。予カ顔ヲ見ツメテ息絶ヌレバ。悲クテ
其剃髮ヲ高野山ニ納メ弔ヒシナリ。高野山へ登ルト云ハ。本妻ノ
怨念モ弥増ナルベシト思ヒ。商買ノ事ニ付テ。南都ニ行ト云ナシテ登
山仕リタルナリト。委細ニ懺悔シテ袂ヲシボリケル由。五七日ノ後
弥兵衛登山シテ具ニ院主ニ語リケルニゾ。奥院ノ消息尤ナリト
哀ミ弥回向セラレケル。京都宮川町ノ人屋名假名ヲモ聞シカド
近キ事ナレバ。恐レテ記セズ。恐レテモ恐ルヘキハ女人ノ嫉妬怨念
厭フテ尚厭フベキハ愛欲ノ道ナリ。此婢ハ賢クモ本妻ヲ恨ミ
ズ。得脱セルモノカナト感ズル者多カリキ。○松之坊ノ檀處出
羽最上村上郡野田村ノ名主本間善右衛門ト云者ノ妻
貞享中ニ久シク病ミ自ラ本復シ難キコトヲ知テ其里ノ真言
寺養運寺ヲ請ジ臨終ノ知識トス彼女屬續ニ及ンデ。枕ノ
上ニ二尺四方バカリノ黒雲覆ヒ時々電リノ如ク光リ閃ケリ。

●續鑛石下末

二一七

止ントスレドモセキ来ル涙止ラズ。聲モ惜ズ號ビケル故。寺ヨリ著玉
へ案内者ノ童子モ六借クヤアリケン。先ニ寺ニ歸ラレケレバ。寺へモ
参リ御禮モ申上タク侍レド。此淺間シキ泣顔ニテ。諸人ニ對面ス
ルモ耻カシクテ。直ニ下向仕リヌ。此後登山ナサレシ節。宜ク御禮ノ
儀頼ミ奉ルナリ。此込者ト云ハ。我等召使ヒシ婢ナリシ忍ビテ
通ヒ。只ナラヌ身トナリケレバ。本妻大ニ嫉妬テ。我前ニテハ謹ニ似
レドモ荒氣ナク當リ責使ヒ。神ニ祈リ佛ヲ頼ミ駈回り咒咀ケルヲ
見テ。不便サ恐シサ。言ニ盡シガタク。暫ク暇ヲ出スト。或町ノ裏借
屋ヲ借り。身ニツニ成マデト痛ハリ養ヒシニ。彼怨念ノ故ニヤ平産
ストイヘドモ苦痛ニ逼ラレ。予カ顔ヲ見ツメテ息絶ヌレバ。悲クテ
其剃髮ヲ高野山ニ納メ弔ヒシナリ。高野山へ登ルト云ハ。本妻ノ
怨念モ弥増ナルベシト思ヒ。商買ノ事ニ付テ。南都ニ行ト云ナシテ登
山仕リタルナリト。委細ニ懺悔シテ袂ヲシボリケル由。五七日ノ後
弥兵衛登山シテ具ニ院主ニ語リケルニゾ。奥院ノ消息尤ナリト
哀ミ弥回向セラレケル。京都宮川町ノ人屋名假名ヲモ聞シカド
近キ事ナレバ。恐レテ記セズ。恐レテモ恐ルヘキハ女人ノ嫉妬怨念
厭フテ尚厭フベキハ愛欲ノ道ナリ。此婢ハ賢クモ本妻ヲ恨ミ
ズ。得脱セルモノカナト感ズル者多カリキ。○松之坊ノ檀處出
羽最上村上郡野田村ノ名主本間善右衛門ト云者ノ妻
貞享中ニ久シク病ミ自ラ本復シ難キコトヲ知テ其里ノ真言
寺養運寺ヲ請ジ臨終ノ知識トス彼女屬續ニ及ンデ。枕ノ
上ニ二尺四方バカリノ黒雲覆ヒ時々電リノ如ク光リ閃ケリ。

●續鑛石下末

二一七

「⑥下末 27 才

「⑥下末 27 才

他人ハ見ズ養蓮寺ノ目ニミ見ケルガ。今息絶トスル期ニ彼女僧ノ顔ヲ守リ居ル。平生ハ國色無雙ニシテ。一笑城ヲ傾クル程ノ媚ナリシガ。只今ノ可畏ゲナル貌喩ヲ取ニ物ナシ。サテ葬送シテ一堆ノ主トス。養蓮寺引導畢テ寺ニ歸ル。道スガラ甚ダ戦慄テ火踏ニ火ヲ盛ニシ。頸指入テ假寐スルニ。今日葬セシ本間カ妻臨終ノ時ノ顔ニテ打シホレタル相養蓮寺ヲ瞻望テ枕邊ニ居シテ去ズ。一冷ジク厨ニ卧セル小豎者ヲ呼デ側ニ卧セラルニ暫クアリテ驚キ枕下ニ阿菊サマノ在テ睥睨玉アラヲソロシヤトテ逃グ。死セル者何ト来ルベキゾトテ。又呼卧シムルニ。前二同ジトテ是非ナク豎童ハ部屋ニ遣シ。一人火踏ノ櫓ニ顔差入テ慈救ノ咒ヲ唱ヘテ夜ヲ且シ。彼亡靈去ルヤト見ニ宵ニ違ハズ白眼

●續鑛石下末

二十八

テ去ザレバ。一夜ヲ三年ノ如ク覺テ曉ニモ成ケレバ。靈モ見ザレバ昨日引導ノ作法相違ノ謬アリヤト。山形ノ寶幢寺ニ行テ作法校合スルニ少モ謬モナシ。今夜モ亦復来ルヤラント手習子共二三人前後ニ卧セシムルニ。前夜ノ如ク同ク来リテ住持ヲ白眼。子共ハ皆懼怕テ逃グ若ヤ回向ノ不足ノ故ナランカト種々ニ追善シ一回ハ湯殿山ヘモ參リヌレド。毎夜行先ニ追來テ離レザレバ。高野ニ登リ弔ント思立ニ。旅行ノ宿々ニ同ク来レバアキレハテ登山スルニ。アリガタヤ高野山松ノ坊ニ至リ二三日逗留スルニ來ラザレバ。サレバトヨ女人結界ノ地ナレバ尤ナレトテ。法事營ミ位牌立丁寧ニ回向シテ下向ノ次。南都ノ伽藍ヲ拜センガ爲ニ和州ノ地ニカハリ。五条ニ宿セシ夜ノ夢ニ。彼亡女端

他人ハ見ズ養蓮寺ノ目ニミ見ケルガ。今息絶トスル期ニ彼女僧ノ顔ヲ守リ居ル。平生ハ國色無雙ニシテ。一笑城ヲ傾クル程ノ媚ナリシガ。只今ノ可畏ゲナル貌喩ヲ取ニ物ナシ。サテ葬送シテ一堆ノ主トス。養蓮寺引導畢テ寺ニ歸ル。道スガラ甚ダ戦慄テ火踏ニ火ヲ盛ニシ。頸指入テ假寐スルニ。今日葬セシ本間カ妻臨終ノ時ノ顔ニテ打シホレタル相養蓮寺ヲ瞻望テ枕邊ニ居シテ去ズ。一冷ジク厨ニ卧セル小豎者ヲ呼デ側ニ卧セシムルニ。暫クアリテ驚キ枕下ニ阿菊サマノ在テ睥睨玉アラヲソロシヤトテ逃グ。死セル者何ト来ルベキゾトテ。又呼卧シムルニ。前二同ジトテ是非ナク豎童ハ部屋ニ遣シ。一人火踏ノ櫓ニ顔差入テ慈救ノ咒ヲ唱ヘテ夜ヲ且シ。彼亡靈去ルヤト見ニ宵ニ違ハズ白眼

●續鑛石下末

二十八

テ去ザレバ。一夜ヲ三年ノ如ク覺ヘテ曉ニモ成ケレバ。靈モ見ザレバ昨日引導ノ作法相違ノ謬アリヤト。山形ノ寶幢寺ニ行テ作法校合スルニ少モ謬モナシ。今夜モ亦復来ルヤラント手習子共二三人前後ニ卧セシムルニ。前夜ノ如ク同ク来リテ住持ヲ白眼。子共ハ皆懼怕テ逃グ若ヤ回向ノ不足ノ故ナランカト種々ニ追善シ一回ハ湯殿山ヘモ參リヌレド。毎夜行先ニ追來テ離レザレバ。高野ニ登リ弔ント思立ニ。旅行ノ宿々ニ同ク来レバアキレハテ登山スルニ。アリガタヤ高野山松ノ坊ニ至リ二三日逗留スルニ來ラザレバ。サレバトヨ女人結界ノ地ナレバ尤ナレトテ。法事營ミ位牌立丁寧ニ回向シテ下向ノ次。南都ノ伽藍ヲ拜センガ爲ニ和州ノ地ニカハリ。五条ニ宿セシ夜ノ夢ニ。彼亡女端

嚴美服シ面貌和悦シテ禮謝シテ曰ク三年已來著纏ヒ奉リ。
御苦勞ナリ參ラセ忝ナシ。妾宿業重クシテ三途ニ沈ミ泛ブ瀬
モナク。平生師ノ德行ヲ貴ク隨從セシニ。日夜ニ御回向ヲ蒙リ。
殊ニ高野山ニテ追善アリガタク。頓ニ業障ヲ滅シテ善處ニ生ズ。
師ノ道行日ニ増進シテ。威德モ自在ナラント云テ。南方ヲサシテ
大空位ニ遊歩ス。夢中ナガラモ再來アラジト懷カシキ心地ニテ
長絹ノ祿ヲ引去ルト思ヘバ。目醒ヌ弥高野山ニ行ヌ松之坊ノ
使僧下向ノ節養運寺ノ直説ナリ。此養運寺後ハ山形ノ威
德院ニ移住セラル。鴻祿ノ寺ナリ。亡靈ノ威德自在ナラント告
シモ案ニ此事ヲ預メ告シナラント。寂性ノ談ナリ。サテ臨終ニ黑
雲ノ覆ヒシハ黒業ノ重キ故カ。又ハ他ノ怨靈ナドノ所爲ナランカ。
二十九年

●續鑛石下末

三年が間回向シ。後ニ高野ニテ弔シテ。亡寃得脱ノ悦ヲ告シ
ハ罪障重クシテ消シガタカリシナラシ。召罪推罪業障除成善
提ノ印明ヲ結誦シナバ。彼ノ黒色ニテ雲霧ノ如ク。衆多ノ諸ノ
鬼形ナル重罪宿障。頓ニ消除スベキヲト思フバカリナリ

二十一ニハ日牌ヲ建ル逆修ノ利益ノ事

京都堀川通道具屋喜左衛門ト云者延寶年中ニ高野山
聖方正覺院ニ詣シテ先祖ノ位牌ヲ建並ニ自身ノ逆修ノ日
牌ヲモ建ス。其後西國ニ下リ金山ノ人數ニ加リ深ク掘入ケル
ニ數日ノ大雨高山崩レテ窟道潰レケレバ。領主ヨリ多人數ニ課
セテ掘シムルニ容易ニ何ノ處カ入口ノ穴道ナルコトヲ得ガタシ。穴中
ノ數十人悉ク死セルニ。此喜左一人死セズ。安穩ニテ内ヨリソロク

嚴美服シ面貌和悦シテ禮謝シテ曰ク。三年已來著纏ヒ奉リ。
御苦勞ナリ參ラセ忝ナシ。妾宿業重クシテ三途ニ沈ミ泛ブ瀬
モナク。平生師ノ德行ヲ貴ク隨從セシニ。日夜ニ御回向ヲ蒙リ。
殊ニ高野山ニテ追善アリガタク。頓ニ業障ヲ滅シテ善處ニ生ズ。
師ノ道行日ニ増進シテ。威德モ自在ナラント云テ。南方ヲサシテ
大空位ニ遊歩ス。夢中ナガラモ再來アラジト懷カシキ心地ニテ
長絹ノ祿ヲ引去ルト思ヘバ。目醒ヌ弥高野山ニ行ヌ松之坊ノ
使僧下向ノ節養運寺ノ直説ナリ。此養運寺後ハ山形ノ威
德院ノ移住セラル。鴻祿ノ寺ナリ。亡靈ノ威德自在ナラント告
シモ案ニ此事ヲ預メ告シナラント。寂性ノ談ナリ。サテ臨終ニ黑
雲ノ覆ヒシハ黒業ノ重キ故カ。又ハ他ノ怨靈ナドノ所爲ナランカ。
二十九年

●續鑛石下末

三年が間回向シ。後ニ高野ニテ弔シテ。亡寃得脱ノ悦ヲ告シ
ハ罪障重クシテ消シガタカリシナラシ。召罪推罪業障除成善
提ノ印明ヲ結誦シナバ。彼ノ黒色ニテ雲霧ノ如ク。衆多ノ諸ノ
鬼形ナル重罪宿障。頓ニ消除スベキヲト思フバカリナリ

二十一ニハ日牌ヲ建ル逆修ノ利益ノ事

京都堀川通道具屋喜左衛門ト云者延寶年中ニ高野山
聖方正覺院ニ詣シテ先祖ノ位牌ヲ建並ニ自身ノ逆修ノ日
牌ヲモ建ス。其後西國ニ下リ金山ノ人數ニ加リ深ク掘入ケル
ニ數日ノ大雨高山崩レテ窟道潰レケレバ。領主ヨリ多人數ニ課
セテ掘シムルニ容易ニ何ノ處カ入口ノ穴道ナルコトヲ得ガタシ。穴中
ノ數十人悉ク死セルニ。此喜左一人死セズ。安穩ニテ内ヨリソロク

ト掘リテ二年メニ出ヌ。諸人不思議ナリト驚歎セザルコトナシ。則チ領主ヘ召レテ。汝ガ存命何ノ計コトカアリツルト尋ネ玉フ。喜左ガ云ク別ノ子細モ侍ラス。諸人ハ暗シ飢渴ト歎キ候ヘドモ。吾前ニ燈明アツテ暗カラズ。僧一人毎日飯ヲ持參シ玉ル故ニ飢ルコトナシト云。唯シ此出家定メテ佛神ノ御使シメナラン。汝平生何レノ神。何レ佛ヲ信仰セシトアレバ。喜左カ曰ク。何ノ信心モ候ハズ。但シ先年高野登山ノ節。先祖ノ位牌ヲ建ルトテ。老少不定ノ世ニ我モ亦今明日ヲモ知ヌ命ナレバト思ヒ。逆修ノ日牌ヲ建候ナリ。此故ニテモヤ候ヒナント云。聞人大ニ感歎シテ遙ノ高野山ニテ。日々ニ靈供茶湯燈明ヲ供ズルニ。山中ニ埋レテ黒暗ノ穴中ニ在ルニ。毎日其ノ供物ノ届キケルコト。不思議ナリ

續鑛石下末

三十

有難シトテ信心ヲ生ゼリ。喜左熟思フニ。穴中ニ食ヲ贈レル僧ハ宗ニ高野ニテ對顔セシ僧ナリト思合セケル。其喜左息災ニテ住セリ。正覺院ノ弟子義觀ノ物語リナリ。世ニ一等偏屈邪見ノ人アリ。日牌月牌ヲ建亡魂ヲ奠ルハ無益ナリト呵シテ。動モスレバ塵ヲ拂テ咆休自若タリ。是寔ニ褚ノ小キガ故ナリ。一盲衆盲ヲ引。悲イカナク。早ク逆修ノ日牌ヲ建テ。出離苦域上生都史ノ願ヲ發スベキモノナリ。○又全光院ノ檀家信州下伊奈郡福島村金田與左衛門者代々ノ庄屋ニテ家富僕從モ多キ中ニ。僕元祿八年ノ秋天龍河ニテ溺死ス。跡弔フベキ者ナケレバ。金田氏不便ヲ加ヘテ。彼ガ殘セル衣類ナドヲ賣テ。菩提所ニ贈リテ弔ヒ。殘金六百紋アリケルヲ。他人ニ預ケ

ト掘リテ二年メニ出ヌ。諸人不思議ナリト驚歎セザルコトナシ。則チ領主ヘ召レテ。汝ガ存命何ノ計コトカアリツルト尋ネ玉フ。喜左ガ云ク別ノ子細モ侍ラス。諸人ハ暗シ飢渴ト歎キ候ヘドモ。吾前ニ燈明アツテ暗カラズ。僧一人毎日飯ヲ持參シ玉ル故ニ飢ルコトナシト云。唯シ此ノ出家ハ定メテ佛神ノ御使シメナラン。汝平生何レノ神。何レ佛ヲ信仰セシトアレバ。喜左カ曰ク。何ノ信心モ候ハズ。但シ先年高野登山ノ節。先祖ノ位牌ヲ建ルトテ。老少不定ノ世ニ我モ亦今明日ヲモ知ヌ命ナレバト思ヒ。逆修ノ日牌ヲ建候ナリ。此故ニテモヤ候ヒナント云。聞人大ニ感歎シテ遙ノ高野山ニテ。日々ニ靈供茶湯燈明ヲ供ズルニ。山中ニ埋レテ黒暗ノ穴中ニ在ルニ。毎日其ノ供物ノ届キケルコト。不思議ナリ

續鑛石下末

三十

有難シトテ信心ヲ生ゼリ。喜左熟思フニ。穴中ニ食ヲ贈レル僧ハ宗ニ高野ニテ對顔セシ僧ナリト思合セケル。其喜左息災ニテ住セリ。正覺院ノ弟子義觀ノ物語リナリ。世ニ一等偏屈邪見ノ人アリ。日牌月牌ヲ建亡魂ヲ奠ルハ無益ナリト呵シテ。動モスレバ塵ヲ拂テ咆休自若タリ。是寔ニ褚ノ小キガ故ナリ。一盲衆盲ヲ引。悲イカナク。早ク逆修ノ日牌ヲ建テ。出離苦域上生都史ノ願ヲ發スベキモノナリ。○又全光院ノ檀家信州下伊奈郡福島村金田與左衛門者代々ノ庄屋ニテ家富僕從モ多キ中ニ。僕元祿八年ノ秋天龍河ニテ溺死ス。跡弔フベキ者ナケレバ。金田氏不便ヲ加ヘテ。彼ガ殘セル衣類ナドヲ賣テ。菩提所ニ贈リテ弔ヒ。殘金六百紋アリケルヲ。他人ニ預ケ

利潤ヲ重テ。高野山ニ位牌ヲ建與ベシト。心中ニ思ヒ極メテ他言
モセザリシカ。一夜彼ノ死セル僕ノ靈寢夢ニ見テ曰ク。我存生ノ
間御奉公モ心ヲ盡サズ。御恩ヲ報ズル儀モナキニ。死後御弔丁
寧ニナサレ剩ヘ高野ニ位牌ヲ建玉フベキト。御志シ。御禮ヲ述ニ
言ナシ。別シテ高野山建牌ノ事功カ淺カラズ。我先立テ其ノ
利益ヲ蒙リテ。山ノ讀經誦咒梵唄伽陀ノ聽衆ニ交リ入侍ルナ
リ。此事御禮ヲ申上シカ爲ニ來レリトテ失ヌ。金田氏亡魂ノ高
野ノ貴キ事ヲ言ヲ聞テ。弥信心ヲ增長シ。我彼レガ爲ニ建
牌ノ事ニ言モ他ニ語ラザルニ。其尚未ダ成就セザル内ニ。早ク大
師ノ御納受アツテ引接シ玉ヘルコト有難シトテ。使僧ノ下向
ヲ待得テ。件ノ六百文ニ自分ノ錢ヲ足シテ。彼僕ガ爲ニ三月

●續鑛石下末

三十一

牌ヲ立。猶又金田氏ガ先祖一族ノ靈牌マデ。遂ニ建立シテ。
祠堂金若于ヲ淨施シヌレバ。積善ノ餘慶ニヤ。弥家富子孫繁
茂セリト。快長ノ物語ナリ。徳孤ナラズ必隣リアリトハ是ナランカ
○西谷不動院ノ本尊ハ大師ノ御作ナリトテ靈驗揭焉ナリ
住持覺雄ノ代ニ明暦三年四月攝州三田九鬼氏ノ家士浦口
甚兵衛ノ令媛法名量譽妙壽ノ遺骨ニ上衣ノ小袖一領ヲ
添テ。使者ヲ以テ建牌追善ヲ頼ミ來ル。僧對面シテ件ノ骨法
名等ヲ請取り。直ニ佛壇看經處ニ差置テ。息女ノ死去ヲ悔ミ
左アリシ右ヤアリナント互ニ應對スル内ニ。彼女存生ノ貌ニテ件ノ
骨ニ先立テ本堂へ入ル。各其消息ヲ見テ驚キ速ニ讀經シテ
同向ス案ニ四月十五日ノ戌ノ下刻ナリ○又其後宥山住持ノ

利潤ヲ重テ。高野山ニ位牌ヲ建與ベシト。心中ニ思ヒ極メテ他言
モセザリシカ。一夜彼ノ死セル僕ノ靈寢夢ニ見テ曰ク。我存生ノ
間御奉公モ心ヲ盡サズ。御恩ヲ報ズル儀モナキニ。死後御弔丁
寧ニナサレ剩ヘ高野ニ位牌ヲ建玉フベキト。御志シ。御禮ヲ述ニ
言ナシ。別シテ高野山建牌ノ事功カ淺カラズ。我先立テ其ノ
利益ヲ蒙リテ。山ノ讀經誦咒梵唄伽陀ノ聽衆ニ交リ入侍ルナ
リ。此事御禮ヲ申上シカ爲ニ來レリトテ失ヌ。金田氏亡魂ノ高
野ノ貴キ事ヲ言ヲ聞テ。弥信心ヲ增長シ。我彼レガ爲ニ建
牌ノ事ニ言モ他ニ語ラザルニ。其尚未ダ成就セザル内ニ。早ク大
師ノ御納受アツテ引接シ玉ヘルコト有難シトテ。使僧ノ下向
ヲ待得テ。件ノ六百文ニ自分ノ錢ヲ足シテ。彼僕ガ爲ニ三月

●續鑛石下末

三十一

牌ヲ立。猶又金田氏ガ先祖一族ノ靈牌マデ。遂ニ建立シテ。
祠堂金若于ヲ淨施シヌレバ。積善ノ餘慶ニヤ。弥家富子孫繁
茂セリト。快長ノ物語ナリ。徳孤ナラズ必隣リアリトハ是ナランカ
○西谷不動院ノ本尊ハ大師ノ御作ナリトテ靈驗揭焉ナリ
住持覺雄ノ代ニ明暦三年四月攝州三田九鬼氏ノ家士浦口
甚兵衛ノ令媛法名量譽妙壽ノ遺骨ニ上衣ノ小袖一領ヲ
添テ。使者ヲ以テ建牌追善ヲ頼ミ來ル。僧對面シテ件ノ骨法
名等ヲ請取り。直ニ佛壇看經處ニ差置テ。息女ノ死去ヲ悔ミ
左アリシ右ヤアリナント互ニ應對スル内ニ。彼女存生ノ貌ニテ件ノ
骨ニ先立テ本堂へ入ル。各其消息ヲ見テ驚キ速ニ讀經シテ
同向ス案ニ四月十五日ノ戌ノ下刻ナリ○又其後宥山住持ノ

⑥下末31ウ

⑥下末31ウ

時寛文十三年正月廿八日ノ未明ニ寺内何許トモナク鳴動スルコト宛モ地震ニ似タリ僧俗共ニ驚愕キ是何事ナラント院内前後左右ヲ巡リ氣ヲ付テ僉議スレドモ何ノ子細モナシ合壁隣院ヲ問ニ寂然トシテ音ナケレバ宥山不審ニ思ヒ急キ不動ノ法ヲ修セラルニ振動モ止又正念誦ニ至テ灼々タル光リ物堂前ヨリ飛入り本尊ノ厨子ノ前ニ落タリ諸人モ肝ヲ潰シ落タル處ヲ普ク尋ネ覓ルニ一物モナシ。宥山ノ曰ク定テ是有縁ノ人ノ人魂ナルベシトテ。光明真言ヲ法ヲ修シテ。丁寧ニ回向セラル。其結願ノ時丹波上林ノ庄。大町村古和田與右衛門娘死シテ其骨法名ヲ持參セリ。今朝ノ震動光物ハ此ハ竈ノ早ク登山シテ回向ヲ受シナリト皆感シヌ。法名ハ圓室妙鏡

●續鑛石下末

三十二

信女ナリ○又貞享二年十一月十六日ノ朝忽然トシテ幽靈現レテ本堂ニ入ヲ寺内ノ多少同ク見ル。今日ハ遺骨持參ノ人アルベシトテ待ニ先年當院ニ召使シ御子紀州在田郡天満村ノ金助ト云者死セル遺骨ヲ其日ノ辰ノ刻ニ持參セルナリト。右三件ハ不動院伯雄ノ現ニ見聞ノ事ナリトテ語ラル○安養寺福生院龍陽寶永七年ノ七月ニ江戸ニ下向シテ呉服町ノ修生院ニ寄居ス伴僧歡導下向ノ道中ヨリ發病故ニ醫師ヲ迎ニテ療治セシムルニトテモ事ニ醫師ノ近處ニ借宅シテ養生スベシト。神田ノ乗物町ニ寓シテ看病セラル。遵程ナク快氣シヌ。龍陽モ亦熱病起リテ。又彼ノ醫師ノ療治ヲ受クルニ熱氣次第ニ増シテ八月七日ノ夜ハ別シテ發熱盛ナリ。然ルニ看病ノ者共モ皆

時寛文十三年正月廿八日ノ未明ニ寺内何許トモナク鳴動スルコト宛モ地震ニ似タリ僧俗共ニ驚愕キ是何事ナラント院内前後左右ヲ巡リ氣ヲ付テ僉議スレドモ何ノ子細モナシ合壁隣院ヲ問ニ寂然トシテ音ナケレバ宥山不審ニ思ヒ急キ不動ノ法ヲ修セラルニ振動モ止又正念誦ニ至テ灼々タル光リ物堂前ヨリ飛入り本尊ノ厨子ノ前ニ落タリ諸人モ肝ヲ潰シ落タル處ヲ普ク尋ネ覓ルニ一物モナシ。宥山ノ曰ク定テ是有縁ノ人ノ人魂ナルベシトテ。光明真言ノ法ヲ修シテ。丁寧ニ回向セラル。其結願ノ時丹波上林ノ庄。大町村古和田與右衛門娘死シテ其骨法名ヲ持參セリ。今朝ノ震動光物ハ此ハ竈ノ早ク登山シテ回向ヲ受シナリト皆感シヌ。法名ハ圓室妙鏡

●續鑛石下末

三十二

信女ナリ○又貞享二年十一月十六日ノ朝忽然トシテ幽靈現レテ本堂ニ入ヲ寺内ノ多少同ク見ル。今日ハ遺骨持參ノ人アルベシトテ待ニ先年當院ニ召使シ御子紀州在田郡天満村ノ金助ト云者死セル遺骨ヲ其日ノ辰ノ刻ニ持參セルナリト。右三件ハ不動院伯雄ノ現ニ見聞ノ事ナリトテ語ラル○安養寺福生院龍陽寶永七年ノ七月ニ江戸ニ下向シテ呉服町ノ修生院ニ寄居ス伴僧歡導下向ノ道中ヨリ發病故ニ醫師ヲ迎ニテ療治セシムルニトテモ事ニ醫師ノ近處ニ借宅シテ養生スベシト。神田ノ乗物町ニ寓シテ看病セラル。遵程ナク快氣シヌ。龍陽モ亦熱病起リテ。又彼ノ醫師ノ療治ヲ受クルニ熱氣次第ニ増シテ八月七日ノ夜ハ別シテ發熱盛ナリ。然ルニ看病ノ者共モ皆

⑥下末 32 オ

⑥下末 32 ウ

疲レテ熟睡シテ知ズ。自ラ起テ燈ヲ挑テ居ルニ。一男忽然トシテ立向ヘリ。深更ナガラ見回ル人ナラメト其ノ名ヲ問ケレバ賤夫ハ當家ニテ八年前ニ死セシ小兵衛ト申ス者ナリ。高僧是ニ旅宿シ玉ヒ朝夕法界ノ靈寢ノ爲ニ同向シ玉ハ結縁シ得脱セリ。此趣ヲモ御禮申上。猶御引導ニ預リタク存シ参リタリ。御引導ヲ垂玉ヘ。今モ親族ナキニシモアラス。此西隣五軒目ハ予ガ肉類ナリ。且我存生ノ時ノ金子モアルナレバ予カ爲ニ高野山ニテ追善ヲ勤メ候ヤウニ御傳ヘ下サレヨ。其證據ニ此上ノ小壺是ヲ彼ニ見セ。少兵衛ト名ヲ仰セラレバ點頭スベキナリ。貴僧頃日ノ發熱ハ此事ヲ申サン爲ニ予カ所爲ナリ。今夕看病人ノ疲モ熟睡入センガ爲ナリ。頓テ御熱モ醒侍ン弥

●續鑛石下末

三十三

御回向ヲ頼ミ奉ルト丁寧ニ述テ。搔消ヤウニ失ニケリ。龍陽奇怪ニ思ヒナガラ。今夜ノ始終ヲ思フニ。此比ノ發熱風寒ノ侵セルニモアラス。寔ニ亡靈ノ所爲ナラント。心中ニ咒ヲ念ジテ回向シ。翌朝モ人ニ語ラズ。此天井ニ若壺ヤアル尋ネ見ヨカシト云ルニ。皆以テ不合点ニテ。法印ノ熱ニ侵サレ証言ヤ宣フトツバヤキケル處ニ。醫師訪ニ來リ診脈シテ曰ク。疇昔ハ大熱ナリシニ。今朝ハ熱スコレモナシ。昨日ノ方劑除熱ノ加味ハ致サリシニ。奇妙ノ熱ノ醒ヤウカナト。拍掌テ驚歎シケル。龍陽昨夜中ノ亡寢ノ告ノ事ヲ語ルレバ。醫師大ニ愕キ。元來西隣ノ小兵衛トハ舊識ナレバ。即チ行テ件ノ事ヲ語ラレケレバ。各大ニ驚キ即チ走り來テ曰ク。野夫ハ昨夕御目見仕リタル小兵衛ガ弟ニテ。私モ小兵衛ト名乗

疲レテ熟睡して知ズ。自ラ起テ燈ヲ挑テ居ルニ。一男忽然トシテ立向ヘリ。深更ナガラ見回ル人ナラメト其ノ名ヲ問ケレバ賤夫ハ當家ニテ八年前ニ死セシ小兵衛ト申ス者ナリ。高僧是ニ旅宿シ玉ヒ朝夕法界ノ靈寢ノ爲ニ同向シ玉ハ結縁シ得脱セリ。此趣ヲモ御禮申上。猶御引導ニ預リタク存シ参リタリ。御引導ヲ垂玉ヘ。今モ親族ナキニシモアラス。此西隣五軒目ハ予ガ肉類ナリ。且我存生ノ時ノ金子モアルナレバ予カ爲ニ高野山ニテ追善ヲ勤メ候ヤウニ御傳ヘ下サレヨ。其證據ニ此上ノ小壺是ヲ彼ニ見セ。少兵衛ト名ヲ仰セラレバ點頭スベキナリ。貴僧頃日ノ發熱ハ此事ヲ申サン爲ニ予カ所爲ナリ。今夕看病人ノ疲モ熟睡入センガ爲ナリ。頓テ御熱モ醒侍ン弥

●續鑛石下末

三十三

御回向ヲ頼ミ奉ルト丁寧ニ述テ。搔消ヤウニ失ニケリ。龍陽奇怪ニ思ヒナガラ。今夜ノ始終ヲ思フニ。此比ノ發熱風寒ノ侵セルニモアラス。寔ニ亡靈ノ所爲ナラント。心中ニ咒ヲ念ジテ回向シ。翌朝モ人ニ語ラズ。此天井ニ若壺ヤアル尋ネ見ヨカシト云ルニ。皆以テ不合点ニテ。法印ノ熱ニ侵サレ証言ヤ宣フトツバヤキケル處ニ。醫師訪ニ來リ診脈シテ曰ク。疇昔ハ大熱ナリシニ。今朝ハ熱スコレモナシ。昨日ノ方劑除熱ノ加味ハ致サリシニ。奇妙ノ熱ノ醒ヤウカナト。拍掌テ驚歎シケル。龍陽昨夜中ノ亡寢ノ告ノ事ヲ語ルレバ。醫師大ニ愕キ。元來西隣ノ小兵衛トハ舊識ナレバ。即チ行テ件ノ事ヲ語ラレケレバ。各大ニ驚キ即チ走り來テ曰ク。野夫ハ昨夕御目見仕リタル小兵衛ガ弟ニテ。私モ小兵衛ト名乗

リ候實ニ以テ始終ヲ承リ候。希代不思議ノ事ナリ。冥土ノ人ヨリ傳語ノ事。前代未聞ノ事ナリトテ涙ヲ流ス。如何サマ天井ニ壺アリヤ尋ネ見ラレト云ハ。小兵衛登リテ尋ヌレバ棟ニ小壺アリ。弥共ニ感ジテ即チ彼壺ニ日牌ノ料金ヲ添テ。法名傳譽心契信士。元祿十一年六月十八日ニ往生セリ。宜ク御回向ヲ頼ミ奉ルト云。其人今ニ存命ニテ。親切ノ檀越ナリト。龍陽ノ直説ナリ。○又元祿十二年松平某公ノ御家中辻村權右衛門ト云士江戸ヨリ登山シテ福生院ニ著五月十四日平生志ス處ノ亡者ニ施入若干アツテ位牌ヲ建法事ヲ修シテ追善セラル今夜ハ長途ノ疲ヲ休メテ緩々ト眠リシ玉ヘトテ一室ニ睡ラシム。此士翌旦早く起テ曰ク。昨夕ハ一瞬モ睡ラズ。甚苦シム予弟アリキ。貞享三年ニ死ス。其靈現レ來テ責恨ミテ曰ク。今度兩親妻子ノ位牌逆修マデ建ラル、ニ。何トシテカ我一人ヲバ忘レ玉ゾヤト。憐ミ瞋リケル間。必ズ明朝ハ汝ガ爲ニ建牌シ回向スベシト契約シヌ。戒名ハ秀折信士ナリ。早く彼カ爲ニ御回向ヲ願ヒ奉ルト云。依テ又法事ヲ執行シテ。回向シ靈牌ヲ建ツ。辻村氏此ヨリ倍高野山ヲ信仰セラルト。龍陽ノ説ナリ。

二十二ニハ高野山ニ登ルニ肉味持參シテ天狗ニ擲レシ人事
元祿二年二月廿五日奥州棚倉ノ家中。長尾氏主君ノ用付
上京ノ次ニ。高野ニ詣シテ千手院谷ノ南藏院ニ寄宿セラル。今
日不動坂四寸岩ノ下ニテ。家来高宮團平俄ニ足癢テ一歩モ
行コト叶ハザレバ。朋輩共藥ヲ與ヘ膀胱ヲ按摩ストイヘドモ。一足モ

●續鑛石下末

三十四

リ候實ニ以テ始終ヲ承リ候。希代不思議ノ事ナリ。冥土ノ人ヨリ傳語ノ事。前代未聞ノ事ナリトテ涙ヲ流ス。如何サマ天井ニ壺アリヤ尋ネ見ラレト云ハ。小兵衛登リテ尋ヌレバ棟ニ小壺アリ。弥共ニ感ジテ即チ彼壺ニ日牌ノ料金ヲ添テ。法名傳譽心契信士。元祿十一年六月十八日ニ往生セリ。宜ク御回向ヲ頼ミ奉ルト云。其人今ニ存命ニテ。親切ノ檀越ナリト。龍陽ノ直説ナリ。○又元祿十二年松平某公ノ御家中辻村權右衛門ト云士江戸ヨリ登山シテ福生院ニ著五月十四日平生志ス處ノ亡者ニ施入若干アツテ位牌ヲ建法事ヲ修シテ追善セラル今夜ハ長途ノ疲ヲ休メテ緩々ト眠リシ玉ヘトテ一室ニ睡ラシム。此士翌旦早く起テ曰ク。昨夕ハ一瞬モ睡ラズ。甚苦シム予弟アリキ。貞享三年ニ死ス。其靈現レ來テ責恨ミテ曰ク。今度兩親妻子ノ位牌逆修マデ建ラル、ニ。何トシテカ我一人ヲバ忘レ玉ゾヤト。憐ミ瞋リケル間。必ズ明朝ハ汝ガ爲ニ建牌シ回向スベシト契約シヌ。戒名ハ秀折信士ナリ。早く彼カ爲ニ御回向ヲ願ヒ奉ルト云。依テ又法事ヲ執行シテ。回向シ靈牌ヲ建ツ。辻村氏此ヨリ倍高野山ヲ信仰セラルト。龍陽ノ説ナリ。

二十二ニハ高野山ニ登ルニ肉味持參シテ天狗ニ擲レシ人事
元祿二年二月廿五日奥州棚倉ノ家中。長尾氏主君ノ用付
上京ノ次ニ。高野ニ詣シテ千手院谷ノ南藏院ニ寄宿セラル。今
日不動坂四寸岩ノ下ニテ。家来高宮團平俄ニ足癢テ一歩モ
行コト叶ハザレバ。朋輩共藥ヲ與ヘ膀胱ヲ按摩ストイヘドモ。一足モ

●續鑛石下末

三十四

⑥下末 34 才

⑥下末 34 才

動カザレバ。如何ナル事ゾト主從途方ヲ失ヒ踰越セラルニ。上下多キ路ナレバ或ハ立留リテ不審スルモアリ。或ハ此聞玉へ急用ナリトテ過ル者モ多カリキ。中ニ一人間近ク立寄テ何事ニ斯アルゾト問。サレバ此士平生他ニ殊ナル達者ニテ。山路ハ得モノト覺ル男ナルガ。何ノ子細モナキニ。両足痿テ歩コトヲ得ズト云。彼者ノ曰ク私ハ是ヨリ三里麓ノ。伏原村武兵衛ト申者ナリ。一月ニ何个度トモナク上下仕ルニ。此等ノ消息數度見申シキ。或ハ無縁ノ亡者高野ニ登ルコトアタハズ。途中ニ徘徊シテ人ニ取著申ス事モアリ。或ハ荷物破子ノ中ニ。魚鳥ノ肉不淨ノ物ヲ入。忘レテ登ル人ハ。加様ノ御咎メモ有ナリト聞及ビ。見及ビ候ナリト語ル。團平サテハ覺ヘ侍ルゾトテ挿箱ノ中ニ堅魚アリ。取出シ捨ラレト云テ。朋輩ニ取出サ

●續鑛石下末

三十五

シ暫ク休息セル間ニ足モ健ニナリヌレバ。主從共ニ怪ミ恐レテ堅魚節ハ路傍ノ木ノ穴ニ入置テ。彼武兵衛モ同道シテ登山セリ。寺ニ到リ志ノ靈牌ナド建。奥院エ參詣シ。處々拜見シテ一宿シ。翌朝下向セシガ。昨日ノ木ノ下ニ團平件ノ鱈節ヲ取ントスルニ。俄ニ眩テ谷ヘ十間ホドモ落ヌ。如何ハシタリケン。岩上ニ立強ミ相撲ノ勢ニテエイヤ／＼ノ聲シケレバ。長尾モ若黨モ興ヲ醒シ脇道ヨリ行ントスルニ。岩山ナレバ行ベキ路ヲ知ズ。遙ニ見ルニ一丈程モ虚空ニ升リテ。暫ク手足ヲ動カセシカ。終ニ千尋ノ谷底ヘ飛落ヌ。皆愕噪ギテスベキ術モナケレバ。定メテ團平亂氣セシカ。高野山ノ御罰カトテ。此ノマ、捨置ベキニアラザレバ。種々思索スレドモ能キ策モ出ザレバ。一昨日宿セル紙谷ノ宿。若黨ヲ走ラシム。花

動カザレバ。如何ナル事ゾト主從途方ヲ失ヒ踰越セラル、ニ。上下多キ路ナレバ或ハ立留リテ不審スルモアリ。或ハ此聞玉へ急用ナリトテ過ル者モ多カリキ。中ニ一人間近ク立寄テ何事ニ斯アルゾト問。サレバ此士平生他ニ殊ナル達者ニテ。山路ハ得モノト覺ル男ナルガ。何ノ子細モナキニ。両足痿テ歩コトヲ得ズト云。彼者ノ曰ク私ハ是ヨリ三里麓ノ。伏原村武兵衛ト申者ナリ。一月ニ何个度トモナク上下仕ルニ。此等ノ消息數度見申シキ。或ハ無縁ノ亡者高野ニ登ルコトアタハズ。途中ニ徘徊シテ人ニ取著申ス事モアリ。或ハ荷物破子ノ中ニ。魚鳥ノ肉不淨ノ物ヲ入。忘レテ登ル人ハ。加様ノ御咎メモ有ナリト聞及ビ。見及ビ候ナリト語ル。團平サテハ覺ヘ侍ルゾトテ挿箱ノ中ニ堅魚アリ。取出シ捨ラレト云テ。朋輩ニ取出サ

●續鑛石下末

三十五

シ暫ク休息セル間ニ足モ健ニナリヌレバ。主從共ニ怪ミ恐レテ堅魚節ハ路傍ノ木ノ穴ニ入置テ。彼武兵衛モ同道シテ登山セリ。寺ニ到リ志ノ靈牌ナド建。奥院エ參詣シ。處々拜見シテ一宿シ。翌朝下向セシガ。昨日ノ木ノ下ニ團平件ノ鱈節ヲ取ントスルニ。俄ニ眩テ谷ヘ十間ホドモ落ヌ。如何ハシタリケン。岩上ニ立強ミ相撲ノ勢ニテエイヤ／＼ノ聲シケレバ。長尾モ若黨モ興ヲ醒シ脇道ヨリ行ントスルニ。岩山ナレバ行ベキ路ヲ知ズ。遙ニ見ルニ一丈程モ虚空ニ升リテ。暫ク手足ヲ動カセシカ。終ニ千尋ノ谷底ヘ飛落ヌ。皆愕噪ギテスベキ術モナケレバ。定メテ團平亂氣セシカ。高野山ノ御罰カトテ。此ノマ、捨置ベキニアラザレバ。種々思索スレドモ能キ策モ出ザレバ。一昨日宿セル紙谷ノ宿。若黨ヲ走ラシム。花

屋市兵衛村人十人バカリ召連テ來ル。長尾始末ヲ語り團平定テ谷底ニテ微塵ニ碎ナン。若指一ツナリトモ。拾得ハ巾ヒ得サセ尋子主ト頼メバ。花屋畏リ案内ハ能ク知ツ。谷底ヲ尋申サン。貴公ハ此事ヲ仰セラレシ爲。早ク高野ノ宿坊へ御歸リ候ヘトテ。僕一人殘シ置長尾ハ又高野ニ登リ。件ノ由ヲ語ルニ。南藏院モ驚キ。侂子二人差下シ。谷中東西南北普ク尋ルニ。漸ク團平ヲ見著テ捉ル。全身血ニ汗レ瘡アマタ所ヲ蒙リシガ。命モ全ク氣力モ衰ヘズ見ケリ。戸板ニ昇乘テ夜中ニ南藏院ニ荷ヒ入ヌ。長尾ト院主ト立合瘡ヲ改ムルニ。大小三十餘ヶ處ナリ。中ニモ額ヨリ項ヘ通リシ疵口一尺バカリ。目モ當ラレザル消息ナリ。急ギ外科ヲ呼療治セント云ニ團平ガ曰ク。我所存ノ子細アリ。瘡モ痛ミ侍ラズ。是

●續鑛石下末

三十六

見玉ヘトテ疵口ヘ手ヲ差込ケルニ。鯨ノ口ホド開キケル。人々不審シテ是直事ニアラジト。安堵セザリシカ。團平ガ云ヤウ。我此度ノ憂目ニ逢ルコト我心ヨリ起ルニアラス。大事ノ御山ヲ汗セシ祟リナリ。諸人ニ耻ヲ曝スハ見シメノ爲ナリ。其汗セシハ他ナラズ。鯨節ナヤミシ御罰ナリ。本此ノ鯨モ主命故ニ持參セリ。我ハ持マジト申セシニト屹ト立テ。長尾ニ攫著諸人立騒ギ止メントスルニ力量常ニ倍シテ冷シケレバ。院主立隔リ。汝ガ誤リナリ。汝ガ難ニ逢耻ヲ曝スモ。一世ノ主命ノ故ニアラス。皆是過去ヨリ業障厚ガ故ナリ。一世ノ業ニテ事盡ハ咎ハ主人ニアルベキ。其ノ奴トナル汝カ過去ノ業因ノ拙ナキヲ知レ。汝瞋レル血流レテ清淨ノ佛場ヲ穢スコトヲ恐レズンバ。未來モ永劫ノ苦患ヲ免ルベカラズト。種々ニ諭ケレハ漸ク靜リヌ

屋市兵衛村人十人バカリ召連テ來ル。長尾始末ヲ語り團平定

テ谷底ニテ微塵ニ碎ナン。若指一ツナリトモ。拾得ハ巾ヒ得サセン尋ネ玉ヘト頼メバ。花屋畏リ案内ハ能ク知ツ。谷底ヲ尋申サン。貴公ハ此事ヲ仰セラレシ爲。早ク高野ノ宿坊へ御歸リ候ヘトテ。僕一人殘シ置長尾ハ又高野ニ登リ。件ノ由ヲ語ルニ。南藏院モ驚キ。侂子二人差下シ。谷中東西南北普ク尋ルニ。漸ク團平ヲ見著テ捉ル。全身血ニ汗レ瘡アマタ所ヲ蒙リシガ。命モ全ク氣力モ衰ヘズ見ケリ。戸板ニ昇乘テ夜中ニ南藏院ニ荷ヒ入ヌ。長尾ト院主ト立合瘡ヲ改ムルニ。大小三十餘ヶ處ナリ。中ニモ額ヨリ項ヘ通リシ疵口一尺バカリ。目モ當ラレザル消息ナリ。急ギ外科ヲ呼療治セント云ニ團平ガ曰ク。我所存ノ子細アリ。瘡モ痛ミ侍ラズ。是

●續鑛石下末

三十六

見玉ヘトテ疵口ヘ手ヲ差込ケルニ。鯨ノ口ホド開キケル。人々不審シテ是直事ニアラジト。安堵セザリシカ。團平ガ云ヤウ。我此度ノ憂目ニ逢ルコト我心ヨリ起ルニアラス。大事ノ御山ヲ汗セシ祟リナリ。諸人ニ耻ヲ曝スハ見シメノ爲ナリ。其汗セシハ他ナラズ。鯨節ナヤミシ御罰ナリ。本此ノ鯨モ主命故ニ持參セリ。我ハ持マジト申セシニト屹ト立テ。長尾ニ攫著諸人立騒ギ止メントスルニ力量常ニ倍シテ冷シケレバ。院主立隔リ。汝ガ誤リナリ。汝ガ難ニ逢耻ヲ曝スモ。一世ノ主命ノ故ニアラス。皆是過去ヨリ業障厚ガ故ナリ。一世ノ業ニテ事盡ハ咎ハ主人ニアルベキ。其ノ奴トナル汝カ過去ノ業因ノ拙ナキヲ知レ。汝瞋レル血流レテ清淨ノ佛場ヲ穢スコトヲ恐レズンバ。未來モ永劫ノ苦患ヲ免ルベカラズト。種々ニ諭ケレハ漸ク靜リヌ

⑥下末 36ウ

⑥下末 36オ

其ヨリ長尾モ對面ナク。奥ニ引籠リ居ラレケルカ。深手ナガラ瘡モ痛ミ病ズ。一兩日ヲ經レドモ別儀ナケレバ。限りアル國本ノ暇ナレバ日數ヲ經テハ申分ナリガタシト。病者ハ寺ニ頼ミ預ケ。委曲ハ法印ノ了簡ニ任ストテ。長尾ハ下向セラル。四五日ヲ經テ彼瘡過半平愈セル時。院主病人ヲ訪ヒ。何事カアリツルト問レケレバ。御尋ノ有難サニ誠メハアルナレド申上候下向ノ時彼堅魚節ヲ取り下ラント立寄シ處ニ。其形醜キ山伏二人我兩腕ヲ取ケル故ニ狼藉者ト存ジ打伏セントノ心ニ勵ミ候處ニ。我ヲ谷ヘ押落シ。又山伏大勢出合テ予ガ手ヲ取り足ヲ取り。空エ引上。谷エ擲テ。既ニ打殺スベキ處ニ長高キ御出家一人御出アリ。其者殺スコトナカレ。只清淨ノ地ヲ汗セシバカリゾト宣ヘバ。大勢ノ山伏皆平伏シヌ。又一人ノ束帶嚴

●續鑛石下末

三十七

然トシテ冠著玉ヘル。公家様御出テアツテ仰ラレシハ。後々ノ見セシメノ爲マデナリト。板ノ如キ物ニテ頭ヲ打セ玉ヘバ。瘡ハ著侍レドモ痛ミモナク。然モ此疵十日ノ内ニ平愈スベシ。汝此事ヲ人ニ語ルコト勿レト誠シメ玉ヒケルカ。彼公家様モ御出家様モ。山伏共モ見ズナリテ。尋ル人ニ逢申候ト。一モ忘レズ語リケル。夫ヨリ五七日ノ間ニ瘡モ残りナク平愈シケレバ。團平願ヒケルハ。思モヨラヌ事ニ逢テ。長逗留仕リ万事御厄害ニ成。御禮申上ルニ言ナシ。此上ノ御慈悲ニ剃髮入道セシメ玉ヘト云。院主諾シテ。此般ノ事大師明神ノ御賞罰自ラ經テ拜セシ因縁淺カラズ。因テ出家遁世シテ。猶未來ノ得脱ヲ願フベキ事尤ノ志ナリ。サリナガラ一度故郷ニ歸リ。主人ノ暇ヲ乞。親類妻子ニモカクト知セテ。再ビ登山スベシ。剃髮

其ヨリ長尾モ對面ナク。奥ニ引籠リ居ラレケルカ。深手ナガラ瘡モ痛ミ病ズ。一兩日ヲ經レドモ別儀ナケレバ。限りアル國本ノ暇ナレバ日數ヲ經テハ申分ナリガタシト。病者ハ寺ニ頼ミ預ケ。委曲ハ法印ノ了簡ニ任ストテ。長尾ハ下向セラル。四五日ヲ經テ彼瘡過半平愈セル時。院主病人ヲ訪ヒ。何事カアリツルト問レケレバ。御尋ノ有難サニ誠メハアルナレド申上候下向ノ時彼堅魚節ヲ取り下ラント立寄シ處ニ。其形醜キ山伏二人我兩腕ヲ取ケル故ニ。狼藉者ト存ジ打伏セントノ心ニ勵ミ候處ニ。我ヲ谷ヘ押落シ。又山伏大勢出合テ予ガ手ヲ取り足ヲ取り。空エ引上。谷エ擲テ。既ニ打殺スベキ處ニ長高キ御出家一人御出アリ。其者殺スコトナカレ。只清淨ノ地ヲ汗セシバカリゾト宣ヘバ。大勢ノ山伏皆平伏シヌ。又一人ノ束帶嚴

●續鑛石下末

三十七

然トシテ冠著玉ヘル。公家様御出テアツテ仰ラレシハ。後々ノ見セシメノ爲マデナリト。板ノ如キ物ニテ頭ヲ打セ玉ヘバ。瘡ハ著侍レドモ痛ミモナク。然モ此疵十日ノ内ニ平愈スベシ。汝此事ヲ人ニ語ルコト勿レト誠シメ玉ヒケルカ。彼公家様モ御出家様モ。山伏共モ見ズナリテ。尋ル人ニ逢申候ト。一モ忘レズ語リケル。夫ヨリ五七日ノ間ニ瘡モ残りナク平愈シケレバ。團平願ヒケルハ。思モヨラヌ事ニ逢テ。長逗留仕リ万事御厄害ニ成。御禮申上ルニ言ナシ。此上ノ御慈悲ニ剃髮入道セシメ玉ヘト云。院主諾シテ。此般ノ事大師明神ノ御賞罰自ラ經テ拜セシ因縁淺カラズ。因テ出家遁世シテ。猶未來ノ得脱ヲ願フベキ事尤ノ志ナリ。サリナガラ一度故郷ニ歸リ。主人ノ暇ヲ乞。親類妻子ニモカクト知セテ。再ビ登山スベシ。剃髮

⑥下末37ウ

出家ヲ許スベシ。委悉ニ曉諭セラレケレバ。三月廿五ニ下向セシガ。同五月又登山シテ出家シ。宗覺ト号シテ。直ニ西國順禮シ。其後登山シテ五三年勤メ。只後生善處ノ勤ノ外他事ナク。發心ノ因緣少シモ藏サズ。日光御門跡エモ御聞ニ達シケル故。召出ザレ直ニ來由ヲ御聞ナサレ。兩年マデ御境内ニ逗留シ。其後奥州中村ト云所ニテ。常念佛ヲ取立ケルガ。寶永二年マデハ猶存命セル由。其後ノ事ハ便リナシ。彼長尾ハ今ニ棚倉ノ寵臣ニテ八十餘齡頃日江戸ニ隱居シテ無事ナリト。南藏院主ノ直説ナリ

二十三ハ奥院御廟ノ橋ヲ渡リ得サル人ノ事

西國大名ノ家中ニテ代々百五十石ノ祿ヲ食士弱冠ノ比ヨリ才藝拔羣ニテ主君モ殊ニ寵セラル。去ジ元祿ノ始高野へ使者

續鑛石下末

三十八

トシテ登山全光院ニ寄宿シテ。奥院へ參詣セラル。祖雲案内シテ既ニ御廟ノ橋ニ至ルニ。彼士胸騒ギ往先ヲ見ズ忽ニ眩キ顛倒ル。彼ノ僕ト祖雲ト如何ナル事ニヤト。周章惶怖ケルニ暫クアリテ起アガリテ言ク。曾テ聞シ御廟ノ橋渡リ得ザル者アリト云ハ是カ。不肖モ亦其一人ナリトテ立歸リ。心中ノ妄想悉ク懺悔シテ。明日下向アリ。主人ノ用事ヲ果シテ。妻子ヲ振捨國ヲ出宇治ノ興正寺ニテ出家シテ。堅固ニ勤メラレケルト。奥院ニテノ消息見聞セル人ノ物語リナリ。主君ノ名。士ノ名字モ聞シカド。今ニ存命ノ人ナレバ。世情ヲ守リテ記サズ。凡ソ天狗ニ抓マレ御廟ノ橋渡リ得ザル人。毎年五三人ハアリ。然レドモ其宿坊ニモ檀越ノ聞ヲ憚リテ人ニ語ラズ。況ヤ學侶方ノ僧ハ。弥深ク慎ムムへ追善ノ靈驗亡者得

出家ヲ許スベシ。委悉ニ曉諭セラレケレバ。三月廿五ニ下向セシガ。同五月又登山シテ出家シ。宗覺ト号シテ。直ニ西國順禮シ。其後登山シテ五三年勤メ。只後生善處ノ勤ノ外他事ナク。發心ノ因緣少シモ藏サズ。日光御門跡エモ御聞ニ達シケル故。召出ザレ直ニ來由ヲ御聞ナサレ。兩年マデ御境内ニ逗留シ。其後奥州中村ト云所ニテ。常念佛ヲ取立ケルガ。寶永二年マデハ猶存命セル由。其後ノ事ハ便リナシ。彼長尾ハ今ニ棚倉ノ寵臣ニテ八十餘齡頃日江戸ニ隱居シテ無事ナリト。南藏院主ノ直説ナリ

二十三ハ奥院御廟ノ橋ヲ渡リ得サル人ノ事

西國大名ノ家中ニテ代々百五十石ノ祿ヲ食士弱冠ノ比ヨリ才藝拔羣ニテ主君モ殊ニ寵セラル。去ジ元祿ノ始高野へ使者

續鑛石下末

三十八

トシテ登山全光院ニ寄宿シテ。奥院へ參詣セラル。祖雲案内シテ既ニ御廟ノ橋ニ至ルニ。彼士胸騒ギ往先ヲ見ズ忽ニ眩キ顛倒ル。彼ノ僕ト祖雲ト如何ナル事ニヤト。周章惶怖ケルニ暫クアリテ起アガリテ言ク。曾テ聞シ御廟ノ橋渡リ得ザル者アリト云ハ是カ。不肖モ亦其一人ナリトテ立歸リ。心中ノ妄想悉ク懺悔シテ。明日下向アリ。主人ノ用事ヲ果シテ。妻子ヲ振捨國ヲ出宇治ノ興正寺ニテ出家シテ。堅固ニ勤メラレケルト。奥院ニテノ消息見聞セル人ノ物語リナリ。主君ノ名。士ノ名字モ聞シカド。今ニ存命ノ人ナレバ。世情ヲ守リテ記サズ。凡ソ天狗ニ抓マレ御廟ノ橋渡リ得ザル人。毎年五三人ハアリ。然レドモ其宿坊ニモ檀越ノ聞ヲ憚リテ人ニ語ラズ。況ヤ學侶方ノ僧ハ。弥深ク慎ムムへ追善ノ靈驗亡者得

⑥下末 38ウ

⑥下末 38オ

脱ノ夢想ナド深ク秘シテ人ニ語ラズ。明神ノ告玉フガ如ク他人ノ
誠メノ爲ナレバコソ。委細ニ記シ侍ルナリ。个様ノ奇怪ノ事ハ十人ニ
五六人モ疑ヒ誹レバ。却テ重罪ヲ召カシムルガ故ニ。人ニ語ルコト勿レ
ト誠メ玉ヘルナリ。予ハ勸善懲惡因果報應ノ説ヲ好ム疣癬ニテ。山
僧ニ乞テ此一巻ヲ記ス。猶委細ニ記セバ。五七冊ニナルベシ。好事ノ
人ハ登山シテ山僧ニ逢テ虚寮ヲ正シ。猶脱漏セルヲ聞テ書續後
代ニ傳ヘ貽サルベシ。是予ガ大幸ナラン

二十四ニハ逆修日牌ノ靈驗並ニ光明真言利益ノ事

勢州一志郡岡田村川北八郎兵衛親川北加右衛門一年
自分ノ日牌ヲ高野山茅堂來藏院ノ使僧ニ頼ミテ逆修ニ建ツ
其翌年來藏院住持靜般參宮ノ因ニ兼テノ懇志ノ檀那ナ

●續鑛石下末

三十九

レハ立寄テ安否ヲ問ハ郎兵衛父昌三。十死一生ノ病床ニ卧ス。
昌三ガ妻並ニ八郎兵衛ナド出迎珍シキ御出トテ。種々ニ饗養
シテ曰ク。父昌三儀久シク病デ。大都百日餘。此度ハ本復ハアルベカラ
ズ。發病ノ初ヨリ食事一切ニ絶ス。種々口ニ叶フ物ヲ調ヘ差ルニ。一
切ニ用井ラズ。何ノ故ゾト尋ヌルニ。我ハ毎朝五ツニ高野山來藏
院ヨリ饍ヲ贈リ給フ故ニ。再ビ食スルニ及バズト。吾們何共意得ズ
毎朝遠キ高野ヘ登山モナキニト云バ。サレバ毎朝住持ノ迎ニ來リ
手ヲ引テ登リ玉フト。何サマ百餘日ノ絶食ニ存命アルハ不審千万
ナリト云。靜般ノ言ク。サモアリヌベシ。昌三曾テ登山ノ時。自ラ逆修
日牌ヲ立置ル。故ニ毎朝ノ靈供茶湯怠リナシト答ヘラルレバ。妻モ
八郎モ夢ニモ左様ノ事ヲ存セサリシカ。偏ニ日牌ノ功德ナルヘシ

脱ノ夢想ナド深ク秘シテ人ニ語ラズ。明神ノ告玉フガ如ク他人ノ
誠メノ爲ナレバコソ。委細ニ記シ侍ルナリ。个様ノ奇怪ノ事ハ十人ニ
五六人モ疑ヒ誹レバ。却テ重罪ヲ召カシムルガ故ニ。人ニ語ルコト勿レ
ト誠メ玉ヘルナリ。予ハ勸善懲惡因果報應ノ説ヲ好ム疣癬ニテ。山
僧ニ乞テ此一巻ヲ記ス。猶委細ニ記セバ。五七冊ニナルベシ。好事ノ
人ハ登山シテ山僧ニ逢テ虚寮ヲ正シ。猶脱漏セルヲ聞テ書續後
代ニ傳ヘ貽サルベシ。是予ガ大幸ナラン

二十四ニハ逆修日牌ノ靈驗並ニ光明真言利益ノ事

勢州一志郡岡田村川北八郎兵衛親川北加右衛門一年
自分ノ日牌ヲ高野山茅堂來藏院ノ使僧ニ頼ミテ逆修ニ建ツ
其翌年來藏院住持靜般參宮ノ因ニ兼テノ懇志ノ檀那ナ

●續鑛石下末

三十九

レハ立寄テ安否ヲ問ハ郎兵衛父昌三。十死一生ノ病床ニ卧ス。
昌三ガ妻並ニ八郎兵衛ナド出迎珍シキ御出トテ。種々ニ饗養
シテ曰ク。父昌三儀久シク病デ。大都百日餘。此度ハ本復ハアルベカラ
ズ。發病ノ初ヨリ食事一切ニ絶ス。種々口ニ叶フ物ヲ調ヘ差ルニ。一
切ニ用井ラズ。何ノ故ゾト尋ヌルニ。我ハ毎朝五ツニ高野山來藏
院ヨリ饍ヲ贈リ給フ故ニ。再ビ食スルニ及バズト。吾們何共意得ズ
毎朝遠キ高野ヘ登山モナキニト云バ。サレバ毎朝住持ノ迎ニ來リ
手ヲ引テ登リ玉フト。何サマ百餘日ノ絶食ニ存命アルハ不審千万
ナリト云。靜般ノ言ク。サモアリヌベシ。昌三曾テ登山ノ時。自ラ逆修
日牌ヲ立置ル。故ニ毎朝ノ靈供茶湯怠リナシト答ヘラルレバ。妻モ
八郎モ夢ニモ左様ノ事ヲ存セサリシカ。偏ニ日牌ノ功德ナルヘシ

⑥下末 39ウ

⑥下末 39オ

ト各淨信ヲ増長シケル。靜般病床ニ近付テ。昌三ノ爲ニ臨終ノ
印明ヲ授テ歸山セラレケレバ。五日過テ寶永四年正月三日正
念ニ往生セリ。逆修ノ靈供存命ノ内ニ受ク。況ヤ冥路ニ於テ
豈受ザランヤ。信ズヘシ貴ムベシ。此事子息江戸芝三田ノ新網町
加賀屋藤兵衛同四谷鹽町道具屋八兵衛ナド親リ見聞シテ
皆信心ヲ増長シストノ物語ナリ。○照明院ノ實誠閣梨三州賀
茂ノ郡助木谷見内藏連村庄右衛門ト云者ノ妻。久シク病ムヲ
加持ス。其病氣異様ニテ只皮肉ノ間ヲ五寸程ノ血筋潜リ回リ
テ遍身ヲ惱シ。一日ニ一兩度ハ決テ絶入ス。親類悲ミ歎イテ暫ク
モ傍ヲ離レズ。看病療治種々ニ手ヲ盡セドモ。日ヲ逐テ氣力
衰ヘケレバ。皆愁ノ海ニ沈ミケル。實誠思ハレケルハ。是女人ノ嫉妬

●續鑛石下末

四十

生靈ノ所爲ナルベシト。厚紙ニ光明真言ヲ梵書シテ加持シ。彼病
人ノ惱ム處ノ筋ノ上ニ粘付シム。然ルニ三日過テ。病女ガ項ノ髮ノ
中ヨリ。五寸餘ノ小蛇匍出デ。後。次第ニ氣色快氣シテ本復
シケルトテ。慇懃ニ禮謝シケリ。○和州吉野野際村麴屋某ガ
妻ハ。西河村福西氏ガ娘ナリ。或時西河ノ父ノ本ニ行テ逗留ノ
内ニ大ナル蛇鼠ヲ纏テ屋裏ヨリ板ノ間ニ落ケルニ。諸人驚キ見ルニ
蛇ハ遁トモセズ。時ニ麴屋ガ妻慈悲深クテ肌ノ守袋ヲ竹杖ニ
結付蛇ノ上ニ覆ヒ。頻ニ光明真言ヲ唱ヘケレバ。蛇即チ鼠ヲ捨テ
逃サルト。正シク見タル福西辯隆照明院ニ來テ語ル。予思フニ小蛇
女人ノ皮肉ノ間ニ入テ惱スハ。是嫉妬怨念ノ所爲ナリ。蛇鼠ヲ
吞ハ常ノ事ナレド。是亦過去億劫ノ怨讐ノ故ナリ。然ルニ光明

ト各淨信ヲ増長シケル。靜般病床ニ近付テ。昌三ノ爲ニ臨終ノ
印明ヲ授テ歸山セラレケレバ。五日過テ寶永四年正月三日正
念ニ往生セリ。逆修ノ靈供存命ノ内ニ受ク。況ヤ冥路ニ於テ
豈受ザランヤ。信ズヘシ貴ムベシ。此事子息江戸芝三田ノ新網町
加賀屋藤兵衛同四谷鹽町道具屋八兵衛ナド親リ見聞シテ
皆信心ヲ増長シストノ物語ナリ。○照明院ノ實誠閣梨三州賀
茂ノ郡助木谷見内藏連村庄右衛門ト云者ノ妻。久シク病ムヲ
加持ス。其病氣異様ニテ只皮肉ノ間ヲ五寸程ノ血筋潜リ回リ
テ遍身ヲ惱シ。一日ニ一兩度ハ決テ絶入ス。親類悲ミ歎イテ暫ク
モ傍ヲ離レズ。看病療治種々ニ手ヲ盡セドモ。日ヲ逐テ氣力
衰ヘケレバ。皆愁ノ海ニ沈ミケル。實誠思ハレケルハ。是女人ノ嫉妬

●續鑛石下末

四十

生靈ノ所爲ナルベシト。厚紙ニ光明真言ヲ梵書シテ加持シ。彼病
人ノ惱ム處ノ筋ノ上ニ粘付シム。然ルニ三日過テ。病女ガ項ノ髮ノ
中ヨリ。五寸餘ノ小蛇匍出デ。後。次第ニ氣色快氣シテ本復
シケルトテ。慇懃ニ禮謝シケリ。○和州吉野野際村麴屋某ガ
妻ハ。西河村福西氏ガ娘ナリ。或時西河ノ父ノ本ニ行テ逗留ノ
内ニ大ナル蛇鼠ヲ纏テ屋裏ヨリ板ノ間ニ落ケルニ。諸人驚キ見ルニ
蛇ハ遁トモセズ。時ニ麴屋ガ妻慈悲深クテ肌ノ守袋ヲ竹杖ニ
結付蛇ノ上ニ覆ヒ。頻ニ光明真言ヲ唱ヘケレバ。蛇即チ鼠ヲ捨テ
逃サルト。正シク見タル福西辯隆照明院ニ來テ語ル。予思フニ小蛇
女人ノ皮肉ノ間ニ入テ惱スハ。是嫉妬怨念ノ所爲ナリ。蛇鼠ヲ
吞ハ常ノ事ナレド。是亦過去億劫ノ怨讐ノ故ナリ。然ルニ光明

真言ヲ念誦スル時ハ一切ノ罪障ヲ消滅スルガ故ニ怨念止罪障
滅スガ故カクノ如クノ利益アリ。凡ソ蛇蠍百足ノ類ノ瞋恚熾盛
ナルニ土沙ヲ灑レバ瞋毒止テ整ズ。貴ンデモ猶尊ムベキハ真言ノ功德
利益。高野山ノ靈驗ノ不思議ナリ。勉ヨヤ勉ヨヤ

享保十乙巳年正月十一日

河南九華山本淨蓮體述

續鑛石下末

四十一

享保十二丁未年仲春吉日

浪華書舗

北久太郎町心齋橋

小嶋勘右衛門

本町北御堂前

梓行

毛利田庄太郎

真言ヲ念誦スル時ハ一切ノ罪障ヲ消滅スルガ故ニ。怨念止罪障
滅スルガ故ニ。カクノ如クノ利益アリ。凡ソ蛇蠍百足ノ類ノ瞋恚熾盛
ナルニ。土沙ヲ灑レバ瞋毒止テ整ズ。貴ンデモ猶尊ムベキハ真言ノ功德
利益。高野山ノ靈驗ノ不思議ナリ。勉ヨヤ勉ヨヤ

享保十乙巳年正月十一日

河南九華山本淨蓮體述

續鑛石下末

四十一

享保十二丁未年仲春吉日

浪華書舗

北久太郎町心齋橋

小嶋勘右衛門

本町北御堂前

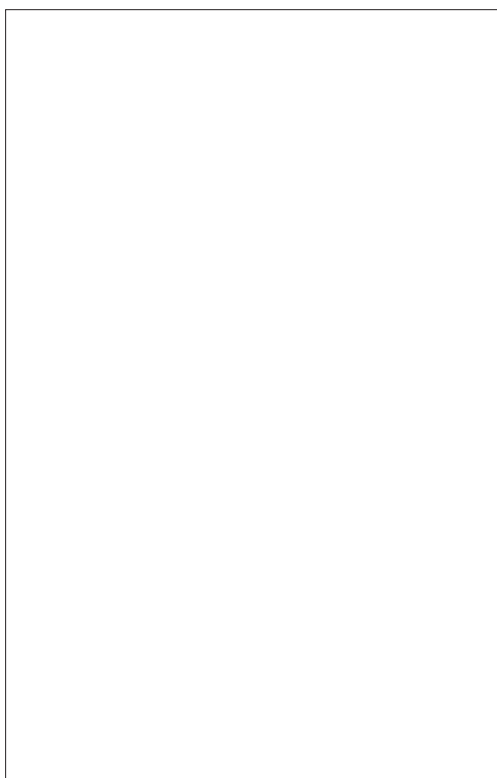
梓行

毛利田庄太郎



（せきぐち しずお
歴史文化学科）

「⑥下末裏表紙



（白丁）「⑥下末裏表紙見返

